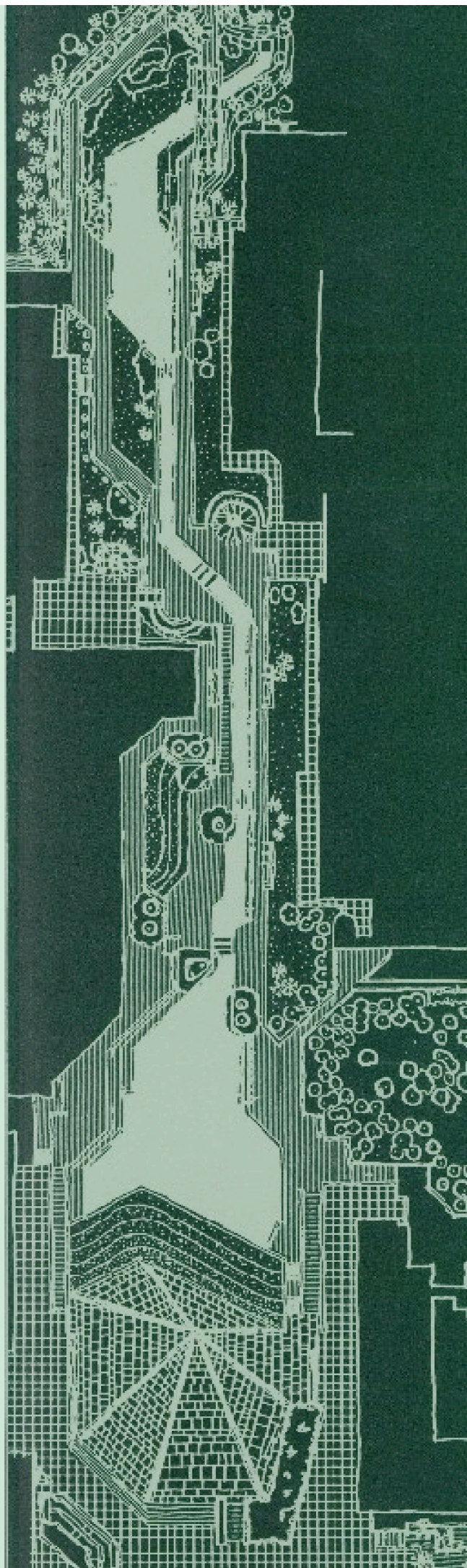


ANNUAL REPORT
2003-2004 No. 27

University of Tsukuba
Institute of Policy & Planning Sciences



まえがき

社会工学系は、社会問題（経済、経営、都市地域、国債関係等の諸問題）を工学的（分析的、数理的、計量的）な問題発見手法とアプローチによって解明し、政策的、および、計画的な意味合いを見出す、という研究上の共通目標を持つ研究・教育者の組織であった。構成員それぞれは、国内、および、国際的に認められるような質の高い研究成果を上げるように、また、良き教育者であるように努めてきた。

平成 15 年度末の社会工学系所属の教員は、東京大塚地区を含めて、教授 45 名、助教授 28 名、講師 28 名、助手 2 名の計 103 名であり、平成 14 年度末と比較して 1 名増加した。

平成 15 年度中に社会工学系に所属していた教員の研究・教育活動は、以下のようにまとめることができる。

(1) 研究活動と国際交流

社会工学系の研究活動は、平成 15 年度も全分野にわたって活発に展開された。国内外論文・著書発表数、国内外学会発表数は、平成 14 年度に比較して減少したが、多くの教員は審査付きの国際的な学術誌への論文投稿・登載のために努力した。社会工学系発行の Discussion Paper は 53 編（平成 14 年度は 47 編）であった。積極的に競争的研究資金の獲得に努めたものの、科学研究費補助金、学内プロジェクトの採択件数および獲得研究費は、ともに横這いであった。受賞は 2 件（日本建築学会奨励賞、日本建築学会関東支部第 5 回提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」優秀賞）であった。

国際交流協定は、学系として責任を持っているものが、清華大学（中華人民共和国）、韓国国土研究院、漢陽大学校（以上、大韓民国）、南オーストラリア大学、南オーストラリアフリンダース大学、アデレード大学（以上、オーストラリア連邦）の 6 協定であり、ウィーン経済・経営大学（オーストリア共和国）との協定に参加していた。これらの大学とは、若干名ながら研究者、および、学生の交流・交換が継続されていた。外国人研究者の受け入れと教員の海外出張は極めて多く、国際的な研究交流が盛んであることが示された。

(2) 教育と人事

社会工学系から教員を派遣した教育組織は、第三学群の社会工学類と国際総合学類、修士課程の経営・政策科学研究科、環境科学研究科、および、地域研究研究科、博士課程のシステム情報工学研究科、人文社会科学研究科、および、ビジネス科学研究科であった。また、大学研究センター、産学リエゾン共同研究センター、留学生センターにも若干名を派遣した。

社会工学系は教員の流動性が非常に高く、それに伴ない採用・昇任人事が経常的に行なわれてきた。そこでは、審査付き学術論文を重視した業績評価を基礎とし、一部、実務経験を加味して、開かれた透明な審査に努めてきた。しかし、流動性の高さは、退職・転出者の多さ、人事に投入する労力の多大さも意味していた。

(3) 社会工学系アニュアルレポートの今後

さて、お気付きの方もおられると思うが、これまでの記述はすべて過去形となっており、また、今後、社会工学系が果たすべき役割などについては、割愛されている。

平成16年4月1日の国立大学法人化を機に、筑波大学では、大幅な組織改革を実施した。すなわち、平成15年度末まで、すべての教員は学系に所属し、また、教員に係る人事、示達される研究費の配分、および、施設の管理は学系に任されていた。しかし、平成16年4月1日以降、これらの権限は、すべて、いわゆる大研究科が掌握することとなった。平成16年5月に発行された「筑波大学概要2004－05」において、“学系”は、「専門的な学問分野を同じくする教員で構成され、大学の教育研究の高度化、活性化に向けて、博士課程研究科等の部局の要請に応じ専門的立場からの組織評価・企画提言を行うなどの機能を果たす組織」と記されている。

平成15年度末まで社会工学系に所属していた教員の多くが所属することとなったシステム情報工学研究科は、この組織改革に最も早く順応し、また、しようとしている大研究科である。平成16年4月1日以降、すべての人事は、専攻長などが発議することとなり。施設の管理も専攻に委ねるべく、鋭意、作業が進められている。

平成15年度まで、学系を経由して教員それぞれに配分されていたいわゆる教官基本経費も、すべて、大研究科⇒専攻経由となり、教官当りと学生当りの教育研究基盤経費に区分された。すなわち、学系は、一切の予算を持たなくなった。そこで、平成15年度の決算を承認するために、平成16年6月9日に開催した社会工学系教員会議筑波地区分科会において、本アニュアルレポートの発刊の是非について諮り、専攻を経由して各教員に配分された教育研究基盤経費から発刊に係る費用を均等に拠出することによって印刷費を捻出することとなった。このような措置については、人文社会科学研究科、および、ビジネス科学研究科の所属することとなった教員各位のご賛同を得て、平成15年度に刊行した「アニュアルレポートNo.26(2002～2003)」と、ほぼ、同一の内容を保持しえることとなった。システム情報工学研究科以外の研究科に所属することとなった教員各位のご理解に、深く感謝する次第である。

継続を旨とする人事関連の書類には、所属欄に学系名が記載されているが、いずれ、その記載はなくなるものと思われる。たとえば、平成16年4月1日以降に着任した教員の辞令には、「筑波大学大学院***研究科に所属させる」という文言のみで、学系名は記されていない。したがって、当面の間、新任教員が組み入れられるべき学系は判別できるが、早ければ、平成17年度初め以降に着任する教員については、学系所属が判別できなくなる。学系にとって見れば、属している教員の範囲が不明確となり、現システム情報工学研究科長の言のように、早晚、学系は「同好の士が集まる学会的な集団」となる途をたどっていくことになる。

以上のことから、“社会工学系アニュアルレポート”は、このNo.27が最終刊となる。平成17年度にシステム情報工学研究科は、修士課程の理工学研究科と経営・政策科学研究科と合体し、これまで維持してきた5年一貫制大学院から前期2年、後期3年の区分制大学院に移行することが、ほぼ、決定している。今後のアニュアルレポート刊行は、平成16年度の現専攻と同17年度以降に再編される新専攻の裁量となる。

最後に、この「社会工学系アニュアルレポートNo.27(2003～2004)」の発刊に向けて、ご尽力をいただいた山本芳嗣社会システム工学専攻長、および、松田紀之計量ファイナンス・マネジメント専攻長に感謝いたします。また、“最後の学系アニュアルレポート”としての体裁を整えるべく、No.1からNo.26まで、すべてのアニュアルレポートをレビューするなど、多大な時間を割いていただいた大澤義明委員長はじめ社会工学系総務委員の方々の労がなければ、本アニュアルレポートの発刊に至らなかったことを、決して忘れてはならない。

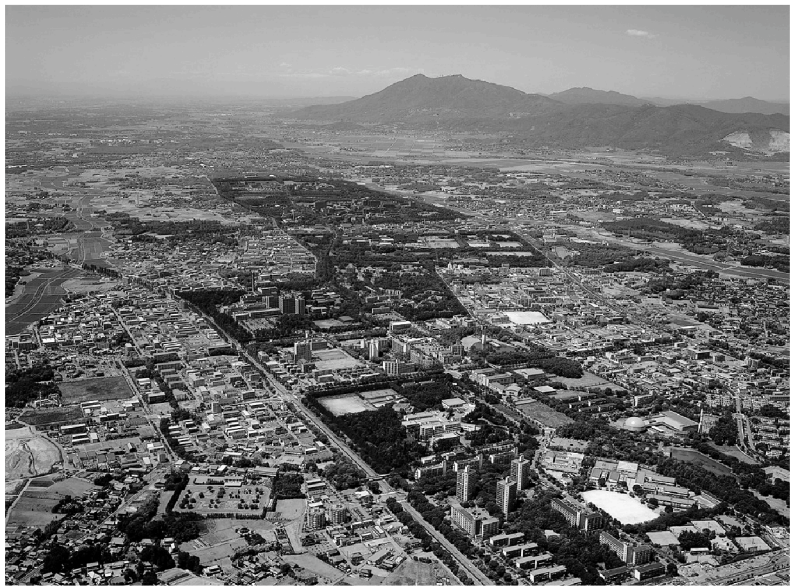
平成16年9月6日

社会工学系長
熊谷 良雄

目次

I.	概要	1
I-1	沿革	3
I-2	社会工学系および関連組織	4
II.	教員一覧	5
III.	研究活動	17
III-1	科学研究費	19
III-2	学内プロジェクト	22
III-3	受託研究・奨学寄付金	23
III-4	ファカルティ・セミナー	25
III-5	ディスカッションペーパー	28
IV.	各教員研究・教育活動	33
	教授	35
	助教授	89
	講師	124
	助手	155
	準研究員	157
V.	社会工学系を振り返って	159
V-1	歴代社会工学系長による寄稿集	161
V-2	旧・現職教員リスト	168

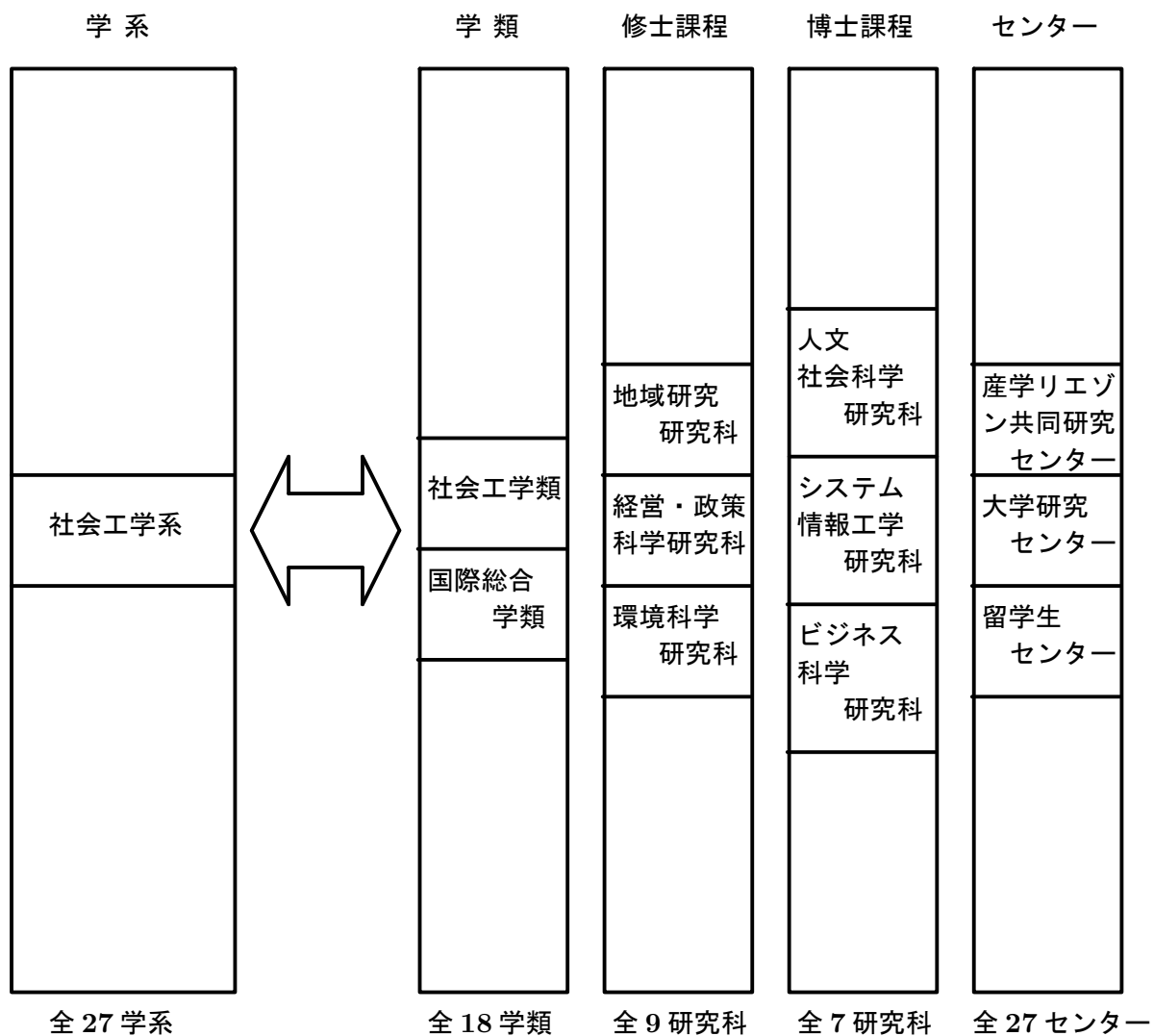
概要



I-1 沿革

- 昭 38. 9 研究学園都市を筑波地区に建設することを閣議了解
昭 45. 5 筑波研究学園都市建設法成立
昭 47. 5 筑波新大学(仮設)等 42 機関を閣議決定
昭 48. 10 筑波大学設置
昭 50. 4 社会工学系発足
社会科学部 計量計画学専攻(博士課程)発足
昭 51. 4 経営・政策科学研究科 経営・政策科学専攻(修士課程)発足
昭 52. 4 第三学群社会工学類発足
環境科学研究科(修士課程)発足
昭 53. 4 社会工学研究科計量計画学, 都市・地域計画学専攻(博士課程)発足
昭 54. 4 社会工学研究科経営工学専攻(博士課程)発足
昭 56. 3 社会工学類第一回生卒業
昭 58. 4 第三学群国際関係学類発足
平 1. 4 経営・政策科学研究科 経営システム科学専攻(夜間修士課程, 大塚地区)
発足
平 4. 4 国際政治経済学研究科(博士課程)発足
平 8. 4 経営・政策科学研究科 企業科学専攻(夜間博士課程, 大塚地区)発足
平 9. 4 社会工学研究科 計量ファイナンス・マネジメント専攻新設,
社会経済システム, システム情報数理, 都市・環境システム専攻に改組
再編
平 12. 4 システム情報工学研究科 社会システム工学専攻(博士課程, 社会経済
システム, システム情報数理, 都市・環境システム分野),
計量ファイナンス・マネジメント専攻(博士課程)発足
平 13. 4 ビジネス科学研究科 経営システム学科, 企業法学, 企業科学専攻(夜
間・前後区分制博士課程, 大塚地区),
システム情報工学研究科 リスク工学専攻(博士課程)発足
平 16. 3 総合研究棟B竣工(リスク工学専攻の教員5名が移転)
平 16. 4 筑波大学が国立大学法人に
システム情報工学研究科が部局化(人事, 予算, 施設を所掌)
学系は組織評価・企画提言を行なう組織に

I-2 社会工学系および関連組織



教員一覽 **II**



教授		
氏名 / 職名	専門分野	研究内容
石田 東生	都市交通計画 社会基盤施設計画 交通需要予測	都市公共交通政策, 交通施設整備政策の変遷, 交通計画策定プロセスにおける評価とパブリックインボルブメントの可能性と方法
糸井川 栄一 (経営・政策科学研究 科長 H15.4.1-)	都市防災計画	都市防災に関する数理化, 都市の災害脆弱性評価
大澤 義明	都市計画 地域科学	立地理論, 空間的競争モデル, 地理データ解析
太田 誠	ミクロ経済学 計量経済学	生産技術・品質・市場構造の理論的・実証的研究, 物価指数論, マクロ経済現象のミクロ理論的・実証的分析
大西 治男	情報計量経済学 計量行政学 データ解析	統計学や計量経済学の変数選択問題の解法の計算機科学的研究
大村 謙二郎	都市計画 都市計画史	土地利用計画, 計画制度, 都市計画史
小倉 昇 (ビジネス科学研究科 経営システム科学専 攻長 H14.4.1-H16.3.31)	管理会計学 業績評価 コストマネジメント	事業業績の評価, 活動基準原価計算, 組織の戦略的コントロール, マーケティング活動の会計的測定
小場瀬 令二	都市環境デザイン	環境共生住宅, 地域重視型住宅, フィンランドの都市計画, まちづくりとワークショップ
加藤 英明 (併任 H15.4.1-)	ファイナンス	行動ファイナンス, 企業の資金調達, コーポレートガバナンス
金澤 雄一郎	統計学 データ解析	一般化線形モデル, 欠損値を含んだデータの解析
金子 守	ゲーム論 認識理論 理論経済学	ゲーム論の基礎と応用 認識と経験 住宅市場
河合 忠彦	経営組織論 企業行動論	戦略的組織改革 経営組織論 企業行動論
岸本 一男	数理工学	数理ファイナンス デジタル幾何 数理政治学
木下 太志	文化人類学 人口学 生態人類学	人口理論, 出生・死亡・人口移動の数量的分析, 人類史における人口, 生態系と人口
久野 靖	プログラミング言語 プログラミング環境	並列/分散オブジェクト指向言語, 教育用オブジェクト指向言語, 情報教育, ユーザインタフェース

教授		
氏名 / 職名	専門分野	研究内容
熊谷 良雄	都市計画 都市安全管理計画	大地震による被害の想定に関する研究, 緊急時の危機・情報管理, 災害復興計画
黒田 誼	農業経済学 経済発展論	技術進歩, 農業成長および経済発展, 農業および食料政策
香田 正人	システム科学 応用数理解析 データマイニング工学	システム最適化, 感度解析, ニューラル・ネットワーク, 機械学習等の理論的研究と, それらの技術のデータマイニングや発見科学への応用
腰塚 武志	都市工学 積分幾何学	都市の物的構造を数理的に明らかにすること. 積分幾何とその応用. 移動からみた都市構造の分析
SAAVEDRA RIVANO, Neanto	International Economics Development Economics Mathematical and Computational Methods in Economics	Comparison of Development Policies in East Asia and Latin America, Relation Between Regional Economic Integration Schemes and National Development Strategies in Asia and the Americas, Issues on Transition Economies.
佐藤 亮 (社会工学類長 H15.4.1-)	経営システム工学 システム科学	経営情報システム, 離散事象システム, ビジネスプロセス工学, 一般システム理論
庄司 功	応用時系列解析	ダイナミカルシステムモデルの推定
鈴木 久敏 (企画調査室長 H14.4.1-H16.3.31)	オペレーションズ・リサーチ 数理計画法	オペレーションズ・リサーチの生産, 物流, 社会システム, 病院経営への応用
徐 華	システム制御理論 動的ゲーム理論	システム制御理論, 動的ゲーム理論とそのマネジメントサイエンス, 社会経済システムへの応用に関する研究
住田 潮	確率過程・応用確率論 情報システム/マルチメディア・ネットワーク 国際経営比較	確率計算アルゴリズム, 情報通信ネットワークの評価・解析, 日米経営比較
高木 英明 (副学長 H14.4.1-H16.3.31)	通信ネットワーク 確率モデル 待ち行列理論	マルチメディア情報通信ネットワークの性能評価モデル
樺 広計 (経営システム科学専攻長 H16.4.1-)	応用統計	品質管理などを含むビジネス科学, 環境科学, 臨床評価, 官庁統計分野などでの統計的方法の開発と応用
寺野 隆雄 (ビジネス科学研究科 企業科学専攻長 H14.4.1-H16.3.31)	計算組織理論 データマイニング 進化計算 人工知能	遺伝的アルゴリズムなどの進化計算と人工知能の統合化, ならびに, これらによる, データマイニング手法の開発と社会シミュレーションへの適用

教授		
氏名 / 職名	専門分野	研究内容
土井 正幸	地域経済学 交通経済学	発展途上国交通経済論, 港湾経済論, 国際物流論, 開発経済学, 地域経済発展とインフラストラクチャ整備, を含む。
永井 裕久	組織行動論 人的資源管理論 国際人事	経営組織における人間行動について行動科学的な分析枠組を構築し, フィールド調査を通して, 実証的に行動メカニズムを解析する研究
中村 豊	意思決定理論	不確実性下の意思決定の理論的基礎とその応用
橋本 昭洋 (社会工学系長 H14.4.1-H16.3.31)	社会システム 評価・決定論	社会システム分析, 公共部門意思決定, 評価・決定方法論, 非画一的総合評価
藤原 良叔	組合せ理論とその応用	組合せ理論/離散数学とその情報科学や統計学への応用
古川 俊一	行政学 政治学 公共政策学	地方行財政論, 地方分権と政府間関係論, 公共経営論, 比較行政制度論, 公共政策評価論
星野 靖雄	経営管理論 経営財務論 国際経営論	企業合併の計量分析, 合併企業の行動分析, 日本的経営論
松尾 博文	生産流通管理論	サプライチェーンマネジメント (SCM), オペレーション戦略, ビジネスモデル, 生産システムの最適化, スケジューリング, 在庫管理, オペレーションズリサーチ
松田 紀之	認知心理学 情報デザイン	感性的判断支援と分析, ブランドイメージ, リスク認知, セマンティックインターフェイス
宮越 龍義	金融論	日本金融システムの理論的・実証的研究
門田 安弘 (システム情報工学研究科 計量ファイナンス・マネジメント専攻長 H15.4.1-H16.3.31)	管理会計学 生産管理論	原価管理の実証分析, 分権組織の業績管理システムの実証分析, JIT 生産方式のモデル分析
焼田 党	マクロ経済学 公共経済学	マクロ経済モデルと税, 公共支出など政策効果の研究
山田 直志	医療経済学 応用ミクロ経済学	高齢者医療の部分的定額制度導入と医療セクター及びマクロ経済システムへの影響
山本 芳嗣 (社会工学研究科長・システム情報工学研究科 社会システム工学専攻長 H15.4.1-)	数理計画	均衡点問題とそのアルゴリズム, 大域的最適化
吉澤 正	応用統計 品質・環境マネジメントシステム	多元データの解析, 製品及びマネジメントシステムの開発への品質機能展開の応用

教授		
氏名 / 職名	専門分野	研究内容
横張 真	緑地環境計画	都市近郊における緑地計画の方法論に関する研究, 緑地の環境保全機能に関する研究
吉田 あつし	都市経済学 空間統計学 応用計量経済学 医療経済学	標準雇用大都市圏の形成と集積の経済, 地域間取引の経済統計モデル, 空間計量経済モデルの開発 地域医療・介護保険制度とティーパー仮説の検証, 医療保険制度の改正と医療サービスの需要及び供給の分析
吉田 健一	機械学習 データマイニング インターネット	インターネットの運用ログ, アプリケーションに関する各種情報など, 構造を持ったデータからの規則抽出とネットワーク/アプリケーション・アーキテクチャへのフィードバック
吉田 雅敏	財政学 公共経済学 経済成長論	税, 公共投資などの財政学における基本問題の研究
吉武 博通	応用経営戦略論 経営組織論	企業事例に基づく経営戦略・経営組織の実践的研究, 組織革新とコーポレート ガバナンスの研究, 先端的経営手法の研究と大学経営・自治体経営等への応用研究

助教授		
氏名 / 職名	専門分野	研究内容
有田 智一	地域科学 都市計画	産業集積, 都市・地域政策, 都市計画制度
生田 誠三	生産管理	確率的逐次決定過程の研究
イリチュ (佐藤) 美佳	データ解析 多次元データ理論	ファジィクラスタリング, 多相・多元データ解析
石井 健一	コミュニケーション 情報社会	海外の日本番組, 情報機器の普及と採用, 移動体通信の利用行動
大澤 幸生	発見科学 人口知能	予兆を発見するエージェント群 (マルチエージェント) により危機管理・機会捕獲を支援する高度情報システムに関する研究
太田 充	地域科学 都市経済学 都市計画	空間経済システムの自己組織化及び構造変化
岡本 直久	交通計画 観光計画	社会資本整備のもたらす効果の計測, 観光交通の調査及び需要推計方法
川崎 泰史	日本経済論	経済・財政・社会保障の計量分析
桑嶋 健一	研究開発／製品開発管理 経営戦略論	企業の研究開発・製品開発に関わる戦略および組織の分析
小林 信一	科学技術政策 高等教育政策	科学技術政策, 研究開発管理, 技術情報経営, 科学技術論, 高等教育政策に関する研究, とくに知識生産システムの研究, 産学連携の研究など
猿渡 康文	数理計画 組合せ最適化	最適化問題に対する高速算法の開発, 最適化理論のスポーツマネジメントへの応用に関する研究
繁野 麻衣子	数理計画 組合せ最適化	組合せ最適化問題に関する算法の開発
白波瀬 佐和子	社会学 比較社会学	公的保障と家族, 個人と世帯, 人口変動に関する社会学的分析
鈴木 勉	都市解析 立地論	都市空間・立地構造及び環境影響に関する数理的解析, 地理情報を活用した施設計画評価
鈴木 秀男	応用統計 品質管理	統計的手法と機械学習法の開発, その品質管理と商品企画への応用
高崎 善人	Development economics Resource economics Environmental economics	Environmental conservation and economic development, Rural livelihood, Humid tropics.
高橋 正文	派生証券評価 金融リスク管理	金融資本市場の価格評価, 価格変動解析, VARを中心とする市場リスク管理手法の研究
竹原 均	財務管理論	資産価格評価モデルに関する実証分析, ポートフォリオのリスク管理及び最適化に関する研究

助教授		
氏名 / 職名	専門分野	研究内容
張 勇兵	分散システム 通信ネットワーク 性能評価	分散システムにおける資源の最適配分, 移動通信システムにおける資源管理, 光ネットワークにおける波長ルーティング及び論理ネットワークの構築
津田 和彦	自然言語処理 ヒューマン・コンピュータ・ インタラクション	文書の意図理解, テキストマイニング, 文書からの知識獲得技術に関する研究
堤 盛人	地理情報科学	空間回帰モデル, 空間内挿, 地理情報システム, 不動産情報管理
永易 淳	国際金融 ファイナンス	為替と株価などの国際金融、ファイナンスの実証研究、金融政策
西尾 チヅル	マーケティング 消費者行動論	マーケティング・コミュニケーション, 消費者行動の計量モデル, エコロジカル・マーケティング
野上 佳子	数理統計学 統計学	ラグランジェ法を用いた統計的推論, 統計的決定論
藤井 英次	国際金融論 国際経済学	相対物価・為替レートのダイナミックス, 財・資本市場の国際統合
藤川 昌樹	日本建築史・都市史	日本の近世・近代都市史研究, 農村の建築ストックに関する研究
牧本 直樹	確率過程論 オペレーションズ・リサーチ	確率システム性能評価, 確率モデルの数値計算法, システムシミュレーション
山田 雄二	金融工学 数理ファイナンス 金融リスク管理	金融派生商品の価格付け理論, 最適ポートフォリオヘッジ理論, 金融リスク推定・コントロールの研究
山田 秀	統計的最適化 クオリティマネジメント	実験計画法等により設計を最適化する方法とともに, 既存の統計的手法により品質改善を全社的に展開するマネジメント体系を研究している.
吉瀬 章子	数理計画 オペレーションズ・リサーチ	線形・非線形最適化問題に対する効率のよい算法の開発
吉野 邦彦	リモートセンシング 地域環境工学	衛星リモートセンシングデータによる土地被覆・土地利用解析, 地表面の方向性分光反射特性の解析とモデル化
渡辺 俊	建築・都市計画 設計学	マルチメディア社会における都市計画・建築計画, 知的設計支援システムの設計・開発

講師		
氏名 / 職名	専門分野	研究内容
秋山 英三	ゲーム理論 力学系	限定合理性, ゲームにおける時間構造についての研究, 進化ゲーム
上市 秀雄	意思決定論 認知心理学 社会心理学	労働契約の理論, 労働法の経済分析
江口 匡太	労働経済学	労働契約の理論, 労働法の経済分析
大木 敦雄	計算機システム	プログラミング環境, ネットワーキング, ユーザインタフェース
大久保 正勝	マクロ経済学 計量経済学	異時点間の消費決定に関する実証研究, 時系列計量経済学の応用
加藤 毅	学術・科学技術政策	グローバル知識社会における大学, 若手研究者養成制度の国際比較, NPOの社会的役割
金田 直之	財務会計学	資本市場に関する実証分析, モデルを用いた理論的分析, 実験会計学
川口 大司	労働経済学 応用計量経済学	自営業者, 人種・性別差別, 人的資本
河端 瑞貴	都市構造分析 都市・交通計画 空間情報科学	都市構造に関する空間的実証分析, 空間情報科学の教育と都市分野への応用法
川邊 みどり	沿岸環境科学 沿岸域管理	東京湾沿岸環境の多面的評価, アジア沿岸域における持続的生産の可能性
近藤 文代	時系列解析 統計解析 マーケティングデータ分析	ビジネスにおける時系列データ解析および解析手法の開発
後藤 順哉	数理計画(連続最適化) 金融最適化	数理計画の金融への応用 & 解法の研究 大域的最適化
斎尾 直子	建築計画 都市・農村計画	小学校ー大学と生涯学習施設等の地域拠点施設計画, 都市ー農村の居住環境整備のための地域社会計画
TURNBULL, Stephen John	ゲーム論 情報経済 実験経済	インターネット経済(設備・システム組織, 電子商業), オープンソースソフトウェアの経済的環境
八森 正泰	離散数学 組合せ論	トポロジー的組合せ論, 離散数学におけるトポロジー的手法, およびその応用
原田 信行	応用計量経済学 中小企業経済学	マクロあるいはミクロデータによる実証分析. 中小企業の動態および政策に関する理論・実証分析.
藤原 博彦	社会情報論 会計情報論	企業情報ディスクロージャー, ビジネスモデル, コーポレートコミュニケーション

講師		
氏名 / 職名	専門分野	研究内容
水野 誠	マーケティング 消費者行動	消費者選好の相互作用と進化，長期的視点から見たマーケティング環境と戦略
三橋 平	マクロ組織行動論	組織間関係と組織バウンダリー
繆 瑩 (Miao Ying)	実験計画法 組合せ理論 情報理論	デザイン，符号，暗号の構成と分類，及び組合せアルゴリズム
村尾 修	防災空間論 都市デザイン	都市の被害想定と危険度，防災面から見た都市デザイン計画，空間情報基盤を用いたサイバーシティ構想とその応用
八重倉 孝	財務会計	会計基準設定，企業評価，投資意思決定等についての実証研究
柳原 宏和	数理統計学	非正規性の下での標本分布論とその応用
山鹿 久木	都市経済学 計量経済学	都市住宅，交通混雑，都市間環境格差の経済分析
吉田 謙太郎	環境経済・政策学 政策評価論	環境の経済評価，環境政策の経済分析，食品安全性と消費者行動
吉田 友彦	住環境整備 都市計画	既成市街地の整備手法の開発，基盤整備事業と自治体住宅政策の連携，外国人居住と基盤整備事業の関係
領家 美奈	応用統計	大規模複雑システムを対象としたシステムモデリング，システム最適化など
渡辺 真一郎	組織行動論	組織における人間行動を規定する状況要因と心理学的個人差要因の間の相互作用過程に関する研究

助手

氏名 / 職名	専門分野	研究内容
梅澤 正史	ゲーム理論 オペレーションズ・リサーチ	ゲーム理論とその応用 (特に, 協力ゲーム), ネットワーク上の費用負担問題, 経営科学の諸問題に対する経済的分析
新谷 由紀子	科学技術政策	産学官連携に関する研究

準研究員

氏名 / 職名	専門分野	研究内容
牧 雅康	リモートセンシング 空間情報解析	リモートセンシングデータと現地観測データを用いた地表面情報と分光反射率の因果関係のモデル化

研究活動 III



III-1 科学研究費

科学研究費補助金一覧表

研究種目	氏名	テーマ
基盤研究 (B)(2)	金子 守	個人の社会認識と社会・経済規範
	土井 正幸	生産基盤としての運輸整備・効率化、情報化進展、エネルギー効率化の経済分析・政策
	寺野 隆雄	多主体複雑系に基づくエージェント社会モデルの構築と適用
	椿 広計	企業の情報・通信技術投資が経営指標改善に繋がる仕組みに関する計量的研究
	山本 芳嗣	制御不能な部分システムを含む最適化問題
	腰塚 武志	移動時間分布と通過量分布による都市空間の分析
	横張 真	都市近郊における農地里山を内包した小規模物質循環システムに関する研究
	藤原 良叔	デリバティブ価格計算のための超一様分布列の構成に関する研究
	永井 裕久	グローバルプロトコルの構築に向けた営業職の商交渉に関する国際比較調査
	大澤 義明	欧州における間接税競争・税調和政策の実態照査
	基盤研究 (C)(1)	大澤 義明
基盤研究 (C)(2)	金沢 雄一郎	一般化線形モデルにおける無視できない非応答問題の研究
	宮越 龍義	日本金融不況の実態・評価・課題
	西尾 チヅル	環境保全型ライフスタイル普及のためのマーケティング・コミュニケーション
	佐藤 亮	高度に統合されたビジネスプロセスの時間特性の最適化設計法
	星野 靖雄	国際的買収、合併、合弁、全額出資の経営効果についての実証的研究
	吉瀬 章子	単調性をもたない相補性問題に対する多項式時間の解法の開発
	吉田 あつし	医療・介護サービス需要と供給の計量分析
	藤井 英次	相対価格の動的習性と小売市場の統合に関する研究

研究種目	氏名	テーマ
基盤研究 (C)(2)	山田 直志	医療政策とマクロ医療経済システム：ミクロ経済学的アプローチ
	高崎 善人	東南アジア熱帯雨林におけるコミュニティと持続的開発
	繆 瑩	組合せ的デザイン理論を用いた光直交符号の構成に関する研究
	鈴木 久敏	患者の病院選択行動に基づく第2次医療圏における病院の適正配置
	松尾 博文	サプライチェーンにおける革新的なビジネスモデルの構築
	吉田 健一	ユビキタス・ネットワーク社会におけるワンツーワン・マーケティング基盤の研究
	鈴木 勉	フロー需要に基づいた立地モデルと高速輸送網が都市空間構造に与える影響
	香田 正人	データマイニングモデルの統合と CRM ビジネスモデルのプロトタイピング
	太田 充	都市内立地の内生的決定に関する数値計算的アプローチ
	姜 晟振	紛争処理後のカンボディアにおける貧困対策
	金田 直之	企業経営者による利益操作の研究
	岸本 一男	協力支配点集合とその応用
	石田 東生	プローブカーを用いた渋滞計測と評価に関する研究
	上市 秀雄	逸脱行動が生起するプロセスと矯正方法に関する研究
萌芽研究	川辺 みどり	熱帯アジア沿岸における地域共同体による環境管理に関する研究
	渡辺 真一郎	「性格特性→内発的動機付け→継続的学習行動」因果モデルの産業・職種別分析
	中村 豊	満足化原理にもとづく限定合理的意思決定の公理論的基礎とその応用に関する研究
若手研究 (A)	三橋 平	組織衰退滅亡の過程とそのパターンに関する実証研究
若手研究 (B)	新谷 由紀子	産学連携における倫理をめぐる諸問題と倫理基準策定の研究
	小野 哲生	少子・高齢化対策としての環境税改革とその経済成長への影響
	江口 匡太	契約の不完備性と司法判断、社会規範に関する研究
	山鹿 久木	地震危険度が地価形成に与える影響
	桑嶋 健一	製薬産業の研究開発における組織能力の蓄積プロセスと企業戦略
	斎尾 直子	現代都市型地域社会における住民主体活動のアソシエーション化に関する研究
	領家 美奈	多次元データ空間探索エージェント群の設計に関する研究
	秋山 英三	社会的ジレンマにおける時間・空間構造と、協力ルールの形成・発展メカニズム

研究種目	氏名	テーマ
若手研究 (B)	後藤 順哉	半正定値計画によるクラスタリング問題の効率的解法と金融リスク分析への応用
	柳原 宏和	歪みをもち裾の重い誤差分布を用いた回帰分析法の開発
	山田 雄二	多期間設定における多次元ポートフォリオのバリュアットリスク最適化
	八森 正泰	単体的複体のトポロジー的組合せ論とグラフの非巡回的向き付け上の最適化問題の研究
	堤 盛人	不動産投資プロジェクトに内在するリスク評価のための不動産業に関する国際比較－日米英三国における不動産業の比較を中心に－
特定領域研究 (2)	大澤 幸生	ヒューマン・システム・インタラクションに基づく知識の評価と選択
	寺野 隆雄	WEBコンテンツ情報に基づくリコメンダー技法の開発
基盤研究 (A)(1) 分担	村尾 修	地震災害からの復旧・復興過程に関する日本・トルコ・台湾の国際比較研究
	斎尾 直子	中山間地域における持続発展型農村経営の方法に関する研究
基盤研究 (B)(1) 分担	江口 匡太	倒産をめぐる法制度の経済分析
	山鹿 久木	オフィスビルの容積率緩和の一般均衡経済効果の測定
	腰塚 武志	都市の交通および施設は一に関する総合的研究
特別研究員奨励費	芝崎 朱美	音声情報利用によるアクセシビリティ向上を目指した情報空間設計
	河上 哲	労働市場自由化と経済成長 一道学的CGEアプローチ
	藤井 さやか	建替を要する老朽化マンションに対する諸対策の検討
	渡辺 貴史	都市内農地の地域環境形成に果たす役割を踏まえた保全計画論

III-2 学内プロジェクト

学内プロジェクト研究費 採択一覧表

研究種目	代表者	テーマ
助成研究 (A)	黒田 諄	OECD及びアジア諸国農業の部分及び総要素生産性の比較研究
	土井 正幸	CGE (計算可能一般均衡) モデルによる経済政策評価アプローチの確率 ー高度化・応用拡大・標準化・類型化・移転可能化ー
	張勇兵	波長多重光通信システムにおける波長ルーティング方式と理論ネットワークの構築法に関する研究
助成研究 (B)	堤 盛人	通所のための送迎バス巡回スケジュール決定支援システムの実用化
	住田 潮	リアル・オプションに基づくプロジェクト最適投資戦略
	有田 智一	産業組織・産業技術・産業立地の相互関連を踏まえた産業集積要因の再検討
	門田 安弘	企業価値を向上する組織再編のための管理会計の研究
	渡辺 俊	町屋の意匠構成要素の形態文法を用いた景観シミュレーションシステムの開発
奨励研究	柳原 宏和	分布に正規性を仮定したときの共分散構造解析における非正規性の影響とそのずれに対する補正法
	繁野麻衣子	実モデルを反映したネットワーク最適化問題の拡張とアルゴリズムに関する研究
	大久保正勝	パネルデータにおける単位根・共和分検定とマクロ経済モデルの評価方法に関する研究
	斎尾 直子	小学校統廃合による地域への影響分析と地域社会の持続発展性に関する研究
	梅澤 正史	ネットワーク上の費用分担問題に対するゲーム論的考察
	秋山 英三	社会的ジレンマにおける時間・空間構造と、協ルールの形成・発展メカニズム
	八森 正泰	組合せ構造の解析における幾何学的手法
	ターンプル	自由ソフトウェアの社会的便益及び自由ソフトウェアに対しての適切な政策の研究
	川口 大司	職業訓練の効果の分析
	新谷由紀子	企業ニーズに基づいた大学の技術移転における有効な方式の研究
	村尾 修	都市の被災復興シミュレーションのための3次元GISデータベースの構築
実地調査等研究	川邊みどり	沿岸漁業を軸とした沿岸域管理の可能性ー北海道・別海町を事例にー

III-3 受託研究・奨学寄付金

一般受託研究受入一覧表

No.	氏名	研究期間	テーマ	委託者
1	熊谷 良雄	15.4.1 - 16.3.31	平成15年度 大都市における火山灰災害の影響予測評価に関する研究（火山灰災害による交通および都市活動への影響評価に関する研究）	運輸施設整備事業団
2	寺野 隆雄	15.3.26 - 16.1.31(複数年契約)	ビジネスゲームを利用したMO T教育プログラムの実現（研究費は15年度受入）	株式会社 三菱総合研究所
3	小倉 昇	15.7.25 - 15.9.20	金融機関におけるバランススコアカードの適用	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所
4	熊谷 良雄	15.4.1 - 16.3.31	大都市大震災復旧・復興プロセスにおけるコミュニティの自律的被災者救援システム	独立行政法人防災科学技術研究所
5	小林 信一	15.8.15 - 16.3.19	GMO の社会的受容を深めるための方策に関する研究	農林水産省農林水産技術会議
6	池田 三郎	15.10.1 - 16.3.31	新規環境・技術リスクへの社会的ガバナンスの国際比較分析	科学技術振興財団
7	大澤 幸生	15.4.1 - 15.9.30	自然現象・社会動向の予兆発見と利用	科学技術振興財団
8	津田 和彦	15.7.28 - 16.2.29	CTO による実践的技術市場化戦略	株式会社 三菱総合研究所
9	門田 安弘	15.9.1 - 16.1.15	技術経営プログラム教材開発	株式会社つくば研究支援センター
10	大澤 義明	15.10.31 - 16.3.31	ショッピングセンタークレオ来店者調査	ショッピングセンタークレオ来店者協議会

No.	氏名	研究期間	テーマ	委託者
11	糸井川 栄一	15.4.1 - 16.3.31	大震災時における最適消防 力運用	京都大学
12	吉田 あつし	15.12.10 - 16.3.31	医療システムと倫理（医療 システムと研究専門家組織、 保険者、民間保険機関の役 割）	日本学術振興会
13	有田 智一	16.3.1 - 16.3.31	筑波研究学園都市の科学技 術関連の集積を活用した業 務核都市の育成整備方策調 査	土浦・つくば・牛久 業務核都市整備推進 協議会

奨学寄付金一覧表

	研究担当者	研究題目	寄附者
1	大澤 義明	ゴミ焼却場の立地、広域化、景観に関する理 論的研究	財団法人 鹿島学術振興財団
2	松尾 博文	e-Business コミュニティの研究	(株) 日立製作所 システム開発 研究所
3	大村 謙二郎	開発需要構造転換時代の都市再生に関する研 究	財団法人 鹿島学術振興財団
4	小場瀬 令二	土浦の住宅地に関する研究	川鉄商事 (株) 土浦事業推進部
5	宮越 龍義	日本金融不況のコストを計測する	財団法人 村田学術振興財団
6	小場瀬 令二	東町の集合住宅の計画研究	(株) 匠建築研究室
7	高崎 善人	太平洋島嶼国における生業、共同体、そして 環境	財団法人 住友財団
8	住田 潮 山本 芳嗣 後藤 順哉	「信用リスク制御に関する問題解法」及び 「OU プロセス吸収壁問題数値解法」	みずほ第一フィナンシャル テクノロジー (株)

III-4 ファカルティ・セミナー

	年月日	報告者	所属	テーマ
1	2003 .4.17	Rene van den Brink (山本 芳嗣)	自由大学 (アムステルダム) 助教授	Permission Values for Games with a Permission Structure
2	2003 .5. 8	厚見 博 (金子 守)	筑波大学 名誉教授	Pure Exchange Equilibrium of Overlapping Generations Model
3	2003 .5.15	椋木 寛 (江口 匡太)	学習院大学経済学部	Economic Integration and Rules of Origin under International Oligopoly
4	2003 .5.29	Paul Tseng (松尾 博文)	University of Washington	Non-Interior Smoothing and Nonsmooth Methods for Symmetric Cone Complementarity Problem
5	2003 .5.23	Pankaj Chandra (松尾 博文)	Indian Institute of Management	A Framework for Modeling Coordination Mechanisms in Complex Supply Chains
6	2003 .5.30	田口 東 (腰塚 武志)	中央大学工学部情報工学科 教授	東京首都圏電車ネットワークの交通配分モデル
7	2003 .6.19	佐藤 健 (金子 守)	国立情報研究所 情報学基礎研究系 教授	解釈の順序による柔らかい制約の表現およびその計算
8	2003 .7.17	玉井 寿樹 (小野 哲生)	名古屋大学大学院 経済学研究科博士後期課程1年	Longevity, Altruism, and Endogenous Growth
9	2003 .7.24	佐々木 弾 (吉田 あつし)	東京大学社会科学研究所 助教授	Stop blaming the victim: credit discrimination without moral hazard
10	2003 .8. 1	Reha H. Tütüncü (吉瀬 章子)	Dept. of Mathematical Sciences, Carnegie Mellon University	Potential-reduction methods and continuous trajectories for linear programming
11	2003 .9. 9	梅澤 正史 (秋山 英三)	筑波大学社会学系 助手	On the Core of Minimum Cost Forest Games
12	2003 .9.18	田淵 隆俊 (金子 守)	東京大学 経済学部	Natural Agglomeration
13	2003 .9.29	新井 拓児 (門田 安弘)	東京理科大学理工学部情報科学科助手	Mean-variance hedging for discontinuous asset price processes
14	2003 .10. 1	竹原 均 (門田 安弘)	筑波大学社会学系 助教授	Stock Returns, Earnings Persistence, and Accounting Accruals: Evidence from Tokyo Stock Exchange Firms
15	2003 .10. 2	原田 信行 (金子 守)	社団法人日本経済研究センター 経済分析部 副主任 研究員	Productivity and Entrepreneurial Characteristics in New Japanese Firms

	年月日	報告者	所属	テーマ
16	2003 .10. 2	千葉 桂司 (小場瀬 令二)	関西都市整備 常務取締役	関西における連鎖型市街地整備事業
17	2003 .10. 2	内藤 久裕 (金子 守)	大阪大学 社 会経済研究所 講師	Neutrality Theorem Revisted:An Empirical In- vestigation of Public Good Provision
18	2003 .10.29	森杉 雅史 (熊谷 良雄)	名古屋大学大 学院 環境学 研究科環境専 攻 助手	経済学及びシステム工学的アプローチによる資源 利用の効率性に関する課題の抽出
19	2003 .10.29	瀬田 史彦 (熊谷 良雄)	東京大学先端 科学技術研究 センター 都 市環境システ ム分野 助手	アジア開発主義に由来する国土計画・地域格差是 正政策の存在意義とその現代的な問題点
20	2003 .10.30	松村 良平 (金子 守)	東京工業大学 大学院 社会 理工学研究科 助手	内発的動機づけを考慮したインセンティブシステ ムの設計問題について
21	2003 .10.30	草川 孝夫 (金子 守)	大阪大学大学 院経済学研究 科 博士後期 過程 3年	Two Patterns of Price Dynamics were Observed in Greenhouse Gases Emissions Trading Experi- ments:An Application of Point Equilibrium
22	2003 .11. 4	増山 篤 (熊谷 良雄)	東京大学大学 院工学系研究 科 都市工学 専攻 助手	都市現象解明のための地理情報処理技術の利用と 開発
23	2003 .11. 4	河端 瑞貴 (熊谷 良雄)	東京大学空間 情報科学研究 センター 機 関研究員	河端瑞貴の研究紹介
24	2003 .11.13	大山 昌子 (金子 守)	一橋大学経済 研究科 講師	Cost of Children and Recent Fertility Decline in Japan
25	2003 .11.19	徳丸 浩 (宮越 龍義)	日本銀行考査 局調査役	アジア通貨危機と国際機関・邦銀の対応
26	2003 .12.13	村松 正和 (吉瀬 章子)	電気通信大学 (助教授)	A Pivotting Procedure for a Class of Second- Order Cone Programming
27	2003 .12.13	脇 隼人 (吉瀬 章子)	東京工業大学 情報数理研究 科	Exploiting Sparsity in Sun of Squares of polyno- mials
28	2003 .12.13	藤澤 克樹 (吉瀬 章子)	東京電機大学 助教授・産業 技術総合研究 所研究	High Performance Grid Computing for Mathe- matical Programming
29	2003 .12.19	鈴木 宣弘 (黒田 諠)	九州大学 農 学部 教授	Free Trade Agreements and Agriculture in Asia
30	2004 .1.15	佐々木 美裕 (腰塚 武志)	南山大学 数 理情報学部 講師	ハブ・アンド・スポークネットワーク上の施設 配置問題
31	2004 .1.19	米村 紀幸 (焼田 党)	富士ゼロック ス 顧問	Changing World Trade System and Role of APEC

	年月日	報告者	所属	テーマ
32	2004 .1.22	浅野 (吉田 雅敏)	東京都立大学 経済学部 教授	Estimation of the Brazilian Consumer Demand System
33	2004 .1.26	新井 弘毅 (吉田 あつし)	大阪大学 社会経済研究所 助教授	専門職事業者と競争政策
34	2004 .1.26	渋谷 浩 (藤井 英次)	小樽商科大学 教授	International Capital and Economic Development
35	2004 .1.26	板垣 博 (金田 直之)	武蔵大学	Japanese Multinational Enterprises:Pasadox of High Operational Efficiency and Low Profitability
36	2004 .1.26	田宮 治雄 (金田 直之)	東京国際大学	Disclosure in Japan
37	2004 .1.28	新海道 晃 (住田 潮)	(株) 富士ゼ ロックス総合 教育研究所 コンピテン シー強化1部 部長	日本企業における人事管理の最新動向とインターネットの活用
38	2004 .1.29	Xuemin (Sherman) Shen (張 勇兵)	University of Waterloo	Resource and Mobility Management for Multi-Tier Wireless/Internet Interworking
39	2004 .1.30	山口 勝業 (竹原 均)	イ ボット ソ ン・ア ソ シ エーツ・ジャ パン代表取締 役社長	The Equity Risk Premium in Japan
40	2004 .2. 2	Yoshihiko Tsukuda(佃 良彦) (宮越 龍義)	東京大学	Modeling the Financial Time Series
41	2004 .2. 6	羽田 徹 (松田 紀之)	亜細亜証券印 刷 (株)	グローバルビジネスとスモールビジネス
42	2004 .2. 9	WADA,Minoru (松田 紀之)	NPO ABIC	国際経済と商社ビジネスの進化
43	2004 .2.12	谷本 伸一 (住田 潮)	パナソニック 通信株式会社 アドバイザー	パナソニックにおけるグローバル・ロジスティクスの新動向とインターネットの活用
44	2004 .2.13	八谷 まち子 (松田 紀之)	Graduate School of Law,Univ.of Kyushu	EU の拡大 (加盟国の増加) と地域統合の展望
45	2004 .2.25	魯 正鉉 (鈴木 勉)	大韓民国 漢 陽大学校 教 授	An Alternative Approach to the Economic Analysis for Pre-evaluating Infrastructure Investments
46	2004 .3. 1	Vladimir Levenshtein (藤原 良叔)	・Academy of Sciense	Combinatorial problems otivated by comma-ferr codes
47	2004 .3. 4	西條 辰義 (金子 守)	大阪大学社会 経済研究所	Secure Implementation Experiments:Do Strategy-proof Mechanisms Really Work?
48	2004 .3.13	土谷 隆 (岸本 一男)	統計数理研究 所	対称錐上の線形計画問題とその応用
49	2004 .3.31	Cresencio Montalbo Jr (石田 東生)	フィリピン大 学 助教授	ETC Acceptability in Metro Manila

III-5 ディスカッションペーパー

2003年度 社会工学系 DP(Discussion Paper Series) 一覧表

No.	著者	タイトル	登録月
No.1029	Kyota Eguchi	Damages or Reinstatement: A Note on Remedies for Illegal Dismissal	Apr.03
No.1030	山鹿久木 中川雅之 齊藤誠	市場メカニズムを通じた防災対策について: 地震リスクに関する実証研究からのインプリケーション	Apr.03
No.1031	Keiichi Kubota and Hitoshi Takehara	Return on Equity, the Cost of Capital and Income Taxation: Evidence from the Japanese Industries	Apr.03
No.1032	Jaedong Son	Customers Selection Problem Where Only One Customer Is Allowed to Be Held	Apr.03
No.1033	Jaedong Son	Customers Selection Problem Where Multiple Customers Can Be Held-Numerical Experiment-	Apr.03
No.1034	Shigeki Kano	Japanese Wage Curve: A Pseudo Panel Study	May.03
No.1035	Sung Jin Kang	Overseas Entry Decision and Ownership Strategy of Japanese Companies: Institution and Corporate Governance	May.03
No.1036	Keiko Nogami	Optimal Hypothesis Testing Under Unbiased Estimates—Application to the Logistic Distribution	May.03
No.1037	Hideaki Takagi	Autonomic Management of a University	May.03
No.1038	Natsuki Sano, Hideo Suzuki and Masato Koda	A Robust Boosting Method for Mislabeled Data	May.03
No.1039	Daiji Kawaguchi	Negative Self Selection into Self Employment among African Americans	May.03
No.1040	Daiji Kawaguchi	Are Computers at Home a form of Consumption or an Investment? A Longitudinal Analysis for Japan	May.03
No.1041	柳原宏和・大瀧慈	B-スプラインノンパラメトリック回帰モデルにおける過剰適合の回避について	May.03

No.	著者	タイトル	登録月
No.1042	Tatsuyoshi Miyakoshi and Mirzosharif Jalolov	Money-Income Causality Revisited in EGARCH: Spillovers of Monetary Policy to the Asia from the US	Jun.03
No.1043	Yoshiaki Ohsawa	Customer Mobility and Commodity Tax Competition	Jun.03
No.1044	吉田あつし 山村麻理子	老人保健制度と医療サービスの需要および供給	Jun.03
No.1045	Ushio Sumita and Kouichi Yonezawa	Stochastic Analysis of Number of Corporations in a Market Derived from Strategic Policies of Individual Corporations for Market Entry and Retreat Spillovers of Monetary Policy to the Asia from the US	Jun.03
No.1046	大竹文雄 山鹿久木	定期借家権制度と賃貸住宅市場	Jul.03
No.1047	Yoshiko Nogami	Regret region hypothesis testing using unbiased statistics—Application to the left-retracted exponential distribution.	Jul.03
No.1048	Tatsuyoshi Miyakoshi and Masakatsu Okubo	Measuring the Cost of the Japanese Financial Recession	Jul.03
No.1049	Masakatsu Okubo	Non-Separable Preferences, Terms of Trade Shocks, and the Measurement of Intertemporal Substitution	Jul.03
No.1050	Ushio Sumita, Jun-ya Gotoh and Hui Jin	Numerical Exploration of Dynamic Behavior of the Ornstein-Uhlenbeck Process via Ehrenfest Process Approximation	Jul.03
No.1051	Mamoru Kaneko and J. Jude Kline	Modeling A Player's Perspective I : Info-memory Protocols	Jul.03
No.1052	Tetsuji Yamada, Tadashi Yamada and	Chia-Ching Chen Healthcare Services Accessibility of Children in the USA	Aug.03
No.1053	Yoshiko Nogami	Optimal Hypothesis Testing under Unbiased Estimates— Applications to the Family of Retracted Distributions (I).	Aug.03
No.1054	Daiji Kawaguchi	A Market Test for Sex Discrimination: Evidence from Japanese Firm-Level Panel Data	Aug.03
No.1055	Yin-Wong Cheung and Eiji Fujii	Cross-Country Relative Price Volatility: Its Components and Effects of Market Structure	Aug.03
No.1056	Eiji Fujii	Intra and Inter-Regional Causal Linkages of Emerging Stock Markets:Evidence from Asia and Latin America in and out of Crises	Aug.03
No.1057	Yoshiaki Ohsawa	Analytical Model of Visibility of a Landmark	Aug.03

No.	著者	タイトル	登録月
No.1058	Yoshiko Nogami	(Correction) Optimal Hypothesis Testing under Unbiased Estimates– Applications to the Family of Retracted Distributions (I).	Sep.03
No.1059	Akiko Yoshise	A Homogeneous Model for P0 and P* Nonlinear Complementarity Problems	Sep.03
No.1060	Tsutomu Suzuki	Commuting and Spatial Structure in Japanese Metropolises	Sep.03
No.1061	Maiko Shigeno	A survey of combinatorial maximum flow algorithms on a network with gains	Oct.03
No.1062	河上哲	中国地域経済成長の収束過程と格差要因	Oct.03
No.1063	Yoshihiko Tsukuda and Tatsuyoshi Miyakoshi	Empirical Evidences for the Skewed Distribution of Inefficiency	Nov.03
No.1064	Mirzosharif Jalolov and Tatsuyoshi Miyakoshi	Who drives the Russian financial markets?	Nov.03
No.1065	Jun-ya Gotoh and Hiroshi Konno	Minimal Ellipsoid Circumscribing a Polytope Defined by a System of Linear Inequalities	Nov.03
No.1066	Kyota Eguchi and Kenichi Kuwashima	Who should Own Rights of Service Invention, Employees or Firms?	Nov.03
No.1067	Atsushi Yoshida and Tatsuhiro Shichijo	Spatial Clustering of Housing Construction in the Tokyo Metropolitan Area: An Application of Spatially Clustered Fixed-Effects and Spatially Correlated Random-Effects Models	Dec.03
No.1068	Ushio Sumita and Tsunehisa Ise	Structural Analysis of Optimal Investment Strategy for Project Management via Real Option Approach	Dec.03
No.1069	Tatsuyoshi Miyakoshi and Masakatsu Okubo	Measuring the Welfare Cost of the Japanese Long Stagnation	Dec.03
No.1070	Tatsuyoshi Miyakoshi	A Theoretical Assessment of the Rescue Package for Japanese Banks	Dec.03
No.1071	柳原宏和・吉本敦・能本美穂	林分成長分析のための一般化非線形混合効果モデル	Dec.03
No.1072	Eiji Fujii	Exchange rate pass-through in the deflationary Japan: How effective is the yen's depreciation for fighting deflation?	Jan.04
No.1073	Johannes Hamonangan Siregar, Yongbing Zhang, and Hideaki Takagi	Optimal Multicast Routing Using Genetic Algorithm for WDM Optical Networks	Jan.04
No.1074	Daiji Kawaguchi and Ken Yamada	The Impact of Minimum Wage on Female Employment in Japan	Jan.04

No.	著者	タイトル	登録月
No.1075	野上佳子	Nonparametric Bayesian からみた Bayes 検定論	Feb.04
No.1076	Hirokazu Yanagihara and Atsushi Yoshimoto	Statistical Procedure for Assessing the Amount of Carbon Sequestered by Sugi (Cryptomeria japonica) Plantation	Feb.04
No.1077	山田直志, 山田哲司, 曾衛紅, 陳佳青	日本の内部労働市場：被雇用者の超過労働と健康	Feb.04
No.1078	Kazuya Kurihara, Satoshi Myojo, and Yuichiro Kanazawa	An Analysis of Japanese Automobile Market in Market Equilibrium	Feb.04
No.1079	Yutaka Yonetani, Shinichiro Watanabe, and Yuichiro Kanazawa	A study on the effect of organizational family supportiveness on employees' turnover intention	Feb.04
No.1080	Atsushi Yoshida and Young-Sook Kim	Sharing Health Risk and Income Risk within Households: Evidence from Japanese Data	Mar.04
No.1081	Shinichiro Iwata and Hisaki Yamaga	The Costs and Benefits of Tenancy Rent Control in Tokyo	Mar.04

各教員研究・教育活動 **IV**



石田 東生

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) データ系列による東京と欧州都市における貨物車交通特性の比較分析, 第23回交通工学研究会発表会論文報告集, pp.321-324, 共著(石田・小林・松田), 2003年
- 2) TRAVEL SPEED AND TRAFFIC CONGESTIONS RECOGNITION ON EXPRESSWAY, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.5, pp.1881-1892, 共著(H.Ishida, H.Furuya, S.Kai, N.Okamoto), 2003年
- 3) ON-BOARD AND ROADSIDE MONITORING OF NO_x AND SPM EMISSION FROM VEHICLES, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.5, pp.2398-2407, 共著(H.Ishida, S.Kawasaki, Y.Mouri, H.Furuya, T.Kanayama), 2003年

ii) その他

- 1) 都市交通と路面電車, Civil Engineering Consultant, Vol.219, 2003 April, pp.8-11, 単著, 2003年
- 2) 交通需要予測のもたらしたものと課題, 土木学会誌, Vol.88, 2003年7月号, p.6, 単著, 2003年
- 3) 都市内貨物車政策の必要性と課題, 交通工学, No.6, Vol.38, pp.5-8, 単著, 2003年
- 4) 本州四国連絡橋公団の債務の負担の軽減を図るために平成十五年度において緊急に講ずべき特別措置に関する法案及び高速自動車道法及び沖縄振興特別措置法の一部を改正する法(参考人), 第156回国会参議院国土交通委員会会議録, 第9号, 2003年4月23日開会, 2003年
- 5) PIの現状と課題(平成15年度 総合課程 建設企画II研修), 国土交通省国土交通大学校, 2003年6月3日講義, 2003年
- 6) 公共事業のアカウントビリティを考える懇談会, 公共事業のアカウントビリティ向上を目指して(提言集), 国土交通省, 2003年8月29日, pp.12-16・28・34・38, 2003年
- 7) シーニックバイウェイ制度の意義と北海道の可能性, シーニックバイウェイ2003HOKKAIDO 開発セミナー, 2003年7月4日講演, 2003年
- 8) ITS Toolkit Provided by World Bank and Japanese Ministry of Land Infrastructure and Transport, 83RD Annual Meeting FINAL PROGRAM, JANUARY 11-15 2004, WASHINGTON, D.C., pp.126, 共著(T.Yokota, H.Ishida, K.Kato), 2004年
- 9) 交通計画とコミュニケーション, 土木計画学研究委員会『土木計画のための態度・行動変更ワークショップ』ワンデーセミナー 社会的交通マネジメントによるTDMと公共交通利用促進, pp.3-12, 2004年1月26日講演, 2004年

(2) 学会活動

- 1) アジア交通学会理事

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 交通計画特論

環境科学研究科： 国土計画論

社会工学類： 交通計画，社会工学概論及び実習，都市計画事例講義および実習，都市計画実習 I，都市計画実習 III

(2) 役職・各種委員会委員

全学： 筑波大学交通安全会理事，交通安全対策副委員長

社会工学類： カリキュラム委員長

III. 社会的活動

- 1) 国土交通省政策評価会委員
- 2) 国土交通省国土審議会専門委員
- 3) 気象庁「気象業務の評価に関する懇談会」委員
- 4) 茨城県環境審議会委員
- 5) 茨城県「百里飛行場ターミナルビル検討委員会」委員長
- 6) インドネシア国ジャカルタ首都圏総合交通計画調査フェーズ2（第3年次）総括団長

糸井川 栄一

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 小野田友美・糸井川栄一，「道路の透水性舗装による内水氾濫被害軽減に関する研究」，地域安全学会論文集，N0.5，2003年
- 2) 阿部英樹・糸井川栄一，「延焼経路ネットワークを用いた市街地防火対策における整備優先順位の最適化」，地域安全学会論文集，N0.5，2003年
- 3) 藤井啓・糸井川栄一，「地震時における消防機関による巡回に関する研究」，地域安全学会論文集，N0.5，2003年

ii) その他

- 1) Michio Miyano, Eisuke Ikuta, Akiyoshi Nishimura, Hiroshi Tanaka, Kouichi Kajiwara, Eiichi Itoigawa and Yoshio Kumagai, STUDY OF CASUALTIES DUE TO THE HYOGO-KEN NANBU EARTHQUAKE BASED ON A SURVEY OF WOODEN DETACHED HOUSES, The 13rd WCEE
- 2) Eisuke Ikuta, Michio Miyano, Fumio Nagashima, Akiyoshi Nishimura, Hiroshi Tanaka, Kouichi Kajiwara, Eiichi Itoigawa, Yoshio Kumagai: MEASUREMENT OF THE HUMAN BODY DAMAGE CAUSED BY COLLAPSED BUILDING, The 13rd WCEE
- 3) 高橋明子・糸井川栄一，「放火の現状と放火抑止要因に関する基礎的研究」，地域安全学会梗概集 No.12，2003年

- 4) 阿部英樹・繁野麻衣子・糸井川栄一,「延焼経路ネットワークを用いた市街地整備計画における建物の優先順位の導出」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会, 春季研究発表会アブストラクト集, 2003年

(2) 学会活動

- 1) 日本都市計画学会評議員 (H15.4.1~H16.3.31)
- 2) 日本都市計画学会学術委員 (H15.4.1~H16.3.31)
- 3) 地域安全学会理事 (H15.4.1~H16.3.31)
- 4) 日本建築学会 防火委員会委員 (H15.4.1~H16.3.31)
- 5) 日本建築学会 防火委員会都市防火設計小委員会幹事 (H15.4.1~H16.3.31)
- 6) 日本建築学会 都市計画委員会都市防災システム小委員会委員 (H15.4.1~H16.3.31)
- 7) 日本建築学会 地震防災総合研究特別研究委員会都市防災・復興小委員会幹事 (H15.4.1~H16.3.31)

(3) 研究助成など

- 1) 平成15年度大都市大震災軽減化特別プロジェクト研究,「大震災時における最適消防力運用」(京都大学防災研究所), (H16.4.1~H16.3.31) の受託 (研究グループの筆頭)
- 2) 平成15年度大都市大震災軽減化特別プロジェクト委託研究,「大震災時におけるコミュニティの自律的相互救済に関する実態分析」(独立行政法人防災科学技術研究所), (H15.4~H16.3.31) の受託 (研究グループの一人)
- 3) 平成15年度運輸分野における基礎的研究推進制度,「大都市における火山灰災害の影響予測評価に関する研究(火山灰災害による交通および都市活動への影響評価)」(運輸施設整備事業団) (H15.4~H16.3.31) の受託 (研究グループの一人)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 都市安全管理特論・都市安全管理特講

経営・政策科学研究科： 公共政策：理論と実践, 地区整備計画

社会工学類： 都市計画実習 I, 社会工学情報処理実習 II

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系： 研究計画委員長

経営・政策科学研究科： 研究科長

III. 社会的活動

- 1) 第16期火災予防審議会委員, 東京消防庁, (H15.8.25~H17.3.31)
- 2) (財)東京防災指導協会 調査研究専門委員, (H15.8.1~J16.7.31)
- 3) 「防災性能評価マニュアル作成検討委員会」委員長, (財)国土技術研究センター (H15.8.27~H16.3.31)
- 4) 震害連鎖研究委員会委員, (財)地震予知総合研究振興会 (H15.4.1~H16.3.31)

大澤 義明

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Y.Ohsawa(2003): A spatial tax harmonization model. *European Economic Review*, 47(3), pp.443-459.
- 2) Y.Ohsawa and T.Koshizuka(2003): Two-dimensional fiscal competition. *Journal of Economic Geography*, 3(3), pp.275-287.
- 3) Y.Ohsawa and K.Tamura(2003): Efficient location for a semi-obnoxious facility. *Annals of Operations Research*, 123, pp.173-188.
- 4) 宮川雅至, 大澤義明 (2003): 迂回距離と最短距離. 日本都市計画学会第 38 回学術研究発表論文集, pp.439-444.
- 5) 尾崎尚也, 西村正志, 大澤義明 (2003): 面整備に係る市町村数と市町村合併の効果. 日本都市計画学会第 38 回学術研究発表論文集, pp.445-450.
- 6) 田村一軌, 腰塚武志, 大澤義明 (2003): 移動効率および通過量に着目した一方通行規制の評価. 日本都市計画学会第 38 回学術研究発表論文集, pp.145-150.

(2) 学会活動

- 1) オペレーションズ・リサーチ学会論文誌編集委員会委員
- 2) オペレーションズ・リサーチ学会機関誌編集委員会委員
- 3) 応用地域学会運営委員
- 4) 都市計画学会学術発表会, 日本建築学会計画系論文誌, 地理情報システム学会論文誌, 応用地域学研究, *Papers in Regional Science*, *Scandinavian Journal of Economics*, *Journal of Operations Research of Japan* の査読

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究 (C), 「ランドマーク景観・緑地景観の数理評価モデル」, 代表者.
- 2) 科学研究費, 基盤研究 (B), 「欧州における間接税競争・税調和政策の実態調査」, 代表者.
- 3) 鹿島学術振興財団 2002 年度研究助成「ゴミ焼却場の立地, 広域化, 景観に関する理論的研究」, 代表者.
- 4) 受託研究「平成 15 年度ショッピングセンタークレオ来店調査」. ショッピングセンタークレオ入店者協議会, 代表者.

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科: 地域計量理論

環境科学研究科: 立地環境論

社会工学類： 都市計画数理，都市計画事例講義及び実習，都市計画実習 III，都市構造論，自由演習「つくばの景観を考える」

総合科目： 都市・地域・環境を考える

(2) 役職・各種委員会委員

全学： 高大連携副委員長

社会工学系： 総務委員長

システム情報工学研究科： パンフレット委員長

環境科学研究科： 就職委員

社会工学類： カリキュラム委員，学類カリキュラム戦略検討委員会

III. 社会的活動

- 1) 茨城県環境影響評価審査会委員
- 2) スーパー・サイエンス・ハイスクール運営指導委員会委員
- 3) 取手市補助金等検討委員会委員長
- 4) 取手市新エネルギー導入事業化調査委員会委員長
- 5) 守谷市都市計画審議会副委員長
- 6) 守谷市国土交通省所管公共事業再評価委員会委員

太田 誠

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) “Long-Run Matching Relationship in the Japanese Labor Market: A Panel Cointegration Approach”, accepted by Empirical Economics. (Shigeki Kano と共著)
- 2) “Estimating A Matching Function and Regional Matching Efficiencies: Japanese Panel Data for 1973-1999”, accepted by Japan and the World Economy. (Shigeki Kano と共著)

ii) その他

- 1) “Impacts of Japanese and the US Monetary Policies on Asian Emerging Markets”, Unpublished, April 2003. (Lixing Sun と共著)

(2) 学会活動

- 1) 日本経済学会理事

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 計量経済学特論，数量経済分析特論

経営・政策科学研究科： 数量経済分析

社会工学類： マクロ経済学，国際マクロ経済学

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学類： 非常勤講師審査委員

(3) 他大学における教育活動

埼玉大学経済学部非常勤講師（経済統計学）

大学評価・学位授与機構「大学評価委員会評価員」

ある機関の審査委員（任期終了まで匿名）

大西 治男

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 第8次定員モデルについて―道府県・指定都市・中核市・市分一，第19次地方公共団体定員管理会報告書，総務省（共著）

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 情報計量経済学

経営・政策科学研究科： 計量経済学I，計量モデル選択論

社会工学類： 計量経済学，社会経済実習

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系： 予算委員長

III. 社会的活動

- 1) 総務省の地方公共団体定員管理研究会で，独自開発した知的統計システムO E P Pを提
供して適切な定員モデルの作成に貢献し，地方公務員を相当数削減した。

大村 謙二郎

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 『現代都市法の新展開―持続可能な都市発展と住民参加― ドイツ・フランス』（原田純
孝・大村謙二郎編），東京大学社会科学研究所，2004.03
- 2) 「積雪寒冷都市における冬期の居住地相隣環境問題に関する研究―札幌市を事例として」
共著，2003年10月『都市住宅学』第43号，pp.132-137

- 3) 「首都圏地方自治体における生産緑地の買い取り請求と追加指定に関する運用実態の検討」共著, 2003年10月『都市住宅学』第43号, pp.138-143
- 4) 「中高層建築物紛争予防条例」における「調停」制度の課題—政令指定都市を事例として—」共著, 2003年10月『都市計画論文集』第38-3号, pp.193-198
- 5) 「ドイツ, イギリスとの比較による日本のプロジェクト型都市計画提案の審査手続きに関する研究—効果的な都市再生特別地区の運用・活用に向けて—」共著, 2003年10月『都市計画論文集』第38-3号, pp.337-342
- 6) 「ドイツにおける自治体都市計画プランナーの職能形成に関する調査」共著, 2003年10月『都市計画論文集』第38-3号, pp.343-348
- 7) An application of eco-physical planning method to determine land use sustainability on hill slope environment for development of highland cities in Malaysia, joint work, in “ Proceedings International Symposiumu on City Planning 2003 ” 26 Aug. 2003, The City Planning Institute of Japan, pp.72-81
- 8) The role of urban self-build housing in developing countries:a case study of Nairobi, Kenya, joint work, in “ Proceedings International Symposiumu on City Planning 2003 ” 26 Aug. 2003, The City Planning Institute of Japan, pp.82-89
- 9) Implication of Clustered Gated Communities on Urban Space: A Preliminary Investigation in Quezon City, Metro Manila, joint work, in “ Proceedings International Sympos-iumu on City Planning 2003 ” 26 Aug. 2003, The City Planning Institute of Japan, pp.185-194
- 10) Research on the Amendments of Taipei City Zoning Regulation, joint work, in “ Proceedings International Symposiumu on City Planning 2003 ” 26 Aug. 2003, The City Planning Institute of Japan, pp.260-269
- 11) Relocation of Capital Function in Japan: The Criteria for Relocation of Capital Functions and Conflict among the Proposed Sites in Japan, in “ Proceeding of the International Symposium on Planning Policy for Korea’s New Capital City ”, Korea Planners Association, 2003.10.24, pp.95-108

(2) 学会活動

- 1) 日本都市計画学会評議員
- 2) 日本都市計画学会国際委員会委員
- 3) 都市住宅学会副会長
- 4) 都市住宅学会誌「都市住宅学」編集委員長

(3) 研究助成など

- 1) 鹿島学術振興財団 2002 年度研究助成

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 比較都市計画史特論
環境科学研究科： 都市環境計画原論

社会工学類： 都市計画実習 II, 土地利用計画, 都市計画入門

総合科目： 都市・地域・環境を探る

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系： 施設委員

システム情報工学研究科： 運営委員, 論文審査委員

環境科学研究科： 入試実施委員

社会工学類： 運営委員

(3) 他大学における教育活動

- 1) 東京大学社会科学研究所教授 (併任)
- 2) 琉球大学工学部講師 (非常勤)

III. 社会的活動

- 1) 国土審議会調査改革部会専門委員
- 2) 科学研究費委員会専門委員
- 3) 茨城県開発審査会委員
- 4) 茨城県入札監視委員会委員
- 5) 茨城県まちづくり顕彰事業ほう賞審査委員会委員
- 6) つくば市都市計画審議会会長
- 7) つくば市庁舎建設審議会委員
- 8) 東京都住宅政策審議会委員
- 9) 埼玉県都市計画審議会委員
- 10) 江戸川区都市計画審議会委員
- 11) 板橋区住宅対策審議会会長
- 12) 大韓民国の国土・都市計画学会主催国際シンポジウムに招待を受け, 2003年10月23日, 日本の首都機能移転についての基調講演を行うとともにパネルディスカッションに参加した。

小倉 昇

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 「環境に配慮した設備投資決定の課題」, 『環境管理』第39巻5号, 51-55, 2003年5月
- 2) 「BSCと組織の学習能力」, 『企業会計』第55巻5号, 47-53, 2003年5月

(2) 学会活動

- 1) 日本管理会計学会 常務理事・学会誌編集委員長
- 2) 日本原価計算研究学会 理事
- 3) オフィスオートメーション学会 監事・学会誌編集委員

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科： 会計基礎，会計ディスクロージャ，ファイナンシャルプランニング，コストマネジメント輪講 I, II, III, ビジネス創造演習 IV, ジョイントプログラム，予算管理，システムズ・マネジメント特別演習，システムズ・マネジメント講究

(2) 役職・各種委員会委員

全学： 医療委員，大学法人化対応専門委員，大学研究センター運営委員

ビジネス科学研究科： ビジネス科学研究科運営委員，経営システム科学専攻長

III. 社会的活動

- 1) 公認会計士第2次試験試験委員

小場瀬 令二

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 東京の住宅地/「茨城県の通勤限界住宅地」 pp.168-171/日本建築学会から出版
- 2) 都市をつくった巨匠たち/「エリエルサーリネンとヘルシンキ」/pp.39-43/ぎょうせい
- 3) ヴィーッキ・ニュータウン（ヘルシンキ市）のエコ・コミュニティ・デザイン/月刊 住宅着工統計/2003・1/pp.6-10

(2) 学会活動

- 1) 建築学会関東支部都市計画研究部会幹事

(3) 受賞

- 1) 第5回「美しくむらを作る，まちを作る（栃木）」設計コンペで優秀賞/日本建築学会関東支部主催/2003年10月12日/代表として作品製作に関わった。

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 都市環境・景観論特論

環境科学研究科： 住環境計画論，環境科学 III

社会工学類： 住宅地計画，図学測量学

総合科目： 自由演習

(2) 役職・各種委員会委員

環境科学研究科： 入試実施委員長

(3) 他大学における教育活動

- 1) 常磐大学非常勤講師

III. 社会的活動

- 1) 茨城県の景観委員会委員
- 2) 水戸市景観アドバイザー
- 3) つくば市都市計画マスタープラン策定委員会委員長等

金澤 雄一郎

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Estimating the Maintenance and Repair Cost in Life Cycle Cost Calculation: A case of Automobile Ownership in the U.S., The Journal of Management Accounting, Japan. To appear in the Journal of Management Accounting, Japan.

(2) 学会活動

- 1) Psychometrika レフェリー

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費，基盤研究（C）（2），「一般化線形モデルにおける無視できない非応答問題の研究」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 統計学特論 I・II

経営・政策科学研究科： 統計学 II, データ解析

社会工学類： 応用統計学

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学類： 入試実施委員

金子 守

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 『ゲーム理論と蒟蒻問答』日本評論社 平成 15 年 4 月
- 2) Epistemic models of shallow depths and game theoretical decisionmaking: Horticulture, (with N-Y. Suzuki), Journal of Symbolic Logic 68(2003), 163-186.

(2) 学会活動

- 1) Associate Editor of Mathematical Social Sciences
- 2) Associate Editor of Social Choice and Welfare
- 3) Associate Editor of Journal of Public Economic Theory
- 4) Associate Editor of Economic Theory
- 5) Associate Editor of Knowledge, Rationality & Action

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費，基盤研究（B），「個人の社会認識と社会・経済規範」平成15年度

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： ゲーム理論特講

経営・政策科学研究科： ゲーム理論

社会工学類： 微分積分学， ゲーム論， 社会経済実習

河合 忠彦

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 高業績グローバルマネジャーのコンピテンシー活用に関する国際比較調査」（共同発表者：渡邊壽美子，永井裕久，田代美智子），国際ビジネス研究学会，2003年10月

(2) 学会活動

- 1) 経営行動科学学会「経営行動科学」編集委員

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科： 経営学基礎，経営戦略，組織革新，組織革新輪講，企業と社会，企業の組織管理と法，ビジネスマネジメント研究，その他の科目を担当した。

III. 社会的活動

- 1) 日本学術振興会科学研究費専門委員会委員
- 2) 公認会計士試験試験委員（「経営学」）

岸本 一男

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Szuo, Z. and Kishimoto, K.: Selection of plausible time series models for the Nikkei 225 index, Proc. 53th Japan NCTAM(in press)
- 2) 前田貢一, 合志昭範, 岸本一男: 昭和戦前期総選挙(第16回-第21回)市町村別得票数データベースの作成と簡単なその計算事例, 多目的データバンク報告書, No.80 (2004), pp.1-12
- 3) 王曉明, 岸本一男: S Vモデルを用いたオプション価格付けの日経225 オプション価格説明力に関する実証ノート, 多目的データバンク報告書, No.80 (2004), pp.115-122

(2) 学会活動

- 1) 応用数学会理事
- 2) 応用数学会学会誌編集委員長
- 3) 応用数学会論文誌編集委員
- 4) 電子情報通信学会査読委員

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究(C)(2), 「協力支配点集合とその応用」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科: システム数理特論
経営・政策科学研究科: 数理ファイナンス
社会工学類: 数理ファイナンス
総合科目: 経営の科学

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系: 運営委員
システム情報工学研究科: 運営幹事
第3学群: 教員会議構成員
社会工学類: 運営委員, 学類カリキュラム戦略検討委員, クラス担任

(3) 他大学における教育活動

- 1) 横浜市立大学理学部非常勤講師(「フラクタル科学」)

III. 社会的活動

- 1) 数学研究連絡委員会委員
- 2) 大学評価・学位授与機構大学評価委員会専門委員
- 3) 横断型基幹科学技術研究団体連合代議員
- 4) 平成15年度科学技術振興調整費科学技術政策提言「横断型科学技術の役割とその推進」委員

木下 太志

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 「自然出生力とはなにか」速水融編『歴史人口学と家族史』藤原書店, pp.217-234.
- 2) 「ヨーロッパ型結婚形態の起源」速水融編『歴史人口学と家族史』藤原書店, pp.349-414.

(2) 学会活動

- 1) Board member, ICHD(International Commission of Historical Demography)
- 2) Board member, International Committee of Historical Sciences

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

人文社会科学研究科： 人口学特論 I, 人口学特論演習 I, 人口学特論 II, 人口学特論演習 II

地域研究研究科： 日本社会と人口 (1), 日本社会と人口 I(2)

JTP： Introduction to Japanese Studies, Population and History in Japanese Perspective, Population in Asia, Independent Studies

(2) 役職・各種委員会委員

全学： 外国人留学生後援会理事, 留学生連絡協議会委員, 留学生受入れ派遣小委員会委員, JTP 作業部会員, 『国際政治経済学』編集委員長

III. 社会的活動

- 1) 歴史人口学研究グループ会員

久野 靖

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 久野 靖, 改訂2版 UNIX による計算機科学入門, 丸善, 2004.

- 2) 久野 靖, UNIX の基礎概念 改訂版, アスキー, 2004.
- 3) 久野 禎子, 久野 靖, UNIX の環境設定 改訂版, アスキー, 2004.
- 4) 地引昌弘, 久野 靖, 近傍オブジェクトモデル, 電子情報通信学会論文誌 B, vol. J86-B, no. 8, pp. 1476-1485, 2003.
- 5) Hiroaki Shirai, Motonari Tanabu, Takao Terano, Yasushi Kuno, Hisatoshi Suzuki, Kazuhiko Tsuda, Game development toolkit for business people in Japan, SIMULATION & GAMING, 34, pp. 437-446, 2003.
- 6) 兼宗 進, 中谷多哉子, 井戸坂幸男, 御手洗理英, 福井眞吾, 久野靖, 初中等教育におけるオブジェクト指向プログラミングの実践と評価, 情報処理学会論文誌: プログラミング, vol. 44, No. SIG 13 (PRO 18), pp. 58-71, 2003.
- 7) 西森丈俊, 久野 靖, アクションゲーム記述に特化した言語, 情報処理学会論文誌: プログラミング, vol. 44, No. SIG 15 (PRO 19), pp. 36-54, 2003.
- 8) 久野 靖, 鍋島尚子, 山崎兼介, 「情報」免許を取得しない学生も対象とした「情報科教育法」の実施, 情報教育シンポジウム論文集, IPSJ Symposium Series, vol. 2003, no. 12, pp. 139-144, 2003.
- 9) 兼宗 進, 中谷多哉子, 井戸坂幸男, 御手洗理英, 福井眞吾, 久野靖, 端末を飛び出したオブジェクト: 分散プログラミングを活用した情報教育の提案, 共著, 2003年8月, 情報教育シンポジウム論文集, IPSJ Symposium Series, vol. 2003, no. 12, pp. 91-98, 2003.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 西森 丈俊, 久野 靖, テレビゲーム記述プログラミング言語 WOW, 情報処理学会第 49 回プログラミング研究会 (PRO), 2004.

(2) 学会活動

- 1) 情報処理学会オブジェクト指向シンポジウム査読委員, 情報処理学会論文誌オブジェクト指向特集号査読委員.
- 2) 情報処理学会初情報処理教育委員会委員初中等教育ワーキンググループ委員

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科： 計算機科学基礎 I-II, 計算機プログラミング I, オブジェクトシステム
輪講 II-III, プロジェクトマネジメント研究 IV~VI, ヒューマンインタフェース

(2) 役職・各種委員会委員

全学： 東京地区 SCS ワーキンググループ委員長

(3) 他大学における教育活動

- 1) 東京大学教養学部非常勤講師 (計算機プログラミング I)
- 2) 東京学芸大学教育学部非常勤講師 (情報科教育法 II)

III. 社会的活動

- 1) 日本情報処理開発協会情報処理技術者試験委員

熊谷 良雄

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 震災時における消防機関の効率的な活動に関する研究：消火活動と救助活動を対象として(共著), 日本火災学会論文集 第53巻 第1号, 2003.6
- 2) 消火・救助活動管理システムの開発と活用方策(共著), 日本火災学会論文集 第53巻 第1号, 2003.6
- 3) 都心繁華街を対象とした震災疑似体験システムの構築と被災者行動に関する実験的研究(共著), 地域安全学会論文集 No. 5, 2003.11
- 4) 震災による被災者の申請手続き対応窓口の設置計画に関する研究(共著), 地域安全学会論文集 No. 5, 2003.11
- 5) 阪神・淡路大震災における災害復興公営住宅の家賃設定に関する研究：公営住宅法における利便性係数に着目して(共著), 地域安全学会論文集 No. 5, 2003.11
- 6) 高速道路の短期的機能低下に伴う首都圏への物資流入量変動分析：降雪時における青果物入荷量データを用いて(共著), 地域安全学会論文集 No. 5, 2003.11

ii) その他

- 1) 除灰作業が下水道への流入量軽減に及ぼす効果に関する研究(共著), 地域安全学会梗概集 No.13(2003年), 2003.11
- 2) 被災世帯の防災意識に関する意識調査－1983年日本海中部地震直後と10年後, 20年後を比較して－(共著), 地域安全学会梗概集 No.13(2003年), 2003.11
- 3) 平成15年5月26日三陸南地震における火災の発生状況(共著), 地域安全学会梗概集 No.13(2003年), 2003.11
- 4) 三陸南地震後の仙台駅利用者の帰宅行動調査(共著), 地域安全学会梗概集 No.13(2003年), 2003.11

(2) 学会活動

- 1) 地域安全学会顧問
- 2) 日本都市計画学会評議員
- 3) 日本建築学会都市防災システム小委員都市防災図集WG会主査
- 4) 日本建築学会地震防災総合研究特別委員会委員
- 5) 安全工学協会 理事 学術委員長
- 6) 土木学会火山工学小委員会 委員

(3) 研究助成など

- 1) 文部科学省科学技術振興調整費：人体被災度計測模型の開発と人的被災軽減方法の明確化

- 2) 受託研究：平成14年度大都市における火山灰災害の影響予測評価に関する研究（火山灰災害による交通および都市活動への影響評価）（独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構〔前；運輸施設整備事業団〕：運輸分野における基礎的研究推進制度）
- 3) 受託研究：大震災時におけるコミュニティの自律的相互救済に関する実態分析（（独）防災科学技術研究所：文部科学省 RR2002「大都市大震災軽減化特別プロジェクト」）

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 都市リスク管理特論，リスク工学特別演習

環境科学研究科： 環境科学実習，防災計画論

社会工学類： 都市防災計画，都市計画実習 III，都市計画事例講義及び実習

(2) 役職・各種委員会委員

全学： 防災対策委員，安全管理査察専門委員，同 作業部会主査，キャンパスリニューアル計画部会マスターWG委員，キャンパスリニューアル計画部会中地区総合研究棟設計WG委員

社会工学系： 施設委員長

システム情報工学研究科： 運営委員，施設委員長

環境科学研究科： 就職委員長，将来検討ワーキング委員

(3) 他大学における教育活動

- 1) 東京都立大学都市研究所非常勤研究員

III. 社会的活動

- 1) 国土交通省国土技術政策総合研究所 評価委員会分科会（第二部会）委員
- 2) 独立行政法人科学技術振興機構 科学技術振興調整費ワーキンググループ 委員
- 3) 東京都 火災予防審議会 委員
- 4) 東京消防庁 震災消防活動検討会 顧問
- 5) 茨城県 環境影響評価審査会 委員
- 6) 土浦市 都市計画審議会 会長
- 7) つくば市 建築審査会 会長
- 8) 土浦市・千代田町・霞が浦町・新治村任意合併協議会 委員
- 9) 世田谷区 都市計画審議会 委員

黒田 誼

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Yoshimi Kuroda and Naziruddin Abdullah. "Impacts of Set-Aside and R&E Policies on Agricultural Productivity in Japan, 1965-97," Japanese Journal of Rural Economics,

5, 2003, pp. 12-34, 共著「筆頭」.

- 2) Yoshimi Kuroda and Yong-Sun Lee. "The Output and Input Biases Caused by Public Agricultural Research and Extension in Japan," *Asian Economic Journal*, 17(21), 2003, pp. 107-130, (in press), 共著「筆頭」
- 3) Anit N. Mukherjee and Yoshimi Kuroda. "Productivity Growth in Indian Agriculture: Is There Evidence of Convergence among States?," *Agricultural Economics*, (forthcoming), 共著.
- 4) 『日・韓・台農業における R&D 及び環境要因が生産性に及ぼす影響の実証的研究』(課題番号 12660197), 平成 12(2000)年度～平成 14(2002)年度科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))研究成果報告書, 平成 15(2003)年 3 月, 代表者(個人研究).

(2) 学会活動

- 1) 国際農業経済学会の機関誌である *Agricultural Economics* Editorial Advisory Board のメンバーである.

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究(C)(2), 「日・韓・台農業における R&D 及び環境要因が生産性に及ぼす影響の実証的研究」, (代表者).

(4) 受賞

- 1) Yoshimi Kuroda and Naziruddin Abdullah. "Impacts of Set-Aside and R&E Policies on Agricultural Productivity in Japan, 1965-97," *Japanese Journal of Rural Economics*, Vol. 5, 2003, pp. 12-34, 共著「筆頭」. 本論文に対し, 日本農業経済学会から平成 16 年度日本農業経済学会より学会誌賞を受領した.

(5) その他

- 1) *American Journal of Agricultural Economics* の 1 本の論文の査読を行った.

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科: 計量発展分析特講

経営・政策科学研究科: 計量発展分析特論

社会工学類: 経済原論, 計量発展分析, グローバルエリア演習

(2) 役職・各種委員会委員

全学: 植物見本園委員会委員

経営・政策科学研究科: 運営委員

社会工学類: 運営幹事

III. 社会的活動

- 1) PECC(Pacific Economic Cooperation Conference-太平洋経済協力会議) 日本委員会の食料・農業委員会のメンバーとして春に行われる年次会議に出席した。

香田 正人

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 鈴木信彦, 香田正人, 携帯端末を用いたオンラインショッピングの特性, 日本ダイレクトマーケティング学会誌, Direct Marketing Review, Vol.3, pp.29-41, 2004年3月.
- 2) M. Koda, et al., Stochastic Sensitivity Analysis for Computing Greeks, International Symposium on Sensitivity Analysis for Model Output, Conference CD-ROM: SAMO-04-21 (8p.), Los Alamos National Laboratory, Santa Fe, March 2004.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 香田正人, 鈴木信彦, ネットワーク携帯通販におけるE-ビジネスの特性, 日本ダイレクトマーケティング学会DBM研究部会研究会, 2003年4月18日.
- 2) 香田正人, データマイニングの産業応用事例について, 日本ダイレクトマーケティング学会DBM研究部会第1回オープンセミナー, 2003年6月20日.
- 3) N. Sano, H. Suzuki, and M. Koda, A Robust Boosting Method using Zero-one Loss Function: SNRBoost, 京都大学数理解析研究所短期共同研究「確率数値解析に於ける諸問題」2003年7月15日.
- 4) F. Domenach and M. Koda, Mining Association Rules using Lattice Theory, 京都大学数理解析研究所短期共同研究「確率数値解析に於ける諸問題」2003年7月15日.
- 5) 鈴木信彦, 香田正人, 携帯端末を用いたオンラインショッピングの特性, 日本ダイレクトマーケティング学会全国研究発表大会, 2003年9月7日.
- 6) 鈴木信彦, 香田正人, ネットワーク携帯端末を用いた通信販売におけるE-businessの特性, 日本OR学会2003年秋季研究発表会アブストラクト集, pp.306-307, 2003年9月11日.
- 7) 香田正人, 中原康寛, Malliavin Calculusを用いたBlack-Scholesモデルの確率感度解析, 第53回理論応用力学講演会, 講演論文集(NCTAM2004), pp.431-432, 2004年1月29日.
- 8) M. Koda, et al., Stochastic Sensitivity Analysis for Computing Greeks, International Symposium on Sensitivity Analysis for Model Output, Santa Fe, March 10, 2004.
- 9) 後藤正輝, 香田正人, 階層的GTMに基づく教師付き学習モデル, 日本OR学会2004年春季研究発表会アブストラクト集, pp.290-291, 2004年3月18日.
- 10) 佐野夏樹, 鈴木秀男, 香田正人, 0-1損失関数を用いたロバストなブースティングの提案, 日本OR学会2004年春季研究発表会アブストラクト集, pp.294-295, 2004年3月18日.
- 11) 香田正人, テキストマイニングの現状について, 日本ダイレクトマーケティング学会DBM研究部会第2回オープンセミナー, 2004年3月26日.

iii) その他

- 1) N. Sano, H. Suzuki, and M. Koda, A Robust Boosting Method using Zero-one Loss Function: SNRBoost, 京都大学数理解析研究所講究録 1351, pp. 106-121, 2004年1月.
- 2) F. Domenach and M. Koda, Mining Association Rules using Lattice Theory, 京都大学数理解析研究所講究録 1351, pp. 122-133, 2004年1月.

(2) 学会活動

- 1) 日本ダイレクトマーケティング学会常任理事, DBM 研究部会長
- 2) 日本OR学会 IAOR 編集委員会委員長
- 3) 編集委員 (Contributing Editor), International Abstracts in OR, IFORS
- 4) 編集委員 (Associate Editor), Journal of Information and Communication Technology, Universiti Utara Malaysia
- 5) 日本ダイレクトマーケティング学会 DBM 研究部会オープンセミナー, オーガナイザー (実行委員長)

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究 (C) (2), 「データマイニングモデルの統合と CRM ビジネスモデルのプロトタイピング」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科: データマイニング工学特論

経営・政策科学研究科: プロジェクトマネジメントー理論と実践

社会工学類: 微分積分学, 経営工学実習

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科: 運営委員

経営・政策科学研究科: 運営委員

社会工学類: 運営委員

(3) 他大学における教育活動

- 1) 静岡大学工学部非常勤講師 (システム工学特別講義)
- 2) 防衛大学校理工学部特別講演 (情報工学科)

腰塚 武志

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Y.Ohsawa and T.Koshizuka(2003): Two-dimensional fiscal competition. Journal of Economic Geography, 3(3), pp.275-287.

- 2) 腰塚武志, 大原宏晃, 中川享規: 関東地方における鉄道の空間拡大, 日本都市計画学会平成15年度論文集, pp.151-156, 2003.
- 3) 田村一軌, 腰塚武志, 大澤義明: 移動効率および通過量に着目した一方通行規制の評価, 日本都市計画学会平成15年度論文集, pp.145-150, 2003.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 渡部大輔, 鈴木 勉, 腰塚武志: 巡回路の辺長分布, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.330-331, 2004.
- 2) 渡部大輔, 鈴木 勉, 腰塚武志: 近接グラフの辺長分布, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.332-333, 2004.

(2) 学会活動

- 1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会副会長
- 2) 形の科学会運営委員

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究(B)(2), 「移動時間分布と通過量分布による都市空間の分析」, (代表者)
- 2) 科学研究費, 基盤研究(B)(1), 「都市の交通および施設配置に関する総合的研究」, (分担者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科: 都市解析学特論

経営・政策科学研究科: 都市解析学特論

社会工学類: 都市解析, 都市計画実習 I, 都市計画事例講義及び実習

(2) 役職・各種委員会委員

全学: TWINS 運営委員長, 大学研究センター運営委員

III. 社会的活動

- 1) (財)計量計画研究所評議員
- 2) 国際科学振興財団理事
- 3) 熊谷市マスタープラン策定委員会委員長

佐藤 亮

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) S. Takahashi, K. Kijima, R. Sato (Eds.), Applied General Systems Research on Organizations, Springer, 2004.
- 2) Ryo Sato and Tunlun Tsai: An Agile Production Planning and Control System with Advance Notification to Change Schedule, Int. J. Production Research, 42-2, pp321-336, 2004.
- 3) T. L. Tsai and R. Sato: A UML model of agile production planning and control system, Computers in Industry, 53, pp133-152, 2004.
- 4) 佐藤亮, 蔡東倫, 二村暢之: スケジューリングによる生産計画: タイムバケットとリアルタイム方式の比較, 経営情報学会 2003 年春季全国研究発表大会予稿集, pp396-399, 2003.
- 5) Ryo Sato, On Role of Planning and Control Components in Mutually Connected Business Processes, Proceedings of the 2003 Pacific Asia Conference on Information Systems, (CD-ROM), 10 pages, 2003. (Held in Adelaide, Australia)
- 6) 佐藤亮, 蔡東倫, 二村暢之, 小野栄一: 日程計画業務のための ERP を用いる情報システム方法論-quickIPP, 経営情報学会 2003 年秋季全国研究発表大会予稿集 (CD-ROM), 4 ページ, 2003.
- 7) 蔡東倫, 佐藤亮: APPCS におけるスケジューラの提案, 経営情報学会 2003 年秋季全国研究発表大会予稿集 (CD-ROM), 4 ページ, 2003.

(2) 学会活動

- 1) PACIS2003 (アデレード) アジア情報システム国際会議プログラム委員
- 2) (社) 計測自動制御学会システム情報部門システム工学部会運営委員

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究 (C) (2), 「高度に統合されたビジネスプロセスの時間特性の最適化設計法」, (研究代表者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科: システム工学特論

経営・政策科学研究科: 情報システム論

社会工学類: 経営工学概論, 経営情報システム, 経営情報システム演習, 現代の経営と情報

(2) 役職・各種委員会委員

全学: 評議員, 学術情報処理センター運営委員

社会工学類: 社会工学類長, 第3学群運営委員

III. 社会的活動

- 1) SAP ジャパン Higher Learning Initiative 委員
- 2) 文部科学省大学設置審議会委員 (15年度)

庄司 功

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Shoji, I., (2003), Estimation of diffusion parameters by a nonparametric drift function model, Intelligent Data Engineering and Automated Learning, Lecture Notes in Computer Science 2690, 211-217.
- 2) Takamizawa, H. and Shoji, I., (2004), On accuracy of local linear approximation for the term structure of interest rates, Quantitative Finance, 4, 151-157.
- 3) Shoji, I. (2003), Estimation of diffusion parameters by a nonparametric drift function model, Fourth International Conference on Intelligent Data Engineering and Automated Learning, Hong Kong Convention and Exhibition Centre.
- 4) Yang Yang and Isao Shoji, (2003), Optimal Dividend Policy of Life Insurance Company under Hyperbolic Discounting, 2003 North American Meeting of Economic Science Association, Tucson, Arizona, USA.

(2) 学会活動

- 1) Editorial Board, Advances and Applications in Statistics

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： ファイナンスモデル特論
経営・政策科学研究科： 金融時系列解析
社会工学類： 統計学， 計量時系列分析

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系： 予算委員
社会工学類： カリキュラム委員， 広報委員

(3) 他大学における教育活動

一橋大学経済学研究科 (非常勤講師)

鈴木 久敏

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) ビジネス数理への誘い, 朝倉書店 (分担執筆: 7.2 節「数理技術のビジネスへの適用－投入産出モデルの事例」, pp.91-97) その他
- 2) 本県における夜間の適正な拠点病院方式についての一試案－Voronoi 分割の視点から－”, 第 74 回日本小児科学会茨城地方会

(2) 学会活動

- 1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会研究普及委員
- 2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会表彰委員会委員
- 3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌編集委員
- 4) 横断型基幹科学技術研究団体連合企画委員会委員

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究 (C) (2), 「患者の病院選択行動に基づく第 2 次医療圏における病院の適正配置」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科: ビジネス・ゲーム, ビジネスモデリング, 計画数理輪講 I, 計画数理輪講 II, 計画数理輪講 III

(2) 役職・各種委員会委員

全学: 企画調査室長, 評議員, 評議会議題整理委員, 評議会自己点検・評価委員, 研究審議会委員, 財務委員, 同小委員会委員, 施設委員, 同副委員長, 全学施設管理委員, 情報化推進委員, 国際交流委員, 東京地区将来計画検討委員, 法人化準備委員, 同計画・評価専門委員会主査, 同資源配分専門委員会主査, 大学研究センター運営委員, TARA センター運営委員

ビジネス科学研究科: 経営システム科学専攻論文審査委員

III. 社会的活動

- 1) 文部科学賞科学技術振興調整費・政策提言プログラム「横断型科学技術の役割とその推進」推進委員会委員, 同システムズ・マネジメント分科会主査
- 2) 文部科学省生涯学習局女性の多様なキャリアを支援するための懇談会講演「社会人大学院の現状と役割～筑波大学夜間大学院の経験を踏まえて～」

徐 華

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) ビジネス数理への誘い (執筆分担), 筑波大学ビジネス科学研究科編, 朝倉書店, 2003.
- 2) Hua Xu and Hiroaki Mukaidani, The Linear Quadratic Dynamic Game for Discrete-Time Descriptor Systems, International Game Theory Review, 5(4), pp.361-374, 2003.
- 3) Hiroaki Mukaidani, Hua Xu and Koichi Mizukami, New Results for Near-Optimal Control of Linear Multiparameter Singularly Perturbed Systems, Automatica, 39(12), pp.2157-2167, 2003.
- 4) Hiroaki Mukaidani, Tetsu Shimomura and Hua Xu, Asymptotic expansions of solutions of cross-coupled algebraic Riccati equations of multimodeling systems related to Nash Games, Proceedings of the 3rd International DCDIS Conference on Engineering Applications and Computational Algorithms, pp.34-39, 2003
- 5) 堀, 徐, 水上, 連続時間ディスクリプタシステムにおける2階層多人数動的ゲーム問題, 広島国際学院大学研究報告, 第36巻, pp.21-34, 2003.

ii) その他

- 1) 徐, 階層ホログラフィックモデリング法によるリスクの特定, チャンス&リスクマネジメントセミナーテキスト, 日本規格協会, 2003.

(2) 学会活動

- 1) レフェリー, Automatica, International Game Theory Review

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科: 意思決定支援モデル, リスクモデリングと制御, 動的システムと最適化, リスクモデリングと制御輪講 I, II, III

(2) 役職・各種委員会委員

ビジネス科学研究科: 経営システム科学専攻入試委員

III. 社会的活動

- 1) 日本規格協会: 「チャンス&リスクマネジメント」セミナーの講師
- 2) 電気学会: 公共施設におけるリスク・マネジメント技術調査専門委員会委員

住田 潮

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) “Numerical Exploration of Dynamic Behavior of the Ornstein-Uhlenbeck Process via Ehrest Process Approximation,” (with J. Gotoh and H. Jin) Working Paper Series No.1050
- 2) “Structural Analysis of Optimal Investment Strategy for Project Management via Real Option Approach,” (with T. Ise) Working Paper Series No.1068
- 3) 6月27日, 道路経済研究所ロジスティクス研究部会 講演, “台湾におけるロジスティクス最新動向”
- 4) 10月16日, 大阪大学経済学部講演, “ファイナンスの新潮流”
- 5) 2月28日, 立教大学 OR学会データ解析コンペティション予選会発表, (鈴木秀男助教授・水野誠講師・学生と共同)
- 6) 3月18日, 早稲田大学 OR学会春季大会発表 (学生と共同), “Structural Analysis of Optimal Investment Strategy for Project Management via Real Option Approach”
- 7) 3月19日, NTTデータ豊洲センター・ビル OR学会データ解析コンペティション決勝大会発表, (鈴木秀男助教授・水野誠講師・学生と共同)

(2) 学会活動

- 1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会機関誌編集委員

(3) 研究助成など

- 1) 受託研究:「時系列モデルに対する構造的数値解法の開発」(山本芳嗣教授, 後藤順哉講師と共同) みずほ第1ファイナンシャル・テクノロジー株式会社

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科: 応用確率過程特論, 情報数理特論

経営・政策科学研究科: ビジネス戦略, e-ビジネス

社会工学類: Introduction to Management Science and Engineering, 現代の経営と情報 (3人で共同担当)

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系: 将来構想委員会 メンバー

システム情報工学研究科: 論文審査委員会メンバー

経営・政策科学研究科: カリキュラム委員長, 運営委員会メンバー

(3) 他大学における教育活動

- 1) 国際基督教大学フランス・プログラム集中講義

III. 社会的活動

- 1) OECD Tri-Logistics Research Project アジア研究部会・委員
- 2) 道路経済研究所 ロジスティクス研究部会・メンバー
- 3) 5月29日, (株) 関ヶ原製作所, 中小企業の技術戦略視察
- 4) 6月13-14日, (株) 富士重工幹部研修プログラム講演, “企業経営とファイナンス”
- 5) 7月10-12日, 日本能率協会主催, プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース, 主任講師
- 6) 7月21-22日, (株) デンソー幹部研修プログラム講演, “企業経営とファイナンス”
- 7) 7月24日, (株) 関ヶ原製作所幹部研修プログラム講演, “契りと絆の「人間ひろば」: 関ヶ原製作所経営理念の先駆性
- 8) 8月4-5日, (株) 富士重工幹部研修プログラム講演, “企業経営とファイナンス”
- 9) 8月6-7日, 日本能率協会主催, プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース 主任講師
- 10) 8月21-23日, 日本能率協会主催, プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース主任講師
- 11) 9月2日, (株) 化成幹部研修プログラム講演, “これからの時代, 人事労務フィールドのメンバーに求められる役割は何か”
- 12) 9月4日, 東京電力ー富士ゼロックス異業種交流会講演, “大競争時代における企業革新とミドルに期待される役割”
- 13) 9月11-13日, 日本能率協会主催, プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース主任講師
- 14) 9月18-19日, (株) 豊田通商幹部研修プログラム講演, “企業経営とファイナンス”
- 15) 10月2-4日, 日本能率協会主催, プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース主任講師
- 16) 10月17日, 関西学院大学総合政策学部講演, “21世紀における日本の挑戦”
- 17) 10月28-29日, 日本能率協会主催, プロフェッショナル・ビジネス・リーダー・コース主任講師
- 18) 11月13-14日, 都城 サニーシーリング 視察, 延岡 旭化成 視察
- 19) 11月21日, (株) 三菱レーヨン幹部研修プログラム, “大競争時代における Compliance 経営”
- 20) 12月8-9日, 海外技術者研修協会 ネパール・IT 研修プログラム主任講師
- 21) 12月11日, (株) 関ヶ原製作所能力開発大会基調講演, “21世紀における中小企業の挑戦”
- 22) 12月15-16日, 海外技術者研修協会 ネパール・IT 研修プログラム主任講師
- 23) 2月24日, 花王工場・ホンダ工場視察
- 24) 3月4-5日, 海外技術者研修協会 バングラデシュ・IT 研修プログラム主任講師
- 25) 3月11-13日, 関西学院大学総合政策学部講演, “インターネットは何を変えたか”

- 26) 3月15-16日, 海外技術者研修協会 バングラデシュ・IT研修プログラム主任講師
- 27) 3月17日, 高知県(株)山本貴金属 視察
- 28) 3月5日, 海外技術者研修協会 バングラデシュ・IT研修プログラム, “Evolution of Computer Networks and the Internet”
- 29) 3月7-8日, 富士重工 幹部研修プログラム, “企業経営とファイナンス”
- 30) 3月10日, 海外技術者研修協会 バングラデシュ・IT研修プログラム, “Comparative Analysis of e-Businesses in U.S.A. and Japan”

高木 英明

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) R. M. Rodriguez-Dagnino and H. Takagi, “Counting Handovers in a Cellular Mobile Communication Network: Equilibrium Renewal Process Approach,” Performance Evaluation, Vol.52, Nos.2-3, pp.153-174, April 2003.
- 2) Y. Zhang, K. Taira, H. Takagi, and S. K. Das, “Adaptive Wavelength Routing and Assignment in Optical WDM Networks,” Optical Networks Magazine, Vol.4, No.5, pp.86-99, September/October 2003.
- 3) J. H. Siregar, H. Takagi, and Y. Zhang, “Fast Routing and Wavelength Assignment Heuristics for Large-Scale WDM Optical Networks,” IEICE Transactions on Communications, Vol.E86-B, No.12, pp.3530-3537, December 2003.
- 4) H. Takagi and D.-A. Wu, “Multiserver Queue with Semi-Markovian Batch Arrivals,” Computer Communications, Vol.27, pp.549-556, 2004.
- 5) D. Wu and H. Takagi, “A Queue with Semi-Markovian Batch Plus Poisson Arrivals with Application to the MPEG Frame Sequence,” Queueing Systems, Vol.45, No.4, pp.285-332, December 2003.

ii) その他

- 1) J. H. Siregar, H. Takagi, and Y. Zhang, “Efficient Routing and Wavelength Assignment in Wavelength-Routed Optical Networks,” APNOMS 2003 Technical Proceedings; The 7th Asia-Pacific Network Operations and Management Symposium, pp.116-127, Fukuoka, Japan, October 1-3, 2003.
- 2) J. H. Siregar, Y. Zhang, and H. Takagi, “Optical Multicast Routing Using Genetic Algorithm for Wavelength-Routed Networks,” 待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」報文集, pp.41-50, 滋賀県彦根市, 2004年1月19-21日.
- 3) 狩谷典之・北島宗雄・高木英明・張勇兵, 潜在意味解析を用いた情報ウェブサイトのMarkov連鎖によるモデル化と評価, 待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」報文集, pp.171-180, 滋賀県彦根市, 2004年1月19-21日.
- 4) H. Takagi, “Autonomic Management of a University,” Discussion Paper No.1037, Institute of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba, May 2003.

- 5) J. H. Siregar, H. Takagi, and Y. Zhang, "Optimal Multicast Routing Using Genetic Algorithm for WDM Optical Networks," Discussion Paper No.1073, Institute of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba, January 2004.
- 6) 高木英明, 教育開発国際協力センター (CRICED) への期待, CRICED Newsletter, 創刊号, pp.4-5, 2003年7月15日, 筑波大学.
- 7) H. Takagi, Opening Address: 1st International Forum on Basic Education Development in South and Southeast Asian Countries: Looking for Alternative Models in Reference to Japanese Educational Experiences, 1st International Forum on Basic Education Development, pp.1-2, 2002.
- 8) 祝辞, 日本図書館情報学会会報, No.111, pp.10-11, 2003年12月.
- 9) H. Takagi, "Autonomic Management of a University," Oxford Round Table, St. Antony's College, University of Oxford, England, July 6-11, 2003.

(2) 学会活動

- 1) 学術論文誌 Performance Evaluation (Elsevier) 編集委員.
- 2) 学術論文誌 Queueing Systems (Balzer) 編集委員.
- 3) プロジェクトマネジメント学会 (任意団体) 特任理事.

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 社会システム工学演習，システム情報数理演習，システム情報数理特別演習

(2) 役職・各種委員会委員

全学： 副学長 (研究担当), 評議員, 研究審議会会長, 人事委員, 財務委員, 財務小委員会委員, 情報化推進委員長, 国際交流副委員長, 国際交流基金運用委員長, 天禄学術研究基金運用委員長, 環境保全委員, 安全管理委員, 防災対策委員, 法人化準備委員, 筑波大学研究成果地域還元推進会代表幹事.

III. 社会的活動

- 1) 財団法人 国際科学振興財団 理事 (非常勤)
- 2) 通信・放送機構 つくば情報通信研究開発支援センター 利用公募審査委員会 委員長
- 3) 茨城県 つくば・東海・日立知の特区推進委員会委員
- 4) 茨城県科学技術振興会議 委員
- 5) 筑波大学産学連携会 (任意団体) 理事

椿 広計

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 椿広計 (2003) 第2章 数理的方法の機能, 第3章 ビジネスへのモデルアプローチ—ビジネスを科学にする手続き, 第6章1節 さまざまな数理モデル, 第7章1節数理技術とその狙い, 筑波大学ビジネス科学研究科編, ビジネス数理への誘い, シリーズ ビジネスの数理第1巻, pp.8-16, pp.17-29, pp.51-58, pp.85-91, 朝倉書店.
- 2) 佐藤栄作, 廣松毅, 椿広計 (2003) 潜在クラスモデルを利用した取引データのセグメンテーション, 行動計量学, Vol. 31, No.1, pp.121-133.
- 3) 椿広計 (2004) 検証的試験における施設数, 計量生物学, Vol.24 特別号, pp.49-57.
- 4) 椿広計 (2004) IT時代の統計教育—統計科学の目的と機能の理解に向けて, 品質, Vol.34, No.1, pp.48-56.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) Wada, K., Kadono, Y. and Tsubaki, H. (2003) Measuring Effect of IT Investment in Japan, 54th International Statistical Institute(CD-ROM).
- 2) Wada, K., Kadono, Y. and Tsubaki, H. (2003) IT Investment Performance in Japan, Proc. of European Network for Business and Industrial Statistics(CD-ROM).
- 3) Iwasaki, M. and Tsubaki, H. (2003) Bivariate Negative Binomial Generalized Linear Models for Environmental Count Data with Constantly Correlated Covariance Structure, Proc. of European Network for Business and Industrial Statistics(CD-ROM).
- 4) 安川武彦, 椿広計 (2003) 格付けデータの非線形性に関する分析, 2003年度統計関連学会連合大会講演報告集, pp.239-240.
- 5) 石田実, 松下幹直, 椿広計 (2003) 為替レートに整合する通貨価値の推定手法, 2003年度統計関連学会連合大会講演報告集, pp.487-488.
- 6) 角埜恭央, 椿広計 (2003) 第2回 IT 経営度調査結果—CIOの特徴を中心に, 経営情報学会 2003年度秋季全国研究発表会 (CD-ROM) .
- 7) 椿広計 (2003) Karl Pearson の統計科学—自己本位の学問としての統計科学, 大分統計談話会第28回大会.
- 8) 椿広計 (2003) 標準委員会活動報告「品質管理関連標準化ニーズ調査」, 日本品質管理学会第33回年次大会研究発表会.
- 9) 椿広計, 椿美智子 (2003) 探索的共分散構造分析: 因子構造と共線性構造の折衷, 科研費基盤研究 A(1)「量子推測理論の数理統計学的基礎とその応用」シンポジウム「数理統計学と計量心理学を繋ぐ」
- 10) 椿広計, 岩崎正和 (2003) 非ガウス多変量指数型分布族, 竹内啓先生古希記念シンポジウム.

iii) その他

- 1) 椿広計 (2004) クオリティマネジメント雑感, 統計情報, Vol.53, No.4, pp.2-3

(2) 学会活動

- 1) (社)日本品質管理学会理事・標準委員会委員長・長期計画委員会委員・拡大計画研究会「シミュレーションとSQC」主査
- 2) 応用統計学会理事・南関東地区を代表する評議員
- 3) 日本計量生物学会理事
- 4) 横断型基幹科学技術研究団体連合企画委員・「シミュレーションとQC」調査研究委員会幹事,「知的財産問題」調査研究委員会委員
- 5) 日本学術会議・学術の在り方常置委員会・新しい学術の体系と横幹科学分科会オブザーバー
- 6) (社)計測自動制御学会・横断型科学技術の役割とその推進委員会委員・モデル・コンピューティング分科会幹事
- 7) International Statistical Institute, Business & Industry Committee, Advisory Member.
- 8) 臨床評価刊行会・臨床評価誌編集委員

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究(B), 「企業の情報設備投資が経営効果に繋がる仕組みに関する計量的研究」, 平成14年度-15年度科学研究費, 基盤研究(B) 成果報告書全221頁。

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科： 多変量解析, 統計的管理, 統計的方法とその応用, 統計モデル輪講

(2) 役職・各種委員会委員

ビジネス科学研究科： ビジネス科学研究科運営委員, 経営システム科学専攻広報担当, 新専攻WG

(3) 他大学における教育活動

- 1) 群馬大学大学院工学系研究科非常勤講師 (知能システム工学論)
- 2) 東京理科大学大学院工学系研究科経営工学専攻医薬統計コース非常勤講師 (一般化線形モデル論)
- 3) 東京大学大学院相関社会額研究科博士論文審査委員

III. 社会的活動

- 1) 総務省統計審議会国民生活部会専門委員
- 2) 総務省独立行政法人評価委員会統計センター分科会専門委員
- 3) 経済産業省日本工業標準調査会臨時委員 (管理システム規格専門委員会, 電気技術専門委員会)
- 4) 厚生労働省薬事食品衛生審議会臨時委員 (再評価部会)
- 5) 経済産業省産業技術環境局・公害防止管理者制度検討会委員
- 6) 総務省統計局・統計調査技術情報処理専門会議専門委員
- 7) 医薬品副作用被害救済機構研究振興調査機構・治験相談臨時顧問

- 8) 独立行政法人統計センター・データエディティング研究会委員
- 9) 財団法人日本規格協会電気電子機器分野の環境規格国際整合化委員会委員長・標準委員会委員・環境管理規格審議委員会委員, JIS Z8101-3 原案作成委員会委員
- 10) 財団法人日本適合性認定協会評議員・環境技術委員会委員長
- 11) 財団法人日本気象協会・ILAS-II 等衛星データ検証・データ検討委員会委員
- 12) デミング賞委員会実施賞小委員会委員・日経品質管理文献賞審査委員会委員
- 13) 社団法人日本機械工業連合会標準化推進特別委員会委員・環境適合設計分科会主査 (2004年3月, 環境適合設計手法の標準化に関する調査研究報告書, 全161頁)
- 14) 社団法人産業環境管理協会参与・環境審査員審査登録センター環境審査員審査判定委員会委員長
- 15) 国際標準化機構第69技術委員会「統計的方法の適用」並びに国内対応委員会のメンバー
- 16) 国際標準化機構第207技術委員会「環境マネジメント」用語整合化グループメンバー
- 17) (株)エーザイ・OFスタディ倫理モニタリング委員会委員長
- 18) 塩野義製薬株式会社「高齢者高血圧の治療効果に関する研究」第3者委員会委員
- 19) 椿広計(2003) ビジネスは科学たりえるかー漱石の自己本位に学ぶ-, 第3回 S-PLUS ユーザーカンファレンス基調講演, 同論文集, pp.16-24.
- 20) 椿広計(2003) 中小企業のISO14001, 社団法人産業環境管理協会「環境マネジメントシステム審査員への最新環境情報講演会」講演録, pp.3-44.
- 21) 椿広計(2004) 中小企業におけるマネジメントシステムの方向性, 第8回 JAB/ISO14001 公開討論会予稿集, pp.63-72.

寺野 隆雄

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Hiroshi Takahashi, Takao Terano: Agent-Based Approach to Investors' Behavior and Asset Price Fluctuation in Financial Markets. *Journal of Artificial Societies and Social Simulation* 6(3), Jun 30 2003
- 2) T. Terano, H. Deguchi, K. Takadama (eds.): Meeting the Challenge of Social Problems via Agent-Based Simulation, Springer, 2003.
- 3) 寺野隆雄: エキスパートシステムはどうなったか? 計測と制御, 42(6), 2003.
- 4) Takao Terano, Yoshinori Shiozawa, Hiroshi Deguchi, Hajime Kita, Hiroyuki Matsui, Hiroshi Sato, Isao Ono, Yoshihiro Nakajima: U-Mart An Artificial Market Testbed for Economics and Multiagent Systems. In Meeting the Challenge of Social Problems via Agent-Based Simulation pp.53-65, 2003
- 5) Masato Kobayashi, Takao Terano: Human-Agent Participation in a Business Simulator. Meeting the Challenge of Social Problems via Agent-Based Simulation pp.91-106, 2003
- 6) 寺野隆雄: Web上の情報推薦システム. 情報処理, 44(7), pp.696-701, July. 2003.
- 7) Hiroaki Shirai, Motonari Tanabu, Takao Terano, Yasushi Kuno, Hisatoshi Suzuki,

- Kazuhiko Tsuda: Game Development Toolkit for Business People in Japan. Simulation/Gaming, 34(3), pp.437-446, September 2003.
- 8) Takao Terano, Masato Kobayashi : Business Simulator Meets Software Players. Proc. e-Society 2003(IADIS International Conference) , pp.866-869,3-6 June 2003.
 - 9) Masaaki Kunigami, Takao Terano: Interaction and Control in a Learning Agent System. Proceedings of the International Workshop on Agent-Based Modeling, pp.47-53 June 23 2003
 - 10) Kenichi Naitoh, Takao Terano: Agent-Based Modeling to Analyze Competing Companies Proceedings of the International Workshop on Agent-Based Modeling,pp.79-89, June 23 2003.
 - 11) Masato Kobayashi, Takao Terano: Learning Agents in a Business Simulator. Proceedings 2003 IEEE International Symposium on Computational Intelligence in Robotics and Automation ,pp.1323-1327, July 16-20 2003.
 - 12) Kenichi Naitoh, Takao Terano: Agent-Based Modeling of Corporate Behaviors with Evolutionary Computation. Proceedings 2003 IEEE International Symposium on Computational Intelligence in Robotics and Automation, pp.1334-1339, July 16-20 2003.
 - 13) Masaaki Kunigami, Takao Terano: Connected Replicator Dynamics and Their Control in a Learning Multi-Agent System. In Liu, J., Cheung, Y., Yin, H. (eds.): Intelligent Data Engineering and Automated Learning & 4 th In. Conference, IDEAL 2003, Revised Papers. LNCS 2690, Springer, pp. 27-34, 2003.
 - 14) Yuji Katsumata, Takao Terano : Bayesian Optimization Algorithm for Multi-Objective Solutions: Application to Electric Equipment Configuration Problems in a Power Plant. IEEE Congress on Evolutionary Computation (CEC 2003), 2003.
 - 15) Fusako Kusunoki, Hideki Kaji, Mihoko Sugimoto, Takao Terano: Constructive Conversation Support for Collaborative Learning. Proceedings of the Second IASTED International Conference (IKS 2003), pp.283-286, 2003.
 - 16) Takao Terano, Hiroshi Takahashi: Analyzing Micro-Macro Structures in a Financial Market via Agent-Based Simulation. 7th Joint Conference on Information Sciences, pp.1255-1258, 2003.
 - 17) 高橋 大志, 寺野 隆雄 : エージェントモデルによる金融市場のミクロマクロ構造の分析 : リスクマネジメントと資産価格変動. 電子情報通信学会論文誌 D-I, Vol. J86-D-I, No. 8, pp. 618-628, 2003.
 - 18) 倉橋節也, 勝又勇次, 寺野隆雄 : ベイジアン最適化手法と分布推定アルゴリズムの動向. 人工知能学会誌, 18(5), pp.487-494, 2003.
 - 19) 寺野隆雄:エージェントベースモデリング:KISS原理を超えて. 人工知能学会誌, 18(6),pp.710-715, 2003.
 - 20) Takao Terano, Kenichi Naitoh:"Agent-Based Modeling for Competing Firms:From Balanced-Scorecards to Multi-objective Strategies ", Proceedings of the 37th Annual Hawaii International Conference on System Sciences 2004, pp.501-508, 2004.
 - 21) 寺野隆雄 : エージェント・アプローチ -経営情報学の新しいパラダイムをめざして-. 経営情報学会誌, Vol. 12, No.3, pp. 1-2, 2003年12月.

- 22) 寺野隆雄: エージェントベースアプローチ-特集にあたって-. オペレーションズリサーチ, Vol. 49, No. 3, p. 130, 2004.
- 23) 寺野隆雄: エージェント・ベース・モデリングへの招待. オペレーションズリサーチ, Vol. 49, No. 3, pp. 131-136, 2004.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) Masaaki Kunigami, Takao Terano: Analyzing and Taming Collective Learning of a Multiagent System with Connected Replicator Dynamics Prodeedings of NAACSOS 2003, June 22-25 2003.
- 2) Atsuko Arai, Takao Terano: Agent-Based Simulation for Educational Policy. Proc. 34th Conf. Int. Simulation and Gaming Assoc. (ISAGA 2003) Social Contributions and Responsibilities of Simulation and Gameing, pp.267-274, August 25-29 2003
- 3) Masato Kobayashi, Takao Terano: Exploring Business Gaming Strategies by Learning Agents. Proc. 34th Conf. Int. Simulation and Gaming Assoc. (ISAGA 2003) Social Contributions and Responsibilities of Simulation and Gaming, pp.557-566, August 25-29 2003.
- 4) Hiroyuki Matsui, Kazuhisa Taniguchi, Yasuhiro Nakajima, Isao Ono, Hiroshi Sato, Naoki Mori, Hajime Kita, Takao Terano, Hiroshi Deguchi, Yoshinori Shiozawa: U-Mart Project: New Research and Education Program for Market Mechanism. Social Contributions and Responsibilities of Simulation and Gaming, Paper No.105, August 25-29 2003
- 5) Akemi Morikawa, Takao Terano: Business Simulator Development Cycle with Human and Computer-Players. Social Contributions and Responsibilities of Simulation and Gaming, Paper No.132, August 25-29 2003
- 6) Takao Terano: Business Simulator toward P2M Education. Social Contributions and Responsibilities of Simulation and Gaming, Paper No.173, August 25-29 2003.
- 7) Eiji Murakami, Takao Terano: Fairy Wing: Distributed Information Service with RFID Tags. Eighteenth International Joint Conference on Artificial Intelligence Workshop on Multiagent for Mass User Support, pp.53-57, August 10 2003
- 8) Takao Terano, Kenichi Naitoh: Translating Agents' Actions to Strategic Measures: Agent-Based Modeling with Genetic Algorithms to Analyze Competing Companies. The Society of Computational Economics 9th International Conference on Computing in Economics and Finance, July 11-13 2003.
- 9) Takao Terano, Kenichi Naitoh: Agent-Based Modeling for Comperiting Firms:From Balanced-Scorecard to Multi-Objective Strategies”, Proceedings of the International Workshop on Virtual Environments for Advanced Modeling(VEAM), pp. 50-57, 2004.
- 10) Mina Ryoke, Takao Terano, Yoshiteru Nakamori:”Agent-based Approach to Knowledge Discovery from Database”, Proceedings of the International Workshop on Virtual Environments for Advanced Modeling(VEAM), p. 41, 2004.
- 11) 寺野隆雄: 人工知能から人口知能へ/エージェントベースモデルで社会を見る. 第14回ヒューマンマシンシステム研究会テキスト, pp.22-36, July 24-25 2003
- 12) 寺野隆雄: ゲームを作るとビジネスがわかるー社会人学生の協調学習の経験から. 日本科学教育学会年会論文集 27, pp.205 - 206, July 24-26 2003.

- 13) 寺野隆雄：ビジネスゲームによる社会人教育． 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2003 講演論文集, pp.103-106, 2003.
- 14) 寺野隆雄：ベイジアン最適化算法の多峰性問題・多目的問題への拡張． 2003 年ベイジアンネットセミナー資料, pp.69-72, 2003.
- 15) 寺野隆雄：複雑適応系と組織行動—人工知能から人口知能へ． 電子情報通信学会技術研究報告 Vol.103No244, pp.31-36, 2003.8.1.
- 16) 村上英治, 寺野隆雄：共通性のあるインターネット上の文書からの情報クリッピング． 人工知能学会 第 61 回知識ベースシステム研究会資料, pp.171-176, 2003 年 9 月 14 日.
- 17) 村上英治, 寺野隆雄：“人の教示による関連知識獲得方法”, 人工知能学会知識ベースシステム研究会第 64 回資料, pp.207-212, 2004.
- 18) 谷口憲, 寺野隆雄：“論理プログラミングによる可変長染色体表現に基づく遺伝的プログラミング”, 計測自動制御学会 第 31 回知能システムシンポジウム資料 pp.49-54, 2004.
- 19) 中野健次, 海野一則, 下平利和, 松山科子, 寺野隆雄：“ビジネスゲームとケースメソッドの統合にむけて”, 経営情報学会 2004 年春季全国研究発表大会予稿集, pp. 292-295, 2004.

iii) その他

- 1) 寺野隆雄 (監訳)：対立と協調の科学-エージェント・ベース・モデルによる複雑系の解明-. ダイヤモンド社, 2003 (R. Axelrod : The Complexity of Cooperation, 1997)
- 2) 高木晴夫 (監訳) 寺野隆雄 (訳)：複雑系組織論-多様性・相互作用・淘汰のメカニズム-. ダイヤモンド社, 2003 (R. Axelrod, M. D. Cohen: Harnessing Complexity, 1999)

(2) 学会活動

- 1) 計測自動制御学会:知能工学部会委員, システム情報部門部門長
- 2) 日本機械学会：RC194 プラントエンジニアリングにおける知的統合システム化技術研究分科会委員
- 3) 社会情報学会：学会誌編集委員
- 4) 電子情報通信学会：人工知能と知識処理研究会委員
- 5) 経営情報学会：論文誌編集委員
- 6) PAKDD2003 (Pacific Asian conf. on Knowledge Discovery and Data mining) ステアリングコミッティ委員；プログラム委員
- 7) PACIS2003 (Pacific Asian Conference on Information Systems) ステアリングコミッティ委員；プログラム委員
- 8) AESCS 2003 (Agent-based approach to Economic and Social Complex Systems) プログラム委員長

(3) 研究助成など

- 1) 特定領域研究 (情報学)「WEB コンテンツ情報に基づくリコメンダー技法の開発」代表者
- 2) 特定領域研究 (アクティブマイニング)「ヒューマン・システム・インタラクションに基づく知識の評価と選択」分担者 (代表：大澤幸生助教授)
- 3) 科学研究費, 基盤研究 (B) (2), 「多主体複雑系に基づくエージェント社会モデルの構築と適用」代表者

- 4) 科学研究費，基盤研究（B）（2），「ゲーム性を取り入れた手話学習システムのデザインと評価」分担者（代表：楠 房子助教授（多摩美術大学））
- 5) 科学研究費，基盤研究（B）（1），「多主体複雑系として見た経営組織とそのマネジメントの研究」分担者（代表：高木晴夫（慶応大学））
- 6) 科学研究費，基盤研究（C），企画調査「人工社会組織研究とゲーミングシミュレーション研究の融合による研究展開」分担者（代表：新井潔（千葉工業大学））

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科：分散知能論，システムマネジメント特別演習，システムマネジメント講究，社会コミュニケーション，社会コミュニケーション輪講

(2) 役職・各種委員会委員

ビジネス科学研究科：企業科学専攻専攻長，運営委員

土井 正幸

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 『港湾と地域の経済学』（編著）多賀出版，2003年11月（2004年日本港湾協会論文賞受賞）
- 2) "Containerized Cargo Shipper's Behavior in China: A Discrete Choice Analysis", *Journal of Transportation and Statistics*, Vol.6, No.1, March 2003, pp.72-86.
- 3) "A CGE Analysis of the Potential Impact of Information Technology on the Japanese Economy", *The Journal of Policy Reform*, Vol.6, No.1, March 2003, pp. 17-33.
- 4) "Spatial Pattern of Japanese Manufacturing Industry in Four ASEAN Countries", *Papers in Regional Science*, Vol.82, No.3, July 2003.
- 5) 「ノンサーベイ・アプローチによるつくば市産業連関表の作成と応用」, 『産業連関』, Vol.12, No.1, pp.3-15, 2004年2月.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) "National and Regional Wage Curves in Japan, 1981-2001", *The North American Regional Science Conference (Philadelphia, U.S.A.) (November 2003)* 発表
- 2) 「日本の交通部門における排出ガス削減のCGE分析」, 環太平洋産業連関分析学会研究発表大会（2003年11月静岡大学）発表
- 3) 「日本の労働市場における賃金曲線の推定」, 応用地域学会研究発表大会（2003年12月埼玉大学）発表

iii) その他

- 1) 「日本における地域経済の成長回帰分析－既存研究のサーベイとデータ整備の課題－」, 『平成15年度多目的統計データバンク年報』筑波大学社会工学系多目的統計データバンク報告書, No.80, pp.27-40, 2004年3月

(2) 学会活動

- 1) Managing Editor, Review of Urban and Regional Development Studies Editor, Journal of Applied Input-Output Analysis
- 2) 応用地域学会運営委員
- 3) 環太平洋産業連関分析学会運営委員
- 4) 日本交通学会評議員, 学会賞審査委員
- 5) 日本港湾経済学会年報編集副委員長, 広報システム委員長
- 6) 日本海運経済学会評議員

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究 (B) (2), (代表者)
- 2) 筑波大学学内プロジェクト助成研究 (A), (代表者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科: 地域経済学特論

経営・政策科学研究科: 地域経済学, 交通経済政策論

社会工学類: 地域経済学, 交通経済学, Introduction to Urban and Regional Planning, 地域科学演習 III

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系: 運営委員

経営・政策科学研究科: 就職委員長

社会工学類: 予算委員

(3) 他大学における教育活動

- 1) 流通経済大学非常勤講師

III. 社会的活動

- 1) 茨城県港湾審議会委員
- 2) 国際協力事業団支援委員会委員
- 3) 国土交通省, 日本港湾協会, 茨城県等, 各種調査・研究委員会の委員

永井 裕久

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Contingency based global Leadership Competency, ASTD, 2004
- 2) Development of Global Leadership Competency Model, AOM, 2004
- 3) 高業績グローバルマネジャーのコンピテンシー活用に関する国際比較調査, 国際ビジネス研究学会報告, 2004

(2) 学会活動

- 1) Japan Representative, Consortium for Expatriates Management Studies

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 「グローバルプロトコルの構築に向けた営業職の商交渉行動に関する国際比較調査」, (代表者)
- 2) 科学研究費, 「メタ認知を援用したグローバルリーダーシップの国際比較研究」, (代表者)

中村 豊

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Nakamura, Yutaka (2003) Objective belief functions induced, measures Theory and Decision, 55, pp. 71-83.
- 2) Nakamura, Yutaka: Trichotomous preferences for gambles, Journal of Mathematical Psychology. (to appear)

(2) 学会活動

- 1) A member of Editorial Board of Journal of Mathematical Psychology.

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： ミクロ経済学特論
経営・政策科学研究科： 意思決定分析, 数学 II
社会工学類： 意思決定論, 社会経済実習

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系： 学系運営委員

システム情報工学研究科： 専攻運営委員
経営・政策科学研究科： 予算委員長
社会工学類： 予算委員

橋本 昭洋

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Hashimoto, A. and Wu, D.-A., A DEA- compromise programming model for comprehensive ranking. Journal of the Operations Research Society of Japan, (forthcoming).

(2) 学会活動

- 1) セミナ講演 東洋経済新報社
- 2) 査読 European Journal of Operational Research, Review of Urban & Regional Development Studies 各誌

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： システム評価特論
経営・政策科学研究科： システム評価決定論, 数理計画実習
社会工学類： 評価と決定, 社会経済実習

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系： 社会工学系長

藤原 良叔

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) R. Fuji-Hara, Y. Chang and Y. Miao, Combinatorial Constructions for Optimal Optical Orthogonal Codes IEEE Transactions on Information Theory, 49(5), 1283-1292 (2003)
- 2) Wang, J Seberry and R Safavi-Naini and R. Fuji-Hara, A note on the exposure property of SBIBD, Electronic Notes in Discrete Mathematics, 15, pp.227-229, (2003)

(2) 学会活動

- 1) Foundation Fellow: Institute of Combinatorics and its Applications
- 2) Editorial Board: Journal of Combinatorial Mathematics and Combinatorial Computing, Winnipeg Canada
- 3) Council member: Institute of Combinatorics and its Applications

- 4) レフリーイング (IEEE IT, JSPI),
- 5) AMS レビューイング (3-4 件)

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究 (B) (2), 「デリバティブ価格計算のための超一様分布列の構成に関する研究」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 情報離散数学特講

経営・政策科学研究科： 情報離散数学特講

社会工学類： 社工情報処理実習 III, シミュレーション, 総合演習-社会システム分析

古川 俊一

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Japan's Road to Pluralism: Transforming Local Communities in the Global Era, Edited by Furukawa Shun'ichi and Menju Toshihiro, Japan Center for International Exchange distributed by the Brookings
- 2) 『行政評価実践ゼミナール』(編著) ぎょうせい, 2003 年
- 3) Non Profit Organizations and Knowledge-Based Governance. In Samiul Hasan and Mark Lyons, Social Capital in Asian Sustainable Development Management. Hauppauge, NY: Nova Science Publishers, 2004, pp.171-181
- 4) 古川俊一・磯崎肇「統計的生命価値と規制政策評価」『日本評価研究』4 巻 1 号, 45-56.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 「公共事業の評価手法における不易と流行」日本地方財政学会, 札幌コンベンションセンター, 2003 年 7 月 5 日
- 2) 「政策評価の現状分析と政策マネジメントの方向」ワークショップ A 「実践事例からみた政策評価 (行政評価)・政策マネジメントの現状分析とあるべき姿を探る」日本計画行政学会, 東北大学, 2003 年 9 月 20 日
- 3) 「公共事業における評価手法転換の課題と展望」日本計画行政学会, 東北大学, 2003 年 9 月 21 日
- 4) Unintended Consequences of the Relationship between Politics, Bureaucracy, and Civil Society: Interim Evaluation of Japan's Public Sector Reform, A paper presented to the Session on Comparative Public Sector Reform At the Seventh International Research Symposium of Public Management, Hong Kong, 2-4 October 2003.
- 5) 「地方行革の新展開と経営志向の台頭－NPM と評価の効用と限界－」 「新公共経営・政策評価フォーラム第 2 回シンポジウム－地方公共団体における行政改革と独立行政法人評

価」, 2003年12月5日, 東京虎ノ門パストラル

- 6) 「行政とNPOの協働関係の枠組再考: 公共経営とガバナンス」日本NPO学会, 2004年3月19日, 横浜開港記念館
- 7) "What Sustains Behavior Geared To NPM Environment in the Workplace? A Critical Analysis of the Incentive Mechanism in the Case of Japan's Local Government," A paper presented to the 8th International Research Symposium on Public Management, Budapest University of Economic Sciences and Public Administration, Budapest, Hungary, 31 March 2004.

iii) その他

- 1) NPMレジームの虚実-経営システム確立の課題と処方箋-『茨城県政策情報誌フォーラム』12号, 2003年4月, pp. 2-7.
- 2) 開戦前夜のワシントンと現代行政の課題上下『政府刊行物新聞』868号, 869号, 2003年6月
- 3) 「心の病か内臓の病か-公務災害と行政改革」『災害保障』437号, 2003年6月号, pp.1-2.
- 4) 「人事管理から業績管理・人的資本経営への道と課題」『地方公務員月報』480号, 2003年7月号, pp.2-15
- 5) 「評価運用上の死角とその克服」『自治フォーラム』527号, 2003年8月号, 12-17.
- 6) 書評「地方が変われば日本も変わる-村松岐夫・稲継裕昭『包括的地方自治ガバナンス改革』東洋経済新報社, 2003年」『自治実務セミナー』42巻8号(494号) p. 77.
- 7) 「市町村合併」『筑波大学新聞』231号筑波時評, 2003年9月19日 p. 5.
- 8) 「民営化とNPMは公共的事業の究極の到達点か」『公営企業』2003年9月号, pp. 2-12.
- 9) 「新公共経営・政策評価フォーラム第一回シンポジウムパネルディスカッション」『SRI』73号, 静岡総合研究機構, 2003年10月, pp.44-68.
- 10) 「内政構造の改革とわれわれの暮らし」『政府刊行物新聞』2004年1月5日号
- 11) 「評価とは何か, どう活用するか, 課題の解決方法-理論と実際」『日本都市センター関係都市企画担当課長会議および都市シンクタンク等交流会議・合同会議 平成15年度実施報告書』日本都市センター, 51-75, 114-115.
- 12) 「地方行革の新展開と経営志向の台頭」『SRI』76号, 静岡総合研究機構, 2004年3月, pp. 3-5.
- 13) 「新公共経営・政策評価フォーラム第2回シンポジウムパネルディスカッション」『SRI』76号, 静岡総合研究機構, 2004年3月, pp.13-39.
- 14) 「評価の定着・成功への工程表-政策形成への活用と経営システムとしての運用」『地方財務』597, 34-52.
- 15) 「地方行革の新展開と経営志向の台頭-NPMと評価の効用と限界-」『行政管理研究』105, 45-56.
- 16) 道路行政マネジメント研究会提言『「成果主義」の道路行政マネジメントへの転換-理論から実践へ』, 2003年6月13日
- 17) 松戸市行財政改革専門家会議報告書, 2003年10月27日
- 18) 静岡県内政制度改革研究会報告書, 2003年11月26日

- 19) 「パネルディスカッション 計画・予算・評価の連携と参加の役割を考える」『財政危機下の自治体改革』日本都市センターブックレット, 第9号, pp.65-117.

(2) 学会活動

- 1) 国際行政学会 (International Institute of Administrative Sciences, IIAS, Rapporteur: 企画委員兼分科会座長)
- 2) 日本行政学会
- 3) 日本政治学会
- 4) 日本計画行政学会
- 5) 日本地方財政学会
- 6) 国際公会計学会 (理事)
- 7) 日本公共政策学会
- 8) 地方自治経営学会 (理事)
- 9) 日本NPO学会
- 10) 日本評価学会 (理事, 学会誌編集委員会副委員長)
- 11) 日本比較政治学会
- 12) 日本地域政策学会

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 「財政調整制度の国際比較」, (分担者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 比較行政システム特論

経営・政策科学研究科： 地方行財政論, 公共政策評価論

社会工学類： 地方行財政論, 社会システム論

(2) 役職・各種委員会委員

全学： 入試実施委員

社会工学系： 図書委員長

経営・政策科学研究科： 運営委員

社会工学類： 入試実施副委員長

(3) 他大学における教育活動

- 1) 政策研究大学院大学客員教授

III. 社会的活動

- 1) 総務省消防庁「消防組織のあり方に関する研究会」委員
- 2) 国土交通省道路行政マネジメント研究会委員長

- 3) 地方公務員災害補償基金運営審議会委員
- 4) 国際協力事業団（2003年10月より国際協力機構）外部有識者委員会委員（業績評価小委員会委員長）
- 5) 大学評価・学位授与機構大学評価委員会評価員
- 6) 静岡県内政制度改革研究会委員
- 7) 茨城県「公共事業再評価委員会」委員
- 8) 横須賀市まちづくり評価委員会委員及び都市政策研究所専門委員
- 9) 松戸市行財政改革専門家会議委員長
- 10) 財団法人 自治総合センター行政評価システムに関する委員会委員
- 11) 財団法人 消防設備安全センター国際消防協力推進委員会委員
- 12) 財団法人 日本都市センター研究アドバイザー
- 13) 総務省自治大学校講義（監査委員事務局職員，第1部）
- 14) 国際協力事業団地方行政コース集団研修講師

星野 靖雄

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Influence of Corporate Culture, Structure and Strategy on Organizational Performance: An Empirical Study of Business Organizations in Sri Lanka, Japanese Journal of Administrative Science, Vol.16 No.3, 2003, pp.227-242. (Sriya Kumarasinghe と共著)
- 2) An Analysis of the Determinants of the Performance of Japanese Manufacturing Investments in NAFTA, Europe and NIEs, Journal of Business Management(日本経営学会誌) 第10号, 2003, pp.65 - 87, (Mourad Mansour と共著)
- 3) The Choice between Joint Ventures and Wholly owned Subsidiaries: the Case of Japanese Direct Investment in Europe, Japanese Journal of Administrative Science, with Kais Ben Youssef, Vo.17 No.1 2003, pp.31-46, (Kais Ben Youssef と共著)
- 4) A Methodological Approach to Analyze Adjustments in Capital and Risk: Japanese Banks in Perspective, Journal of Financial Management and Analysis, , Vol.16 No.2 2003, Wenxiu Ma と共著)
- 5) 役員報酬，賞与と企業の市場価値変化との関係について—バブル崩壊前後のパネル分析—, 経営行動科学, Vol.17 No.2, pp.85-95, 2004, (大森香織と共著)

ii) その他

- 1) 在日外資系企業の進出形態と収益性，東京家政学院筑波女子大学紀要，王彦人と共著，第7号 2003年3月，179 - 198頁.
- 2) Corporate Governance in Japan, Collected Papers of the 11th Annual Conference on Pacific Basin Finance, Economics, and Accounting, edited by Cheng F. Lee, pp.527-540.
- 3) 航空機産業における企業の合併と提携に関する研究，経営行動科学学会大6回年次大会発表論文集，pp.207 - 223, 2003年11月15-16日（中橋亮樹と共著）

- 4) Influence of Location Factors on Entry Mode Decisions: the Case of Japanese Manufacturing Firms in Europe , 経営行動科学学会大6回年次大会発表論文集 pp.224-249, 2003年11月15-16日 (Ilian Somlev と共著)
- 5) The Choice between Joint Ventures and Wholly owned Subsidiaries: The Case of Japanese Direct Investment in Europe, 経営行動科学学会大6回年次大会発表論文集, pp.250-270, 2003年11月15-16日 (Kais Ben Youssef と共著)
- 6) An Empirical Study of Japanese Subsidiaries' Performance in Brazil, 経営行動科学学会大6回年次大会発表論文集, pp.271-305, 2003年11月15-16日 (Mario Henrique と共著)

(2) 学会活動

- 1) 経営行動科学学会副会長
- 2) 経営行動科学学会研究担当理事 兼「経営行動科学」編集委員長
- 3) The Japanese Economy 誌の諮問委員会の委員として編集活動にあたった.
- 4) Journal of Financial Management and Analysis: International Review of Finance, Review of Pacific Basin Financial Markets and Policies の編集委員会の委員として編集活動にあたった.
- 5) 同上誌および Review of Quantitative Accounting and Finance, Journal of Comparative Economics, 慶応経営論集の査読を行った.

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究 (C) (2), 「国際的企業合併, 買収, 撤退, 合併, 完全子会社の業績についての実証研究」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 経営管理特論

経営・政策科学研究科： 経営管理論

社会工学類： 経営管理論

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学類： 予算委員長

(3) 他大学における教育活動

- 1) 東京家政学院筑波女子大学国際学部国際ビジネス論・短期大学部経営学総論担当非常勤講師
- 2) 名古屋外国語大学国際経営学部国際経営戦略論担当非常勤講師

松田 紀之

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 松田紀之.「優しいインターフェイスによる好みの把握」. 日本行動計量学会第31回大会特別セッション「好みの計量1」. 東京. 2003. 9月
- 2) 松田紀之.「人に優しい Stepwise Probing の提案」. 日本行動計量学会第31回大会特別セッション「マーケティングの新領域」. 東京. 2003. 9月

(2) 研究助成など

- 1) 消費者の無糖茶評価／購入決定支援システムの開発ーサントリー (株)
- 2) 「中高年者の選好を効率的に抽出する Probing 手法に関する研究」ー資生堂 (株)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 行動科学特論

経営・政策科学研究科： 心理情報分析, MBA 演習 I

社会工学類： 情報行動分析

(2) 役職・各種委員会委員

全学： 就職委員

経営・政策科学研究科： 運営委員

III. 社会的活動

- 1) 講演=シンポジウム「“感動”商品と消費者科学」. 2003.9.16 産業科学システムズ

宮越 龍義

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Spillovers of stock return volatility to Asia equity markets from Japan and the US, 単著, 2003.7, Journal of International Financial Markets, Institutions and Money, 13(4)
- 2) A testing of the purchasing power parity hypothesis using a vector autoregressive model, 単著, Empirical Economics, forthcoming, April, 2003
- 3) An Alternative Method for Predicting Technical Inefficiency in Stochastic Frontier Models, (with Tsukuda, Y.), 2003.10, Applied Economics Letters, 10(11)

- 4) The causes of the long stagnation in Japan, (with Tsukuda, Y.), 2004.2 Applied Financial Economics, 14(2)
- 5) Regional Disparities of the Japanese Banking Performance, (with Tsukuda, Y.), 2004.3 Review of Urban & Regional Development Studies, 16(1)

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) A Theoretical Assessment of the Rescue Package for Japanese Banks, 2003.9, 日本経済学会秋季大会, 単著
- 2) Who drives the Russian Financial Markets?, (with Jalilov, M.), 2003.10, 金融学会秋季大会
- 3) Measuring the Welfare Cost of the Japanese Long Stagnation, (with Okubo, M), 2004.2, The 43rd Annual Meeting of the Western Regional Science Association at Hawaii

(2) 学会活動

- 1) 金融経済研究 (日本金融学会) 編集委員
- 2) 日本経済学会理事

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究 (C) (2), 「日本経済の発展とこれまでの金融システムの役割そして金融システムの再構築」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 計量ファイナンス特論

経営・政策科学研究科： ファイナンス実践, 金融分析, MBA 演習 II

社会工学類： 金融論, 経済学入門

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系： 就職委員

経営・政策科学研究科： 就職委員

社会工学類： 就職委員長

門田 安弘

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 「管理会計学テキスト：第3版」税務経理協会, 2003年5月刊。(単編著)
- 2) 日本会計研究学会 特別委員会 中間報告書「企業価値と組織再編の管理会計に関する研究」, 2003年9月刊。(委員長として編集)

- 3) 對事業部評価與管理者評価之日本式經營管理理念的導入,「會計研究月刊」Vol.209, pp.81-90. (李 超雄訳:門田安弘「事業評価と管理者評価への日本の特色の導入」)
- 4) 書評:吉田栄介著「持続的競争優位をもたらす原価企画能力」(中央経済社, 2003年)『企業会計』Vol.55 No.6 June 2003年 p.124.
- 5) JIT生産システムの原価管理, ジャストインタイム生産システム研究部会編「ジャストインタイム生産システム」日刊工業新聞社 第2章, pp.50-68.
- 6) JIT生産システムの国際化, ジャストインタイム生産システム研究部会編「ジャストインタイム生産システム」日刊工業新聞社 第7章, pp.175-197.
- 7) 企業価値と組織再編の管理会計に関する研究,「会計プロGRESS」No.4, 2003年. pp.107-109.

ii) その他

- 1) MOT教材:「企業間のリレーションシップ:エンジニアリングチェーン・マネジメントとサプライチェーン・マネジメント」について, (1)事前学習教材, (2)パワーポイントスライド, (3)ティーチング・ノート, (4)講義要録, (5)用語集, (6)ケーススタディ, (7)ケーススタディティーチングノートを作成.
- 2) 日本会計研究学会 平成14年度～平成15年度 特別委員会「企業価値と組織再編の管理会計に関する研究」委員長として, 2003/9/10 同特別委員会の「中間報告書」を日本会計研究学会の全国大会(近畿大学)で発表した.

(2) 学会活動

- 1) 日本会計研究学会 平成14年度～平成15年度 特別委員会「企業価値と組織再編の管理会計に関する研究」委員長
- 2) 日本会計研究学会の評議員に当選(2003/9/12～).
- 3) 日本管理会計学会 企業調査研究プロジェクト総括委員会委員長
- 4) Encyclopedia of Production and Manufacturing Management (Kluwer Academic Publishers, 2000)の翻訳のために, 黒田 充・門田安弘・森戸 晋監訳「生産・製造管理大辞典」(朝倉書店)を企画し, 会計学・製造業の経営・人事の3分野に分担翻訳者を割当てた.
- 5) 日本原価計算研究学会の理事会に出席(2003/9/5 日本大学経営学部). 9月6日の理事選挙結果, 再度, 理事に当選.
- 6) 日本管理会計学会のテーマセッション「戦略的プロセス革新」でコメンテータ.
- 7) スペインとポルトガルにMOT教材開発のための資料収集と意見収集に出張(2003/11/23～12/2). (1)バルセロナ大学, (2)セビリヤ大学, (3)アベイロ大学を訪問.
- 8) 筑波大学に短期訪問中の客員研究員 Godfrey Chukudi ONWUBOLU 教授 (University of the South Pacific (南太平洋大学) Department of Engineering (工学科)の教授で学科長)を迎え, 株式会社クボタの筑波工場を訪問し, JIT生産方式の適用実務について見学と質疑応答の機会をもった(2004/1/13). また同教授と混流組立ラインの順序計画法について意見交換した(2004/1/6).
- 9) 学術振興会研究員としてマレーシアのマラ工科大学会計学部 (Universiti Teknologi Mara, Faculty of Accountancy) 准教授の Dr. Normah Omar を筑波大学に迎え, 日本管理会計について意見交換した(2004/1/22).

(3) 研究助成など

- 1) 学内プロジェクト：平成 15 年度筑波大学学内プロジェクト研究費研究課題「企業価値を向上する組織再編のための管理会計の研究」
- 2) 受託研究：産学連携等研究費経済産業省の「産業技術人材育成支援事業」の技術経営プログラム等開発に関して、(株)つくば研究支援センターより「つくば研究機関発ベンチャー MOT プログラム」開発を受託した。これにより、実践的リレーションシップマネジメント戦略論の module 5「企業間（中小企業を含む）・社員・投資家とのリレーションシップ」について、教材とケーススタディを開発した。
- 3) 日本会計研究学会より平成 15 年度特別委員会への研究助成金を委員長として受けた。

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 管理会計学特論
経営・政策科学研究科： 管理会計学
社会工学類： 会計学概論, 経営計画

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系： 将来構想懇談会委員
システム情報工学研究科： 計量ファイナンス・マネジメント専攻長
社会工学研究科： 運営委員, 論文審査委員

III. 社会的活動

- 1) 平成 15 年度公認会計士試験第 2 次試験委員として短答式の問題作成と論述式の問題作成および採点に従事した。(2002 年 11 月～2003 年 10 月)。
- 2) (株)つくば研究支援センター「つくば MOT 研究会委員」：2002 年 5 月 28 日～2003 年 3 月 31 日
- 3) (株)つくば研究支援センター主催の「MOT セミナー」において、「企業間リレーションシップ：エンジニアリング・チェーン・マネジメントとサプライチェーン・マネジメント」を講演した。(2003 年 10 月 24 日)

焼田 党

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) その他

- 1) [翻訳] 森嶋道夫著作集第 1 巻『動学的経済理論』岩波書店 (共訳)
- 2) Life expectancy, inflation and growth, CUIE Discussion Paper 0305 (Oct 2003).

(2) 学会活動

- 1) レフェリー：Oxford Economic Papers, Journal of Population Economics

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： マクロ経済学特論

経営・政策科学研究科： マクロ経済学

社会工学類： ミクロ経済学，公共経済学

(2) 役職・各種委員会委員

経営・政策科学研究科： 国際マネージメント委員会

社会工学類： クラス担任

(3) 他大学における教育活動

1) 中京大学非常勤講師 (学部：経済数学，経済成長論；大学院：経済成長論)

山本 芳嗣

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) K. Ando, A. Ohara and Y. Yamamoto, "Possibility theorem for mutual evaluation," Journal of the Operations Research Society of Japan 46 (2003) 4, 523-533.
- 2) J.Gotoh, N.v.Thoai and Y.Yamamoto, "Global optimization method for solving the minimum maximal flow problem," Optimization Methods and Software 18 (2003) 395-415.
- 3) S.Y.Wang, Y.Yamamoto and M.Yu, "A minimax rule for portfolio selection in frictional markets," Mathematical Methods of Operations Research 57 (2003) 141-155.
- 4) A.J.J.Talman and Y.Yamamoto, "Continuum of zero points of a mapping on a compact, convex set," to appear in SIAM J. Optimization.
- 5) N.V. Thoai, Y. Yamamoto and A.Yoshise, "Global optimization method for solving mathematical programs with linear complementarity constraints," to appear in Journal of Optimization Theory and Applications.

(2) 研究助成など

- 1) 科学研究費，基盤研究（B）（2），「制御不能な部分システムを含む最適化問題」，（代表者）
- 2) 科学研究費，基盤研究（C）（2），「単調性をもたない相補性問題に対する多項式時間の解法の開発」，（分担者）
- 3) みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社「時系列モデルに対する構造的数値解法の開発」に関する研究助成

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 数理計画特論 I, 数理計画特論 II

経営・政策科学研究科： 数学 II, 数理計画

社会工学類： 経営工学概論, 社会工学概論実習, 自由演習, 計算機科学

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科： 社会システム工学専攻長

横張 真

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

1)

2) マルコ・アマティ, 横張 真: 1930年代のロンドングリーンベルト設置時における土地所有者, 政府, プランナーの動向, 日本造園学会誌, 67巻5号, 439~444, 2003

3) 渡辺貴史, 大村謙二郎, 横張 真: 首都圏地方自治体における生産緑地法の買い取り請求と追加指定に関する運用実態の検討, 都市住宅学, 第43号, 138~143, 2003

4) 雨宮 護, 横張 真: ニュータウン内の公園・緑道における犯罪不安発生の実態, 都市住宅学, 第43号, 18~23, 2003

5) 福井晶子, 横張 真: 自己形成期の居住経験からみた居住地に対する印象とその要因の解明, 都市住宅学, 第43号, 24~29, 2003

6) Yokohari, M: Agro-activities in the Fringe of Asian Mega-Cities, Journal of The Japanese Institute of Landscape Architecture, International Edition, No.2, 128~133, 2003

7) Amemiya, M, M.Yokohari: Analyzing the Fear of Crime in Parks and Greenways: A Case Study of Tsukuba Science City, Japan, Journal of The Japanese Institute of Landscape Architecture, International Edition, No.2, 134~139, 2003

8) Marco, A, M.Yokohari: Lessons Learnt from Comparing Japanese and UK Planning Experiences, Journal of The Japanese Institute of Landscape Architecture, International Edition, No.2, 146~149, 2003

9) 渡辺貴史, 横張 真, 松澤龍人: 東京都における都市住民と関わる農業活動に対する農家の対応, 都市計画論文集, 38号, 637~642, 2003

10) マルコ・アマティ, 横張 真: ロンドングリーンベルト計画の策定に関わるグループの役割, 都市計画論文集, 38号, 607~612, 2003

11) 中島満香, 横張 真, 渡辺貴史: 歴史的な農村景観の保全からみたカナダのナショナルヒストリックサイト制度の特徴, 都市計画論文集, 38号, 559~564, 2003

(2) 学会活動

1) 日本造園学会・理事・総務委員会委員

- 2) 農村計画学会・理事・学術委員会委員長
- 3) 国際景観生態学会日本支部・幹事
- 4) 国際造園学会日本支部・理事
- 5) Editorial board member of Landscape and Urban Planning Journal (Elsevier)
- 6) Editorial board member of Landscape Research (Carfax Publishing)

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費，基盤研究（B）（2），「都市近郊における農地・里山を内包した小規模物質循環システムに関する研究」，（代表者）
- 2) 日産財団学術研究助成金（分担者）「アジアのメガシティにおける環境改善のための都市農業に関する計画論的研究」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 緑地環境計画特講

環境科学研究科： 緑地環境計画論

社会工学類： 緑地保全計画，Introduction to Urban and Regional Planning，環境計画システム論，都市計画実習 I，自由演習

総合科目： 都市・地域・環境を探る

(2) 役職・各種委員会委員

全学： キャンパスリニューアル実施委員（緑地景観担当），JTP（短期交換留学プログラム）委員

環境科学研究科： カリキュラム委員

社会工学類： 就職委員長，入試実施委員

(3) 他大学における教育活動

- 1) 非常勤講師（東京大学農学部）
- 2) 非常勤講師（京都大学農学部）
- 3) 客員教授（University of Guelph, Canada）

吉田 あつし

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 吉田あつし，川村頭，「1997年自己負担率の改定と歯科サービスの需要及び供給の変化」，『医療と社会』第13巻4号，2004，pp.95-112.

- 2) 吉田あつし, 福地純一郎, 「平均分散モデルにおける最適ポートフォリオのリスク推定」, 『ジャファイア・ジャーナル』(日本金融計量・工学学会), 2003年, pp. 3-21.

ii) その他

- 1) 吉田あつし, 山村麻理子, 「老人保健制度と医療サービスの需要および供給」, 筑波大学社会工学系 DP 1044.
- 2) Yoshida, A. and T. Shichijo, "Spatial Clustering of Housing Construction in the Tokyo Metropolitan Area: An Application of Spatially Clustered Fixed-Effects and Spatially Correlated Random-Effects Models," IPSS DP 1067, University of Tsukuba.
- 3) Yoshida, A. and Young-Sook Kim, "Sharing Health Risk and Income Risk Within Households: Evidence from Japanese Data," IPSS DP 1080, University of Tsukuba.

(2) 学会活動

- 1) 「社会保障研究」, 「応用地域学研究」のレフェリー

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 「医療・介護サービス需要と供給の計量分析」
- 2) 学術振興会, 「医療システムと倫理」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科: 都市経済学特論

経営・政策科学研究科: 都市経済学

社会工学類: 都市データ分析, 都市経済学, 都市構造論

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学類: コンピュータ委員, 入試委員

III. 社会的活動

- 1) (財) 関西社会経済研究所リサーチ・フェロー
- 2) 講演: 社会工学研究シンポジウム「公的医療保険制度の将来: 医者視点, 患者視点及び保険者の視点」, 筑波研究支援センター主催

吉田 健一

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) K. Yoshida, Entropy based Intrusion Detection Proc. of 2003 IEEE Pacific Rim Conference on Communications, Computers and Signal Processing, pp. 840-843, 2003

- 2) S. KATSUNO, et al., Asymmetric Characteristics of Internet Based on Traffic Measurement and Analysis, 電子情報通信学会 英文誌 D 「インターネットの新技术とその応用」 特集号, Vol.E86-D, No.11, pp.2300-2309, 2003
- 3) K. Yoshida, Stepwise Entropy Analysis, 信学技報, AI2003-56, Vol.103, No. 306, pp.39-43, 2003
- 4) 藤川裕充ほか, マスメイルの高速検出手法と評価, 信学会全国大会 予稿, B-6-201, pp201, 2004

(2) 学会活動

- 1) IEEE CS & IPSJ, International Symposium on Applications and the Internet 2004, Workshop Chair
- 2) 電子情報通信学会 情報・システム ソサエティ インターネット時限研究会委員長
- 3) 情報処理学会 高品質インターネット研究会幹事

(3) 研究助成など

- 1) 平成 14 年度 特定領域研究 (2), 「ヒューマンインタラクションに基づく知識の評価と選択」, (分担者)
- 2) 平成 14 年度 特定領域研究 (2), 「Web コンテンツ情報に基づくリコメンダー技法の開発」, (分担者)
- 3) 科学研究費, 基盤研究 (B), 「ユビキタス・ネットワーク社会におけるワンツーワン・マーケティング基盤の研究」, (代表者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科： 人工知能, 情報ネットワーク, ネットワーク特論

吉田 雅敏

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Optimal Taxation of Elderly Care Services, Japanese Economic Review 2004 pp. 86-100, 55(1), 共著.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 日本経済学会 2003 年度春季大会 「老人介護と租税政策」

(2) 学会活動

- 1) International Tax and Public Finance の査読

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 財政システム特論

経営・政策科学研究科： 財政学

社会工学類： 経済原論，マクロ経済学，財政学

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系： ファカルティセミナー委員

経営・政策科学研究科： 入試委員

社会工学類： 運営委員，学類カリキュラム戦略検討委員，第3学群教員会議構成員

(3) 他大学における教育活動

1) 明海大学大学院経済学研究科（非常勤講師）

吉武 博通

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

1) 「警察幹部に向けた組織マネジメント論」，警察学論集 2003年4月警察大学校編集

ii) その他

1) 「経済と社会をつなぐキーワードは”マネジメント”」，ビジネスリサーチ No.959, (社)企業研究会 55周年記念特別号インタビュー

2) 「21世紀の産学連携と国立大学の法人化」講演，第3回HR Iフォーラム，日立総合研究所 (2003.12)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科： ジョイントプログラム

(2) 役職・各種委員会委員

全学： 企画調査室員，法人化準備委員会幹事，組織運営専門委員，本部・部局運営専門委員，予算・定員管理専門委員，施設・安全管理専門委員会委員，任用・服務・労働条件専門委員会委員（労働条件分科会座長）

(3) 他大学における教育活動

1) 学習院大学経済学部（非常勤講師）

III. 社会的活動

- 1) 大学基準協会「平成15年度特色ある大学教育支援プログラム」審査部会委員
- 2) 警察大学校講師：警察運営科，警部任用科において「組織マネジメント論」を講義
- 3) 市町村職員中央研修所講師：組織改革財政運営等に関する講義
- 4) 厚生労働省看護研修研究センター講師
- 5) 松戸市行財政改革専門家会議委員
- 6) つくばMOT研究会委員
- 7) (社)企業研究会参与

有田 智一

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 「住宅金融公庫分譲住宅融資利用者にみる居住地選択と住環境情報の入手」(共著),『都市住宅学』第43号, 2003, pp.162-167.
- 2) 「ドイツにおける自治体都市計画プランナーの職能形成に関する調査」(共著),『都市計画論文集』, No.38-3,2003, pp.343-348.
- 3) 「公庫分譲住宅融資利用者の住替行動と居住地選択」(共著),『日本不動産学会大会梗概集』, 2003, Vol.19, pp.25-28.
- 4) 「住宅市街地の更新と狭隘道路整備の地域的展開の可能性」(共著),『財団法人住宅総合研究財団研究年報』, No.30, 2003, pp.77-88.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) "A comparative analysis of the location behaviour of the US and European semiconductor manufacturers," at the 43rd Congress of the European Regional Science Association, the University of Jyväskylä, Finland.(August, 2003.)
- 2) "A Comparison of industrial location behaviour within the US and European Semiconductor Industries," at the 50th Annual North American Meetings of the Regional Science Association International, 2003 in Philadelphia, PA, USA.(November, 2003)

(2) 学会活動

- 1) 日本建築学会建築法制委員会市街地環境基準小委員会委員
- 2) 日本建築学会建築基準法・都市計画法特別研究委員会委員
- 3) 日本都市計画学会事業委員会委員
- 4) 都市住宅学会編集委員会委員
- 5) 都市住宅学会学会賞委員会委員

(3) 研究助成など

- 1) 学内プロジェクト研究, 助成研究(B), 「産業組織・産業技術・産業立地の相互関連を踏まえた産業集積要因の再検討」
- 2) 平成15年度受託研究「筑波研究学園都市の科学技術関連の集積を活用した業務核都市の育成整備方策調査」(委託者: 土浦・つくば・牛久業務核都市整備推進協議会)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科: 産業立地論, 都市計画演習

社会工学類: フレッシュマン・セミナー, 統計学, 都市経済学, 計画行政論

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系： 予算委員

経営・政策科学研究科： カリキュラム委員， 広報委員， 文系修士棟防災組織消火班消火係

社会工学類： クラス担任

III. 社会的活動

- 1) 東京都江戸川区都市計画審議会委員
- 2) 土浦市都市計画マスタープラン策定委員会委員
- 3) 土地有効利用事業の効果的な推進に資する計画・事業の仕組みに関する検討委員会委員
((財) 国土技術研究センター)
- 4) シンポジウム「狭あい道路の整備と密集市街地の更新」(主催「狭あい道路研究会」， 協賛(株)地域科学研究会)， 2003年8月6日(水)於大阪(パネリスト)
- 5) シンポジウム「狭あい道路の整備と密集住宅市街地におけるまちづくり」(主催「狭あい道路研究会」， 協賛(株)地域科学研究会)， 2003年12月9日(火)於東京(パネリスト)
- 6) 建築基準法・都市計画法特別研究委員会第1回公開研究会『土地利用規制に関する計画決定手続き・審査システムにおける「参加」と「専門性」の位置づけ — 審議会・審査会の役割を中心に—』， 2003年10月30日(木)於東京(コーディネーター)

イリチュ(佐藤) 美佳

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) M. Sato-Ilic, Asymmetric Kernel Fuzzy Cluster Loading, Intelligent Engineering Systems through Artificial Neural Networks, Vol. 13, pp. 411-416, 2003.
- 2) M. Sato-Ilic, On Kernel based Fuzzy Cluster Loadings with the Interpretation of the Fuzzy Clustering Result, International Journal of Computational and Numerical Analysis and Applications, Vol. 4, No. 3, pp. 265-278, 2003.
- 3) M. Sato-Ilic, Weighted Principal Component Analysis based on Fuzzy Clustering, Scientiae Mathematicae Japonicae, Vol. 10, pp. 359-368, 2004.
- 4) M. Sato-Ilic, On Methods of Evaluation of Fuzzy Clustering, The Twelfth International Colloquium on Numerical Analysis and Computer Science with Applications, 2003 (invited lecture).
- 5) M. Sato-Ilic, Weighted Principal Component Analysis for Interval-Valued Data based on Fuzzy Clustering, IEEE International Conference on Systems, Man and Cybernetics, pp. 4476-4482, 2003 (invited).
- 6) M. Sato-Ilic, On Kernel based Fuzzy Cluster Loading, The Forth International Conference Intelligent Processing and Manufacturing of Materials, 2003.
- 7) 佐藤美佳, 分類構造に基づく区間データに対する重みつき主成分分析, 2003年度統計関連学会連合大会講演報告集, pp. 421-422, 2003.
- 8) M. Sato-Ilic, Features of Fuzzy Cluster Loadings, 2003年度統計数理研究所プロジェクト

ト研究「統計科学情報の高度利用」, pp. 41-46, 2004.

- 9) 大島純弥, 佐藤美佳, 区間データに対する代表値を考慮した主成分分析法, 第3回ソフトコンピューティング若手研究会講演論文集, pp. 41-48, 2003.
- 10) 河村允誉, 佐藤美佳, 意志決定モデルにおける個体間の相違性を考慮した非対称 Aggregation Operator, 第4回ソフトコンピューティング若手研究会講演論文集, pp. 21-26, 2003.
- 11) 佐藤真未, 佐藤美佳, 多次元尺度法を用いた広告言語の類似性解析, 第4回ソフトコンピューティング若手研究会講演論文集, pp. 81-84, 2003.
- 12) 港湾と地域の経済学 - 日本における港湾のサービス圏域分析 -, 多賀出版 (共著), 2003.

(2) 学会活動

- 1) International Journal of Hybrid Intelligent Systems 編集委員
- 2) 日本知能情報ファジィ学会誌編集委員会委員
- 3) 日本計算機統計学会広報委員会委員
- 4) 日本分類学会運営委員会委員
- 5) IEEE Transaction on Fuzzy Systems, International Journal of Uncertainty, Fuzziness and Knowledge-Based Systems, Advances and Applications in Statistics, 日本知能情報ファジィ学会誌, 計算機統計学, 等レフェリー

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究 (B) (2), 「制御不能な部分システムを含む最適化問題」, (分担)
- 2) 科学研究費, 基盤研究 (C) (2), 「単調性をもたない相補性問題に対する多項式時間の解法の開発」, (分担)

(4) その他

- 1) 日本港湾協会論文賞, 港湾と地域の経済学, 多賀出版 (共著)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科: リスク工学特別演習, ソフトデータ解析

経営・政策科学研究科: 多変量解析実習, シミュレーション実習

社会工学類: 経営工学実習, 数理統計学

(2) 役職・各種委員会委員

全学: セクシャル・ハラスメント筑波地区担当相談員

システム情報工学研究科: ファカルティディベロップメント委員

経営・政策科学研究科: 修士論文委員

社会工学類: カリキュラム委員, 非常勤講師審査委員

(3) 他大学における教育活動

- 1) 琉球大学工学部, 多変量解析 (2単位, 集中)

石井 健一

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Internet use via mobile phone in Japan, Telecommunications Policy, 28(1), pp.43-58
- 2) 『情報化の普及過程』、学文社.
- 3) メディアの普及、『社会情報学ハンドブック』、東京大学出版会.
- 4) インターネットの利用動向に関する実態調査報告書 2003、独立行政法人通信総合研究所 (共著)

i) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 平成 15 年度第 20 回情報通信学会 (2003 年 6 月 28 日, 慶応大学三田校舎) において, 「インターネット利用行動に及ぼすメンタリティの影響—日韓学生比較調査から」で発表をした.

(2) 学会活動

- 1) 「東京大学社会情報研究所紀要, 経営行動科学」レフェリー

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, (研究図書出版)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 社会調査論

経営・政策科学研究科： 社会調査論

社会工学類： 社会工学情報処理 II, 社会経済実習

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系： 学生担当教官室室員

III. 社会的活動

- 1) 日経広告研究所「広告の文化論的研究」研究会
- 2) 12 月 26 日に第 35 回韓日文化フォーラム『第 4 次日本大衆文化開放と韓日文化交流の展望』(国際交流基金ソウル文化センター主催) にて, 「東アジアにおける日本大衆文化の浸透とその要因」のテーマで講演した.

大澤 幸生

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 大澤幸生「ビジネスチャンス発見の技術」岩波アクティブ新書 (2004)
- 2) Y. Ohsawa and P. McBurney, eds. Chance Discovery, Springer Verlag (2003)
- 3) 大澤幸生 (監修・著) : 「チャンス発見の情報技術」 東京電機大出版 (2003)
- 4) 大澤幸生 (監修・著) : 情報処理学会 IT 教科書シリーズ 「知識マネジメント」 オーム社 (2003)
- 5) 松村真宏, 三浦麻子, 柴内康文, 大澤幸生, 石塚満 : 2ちゃんねるが盛り上がるダイナミズム, 情報処理学会論文誌, 45(3), (2004)
- 6) N. Matsumura, A. Miura, Y. Shibana, Y. Ohsawa, and T. Nishida, "The Dynamism of Nichannel," Journal of AI & Society (to appear, 2004)
- 7) Y. Ohsawa and Y. Nara, "Understanding Internet Users on Double Helical Model of Chance-Discovery Process,"
- 8) 松村真宏・大澤幸生・石塚満 : 議論構造の可視化による論点の発見と理解, 知能と情報 (日本知能情報ファジィ学会誌), 15(4), (2003)
- 9) 松村真宏・大澤幸生・石塚満 : 影響の普及モデルに基づくオンラインコミュニティ参加者のプロファイリング, 18, (4), pp.165-172 (2003)
- 10) 白井優樹・大澤幸生 : 生地メーカーにおける暗黙的顧客ニーズの発見, ファジィ学会論文誌, 15, (3), pp.275-285 (2003)

(2) 学会活動

- 1) 人工知能学会編集委員
- 2) 電子情報通信学会 人工知能研究会連絡委員
- 3) 筑波大学研究戦略室員
- 4) International Workshop on Active Mining
- 5) First European Workshop on Chance Discovery
- 6) International Conference on Web Intelligence 等プログラム委員
- 7) Journal of New Generation Computing 企画委員など

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究 (A), 「組織的チャンス発見を支援するシナリオマップ・システム」
- 2) 科学研究費, 特定領域研究 (2), 「ヒューマンシステムインタラクションによる知識の評価と選択」
- 3) 科学技術振興事業団さきがけ 21 自然・社会現象データからの予兆発見と利用
- 4) その他・企業から一般受託研究

(4) 受賞

- 1) 人工知能学会全国大会ベストプレゼンテーション賞「電子掲示板からのチャンス発見」(松村真宏・石塚満 共著)(2003)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科： データマイニング，知識マネジメント，予兆発見論

III. 社会的活動

- 1) ATR 知能ロボティクス研究所 客員研究員
- 2) チャンス発見コンソーシアム議長
- 3) チャンス発見コンソーシアム / 規格協会 / 筑波大学産学リエゾンなど，招待講演 7 件 (演題略)

太田 充

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 太田充，「二次元空間における均衡都市構造に関する研究 (Equilibrium urban structure in two-dimensional space)」

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 第 17 回応用地域学会研究発表大会，於埼玉大学経済学部 (口頭発表)

(2) 学会活動

- 1) 査読委員 (日本都市計画学会，日本地域学会)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 地域科学特論

経営・政策科学研究科： 都市地域計画，シミュレーション実習

社会工学類： 経済立地論，社工情報処理実習 I，地域科学演習 II

(2) 役職・各種委員会委員

全学： 外国人留学生後援会理事

社会工学類： 学生担当教官，クラス担任

経営・政策科学研究科： 留学生連絡協議会委員，修士論文委員

III. 社会的活動

- 1) つくば市教育問題「懇話会」委員

岡本 直久

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 代替燃料車のための燃料スタンドの配置に関する基礎的研究：土木計画学研究・論文集 No.20, 751 頁～758 頁, 共著 (古屋秀樹, 石田東生, 小畑晴嗣, 岡本直久); 2003 年
- 2) 主観的評価を考慮した渋滞判定に関する研究：土木計画学研究・論文集 No.20, 887 頁～894 頁, 共著 (石田東生, 古屋秀樹, 甲斐慎一郎, 岡本直久); 2003 年
- 3) ETC 車載器の普及に関する基礎的研究：土木計画学研究・論文集 No.20, 871 頁～878 頁, 共著 (岡本直久, 石田東生, 佃晋太郎, 古屋秀樹); 2003 年
- 4) 港湾整備効果計測に関する一つの考え方：会計検査研究 No.28, 127 頁～140 頁, 単著; 2003 年
- 5) Recognition of Traffic Congestions on Expressways and Travel Speed : Journal of Eastern Asia Society for Transportation Studies, No.4, paper number 2398 (CD-ROM), 共著 (ISHIDA Haruo, FURUYA Hideki, KAI Shin-ichiro and OKAMOTO Naohisa)

(2) 学会活動

- 1) 日本都市計画学会学術委員会委員
- 2) Eastern Asia Society for Transportation Studies, Secretariat

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究 (C), 「プローブカーを用いた渋滞計測と評価に関する研究」, 石田東生 (分担者)
- 2) 鉄道建設・運輸施設整備支援機構受託研究, 「大都市における火山灰災害の影響予測評価に関する研究」, 熊谷良雄 (分担者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：プロジェクト評価特論

経営・政策科学研究科：都市システム計画, 情報科学演習

社会工学類：情報基礎及び実習, 交通システム分析, 都市計画実習 III

(2) 他大学における教育活動

- 1) 青山学院大学大学第二部経営学部非常勤講師 観光論担当
- 2) 島根県立大学非常勤講師 地域経済論担当

桑嶋 健一

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Kuwashima, Kenichi “ Organizational Capability and Competitive Advantage in Pharmaceutical Product Development, ” Annals of Business Administrative Science Vol.2, No.2, pp.21-28, 2003.
- 2) 桑嶋健一・小田切宏之「医薬品産業」後藤晃・小田切宏之編『日本の産業システム 第3巻 サイエンス型産業』NTT 出版, pp.352-403, 2003 年.

(2) 学会活動

- 1) 組織学会：大会委員，企画委員
- 2) 研究・技術計画学会：評議委員，編集委員
- 3) 組織学会『組織科学』レフェリー
- 4) DIA(Drug Information Association)：Workshop in Japan on PROJECT MANAGEMENT Advisory Committee

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費，若手研究（B），「製薬産業の研究開発における組織能力の蓄積プロセスと企業戦略」，(代表者)
- 2) 科学研究費，基盤研究（B），「組織間学習としての技術移転プロセスの組織生態学的実証研究」，(分担者)
- 3) 科学研究費，基盤研究（B），「企業の情報・通信投資が経営指標改善に繋がる仕組みに関する計量的研究」，(分担者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科： 経営学基礎，経営戦略論，研究開発戦略，ビジネスマネジメント研究I

(2) 他大学における教育活動

- 1) 東京大学経済学部 非常勤講師（経営戦略論）

III. 社会的活動

- 1) 特定非営利活動法人グローバルビジネスリサーチセンター研究員
- 2) 東京大学ものづくり経営研究センター特任研究員

小林 信一

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 小林信一, 知識社会へ向けた教育改革『政策学入門』(政策分析ネットワーク編, 東洋経済新報社), 2003年4月
- 2) 小林信一, 「人の移動」の現状と今後の展望, 月刊経済Trend, 51, pp.34-35, 2003年4月
- 3) 小林信一, 研究者養成の課題, アエラムック, 93, pp.66-67, 2003年10月
- 4) 小林信一, 安全・安心な社会をどう構築するか, OHM, 91, pp.4-5, 2004年1月
- 5) 小林信一, 知識生産の地域的基盤『創造的コミュニティのデザイン』(荻谷剛彦ほか著, 有斐閣), 2004年1月
- 6) 小林信一, 大学院のグランドデザイン, IDE・現代の高等教育, 456, pp.22-27, 2004年1月
- 7) 小林信一, 研究事務高度化への対応, 大学研究, 30, pp.35-66, 2004年1月
- 8) Shinichi Kobayashi, Yoshiko Okubo, Demand Articulation, a key factor in the re-configuration of the present Japanese science and technology system, Science and Public Policy, 31, pp.55-67, 2004 Feb.
- 9) 両角亜希子, 齋藤芳子, 小林信一, 知識社会における大学教育と職業, 大学論集, 34, pp.109-131, 2004年3月
- 10) 小林信一, 若手研究者の養成, 高等教育研究紀要, 19, pp.62-70, 2004年3月
- 11) 小林信一, 研究と大学『岐路に立つ大学』(館昭, 岩永雅也編, 放送大学教育振興会), 2004年3月

(2) 研究助成など

- 1) 受託研究, 農林水産省農林水産技術会議, 「GMOの社会的受容を深めるための方策に関する研究」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科: イノベーションシステム, 知識生産と科学技術

(2) 他大学における教育活動

- 1) 東京大学教育学部非常勤講師「科学技術の社会学」
- 2) お茶の水大学理学部非常勤講師「情報と職業」

III. 社会的活動

- 1) 科学技術振興機構社会技術研究システム・システム研究センター長

猿渡 康文

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 政策資産配分策定モデル, 日本経営工学会論文誌, Vol. 54, No. 6, pp. 382–389, 2004
- 2) Random Graph Herding Model - An Application for Emerging Country Currency Markets -, H. Takayasu Edit, The Application of Econophysics, Proceedings of the Second Nikkei Econophysics Symposium, pp. 229–234, Springer, Tokyo, 2004
- 3) An Analysis of Contagion in Currency Markets Using Extreme Value Theory, Monetary and Economic Studies, 21(2), pp. 113–131, Institute for Monetary and Economic Studies, Bank of Japan, 2003
- 4) ビジネス数理への誘い, 朝倉書店, 2003

ii) その他

- 1) Early-Warning Indicator of Currency Crisis, 2003 年度秋季研究発表会アブストラクト集, pp. 16–17, 日本オペレーションズ・リサーチ学会, 平成 15 年 9 月 10 日–11 日.
- 2) 年金運営における重要度の数値化, 2003 年度秋季研究発表会アブストラクト集, pp. 20–21, 日本オペレーションズ・リサーチ学会, 平成 15 年 9 月 10 日–11 日.
- 3) テレビ番組 CM の割付に対する数理的アプローチ, 2003 年秋季研究発表会アブストラクト集, pp. 200–201, 日本オペレーションズ・リサーチ学会, 平成 15 年 9 月 10 日–11 日.
- 4) テレビ番組の CM 割付問題に対する解法, 2003 年度秋季研究発表会アブストラクト集, pp. 280–281, 日本オペレーションズ・リサーチ学会, 平成 15 年 9 月 10 日–11 日.
- 5) リーグ戦の対戦組合せとホームアウェイ付け可能性について, 2003 年度秋季研究発表会アブストラクト集, pp.318-319, 日本オペレーションズ・リサーチ学会, 平成 15 年 9 月 10 日–11 日.

(2) 学会活動

- 1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会庶務幹事

(3) 受賞

- 1) 第 24 回日本オペレーションズ・リサーチ学会事例研究賞受賞

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科： ビジネス数理 I, 計画数理, ロジスティクスとネットワーク, OR 演習, ロジスティクスとネットワーク輪講 I, ロジスティクスとネットワーク輪講 II, ロジスティクスとネットワーク輪講 III, 計画数理総論

繁野 麻衣子

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Maiko SHIGENO, Ichiro TAKAHASHI and Yoshitsugu YAMAMOTO, "Minimum maximal flow problem - An optimization over the efficient set-," Journal of Global Optimization 25 (2003) 425-443.
- 2) Satoru IWATA, S. Thomas McCORMICK and Maiko SHIGENO, "Fast cycle canceling algorithms for minimum cost submodular flow," Combinatorica 23 (2003) 503-525.
- 3) Maiko SHIGENO, "Maximum network flows with concave gains," Discussion Paper No.1027, University of Tsukuba (2003)
- 4) 阿部英樹, 繁野麻衣子, 糸井川栄一, 「ネットワークの頂点切断集合を用いた難燃化整備計画問題の解法について」日本オペレーションズリサーチ学会 2004 年春季研究発表会.

(2) 学会活動

- 1) 情報処理学会アルゴリズム研究運営委員会運営委員
- 2) レフェリー: Information Processing Letters, Applied Mathematics and Optimization など.

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究 (B) (2), 「制御不能な部分システムを含む最適化問題」, (分担者)
- 2) 科学研究費, 基盤研究 (C) (2), 「単調性をもたない相補性問題に対する多項式時間の解法の開発」, (分担者)
- 3) 学内プロジェクト, 奨励研究, 「実モデルを反映したネットワーク最適化問題の拡張とアルゴリズムに関する研究」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科: 離散システム特論
経営・政策科学研究科: 数学 I, 離散最適化
社会工学類: 代数学, 数理計画, 数理計画演習, 計算機科学

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科: 入試実施委員
経営・政策科学研究科: パンフレット委員
社会工学類: 入試委員

鈴木 勉

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 鈴木 勉：「同時密度関数を用いた通勤流動モデルと業務分散が通勤・業務距離に及ぼす影響」, 日本応用数学会論文誌, Vol.13, No.3, pp.403-415, 2003.
- 2) 鈴木 勉：「都市内流動を最小化するフロー需要施設配置モデルを用いた拠点立地に関する考察」, 都市計画論文集, Vol.38, pp.391-396, 2003.
- 3) 藤田学洋・鈴木 勉：「複数の環状路をもつ円盤都市における平均移動距離と流動量」, 都市計画論文集, Vol.38, pp.421-426, 2003.
- 4) Tsutomu Suzuki and M. John Hodgson: "Multi-Service Facility Location Models," *Annals of Operations Research*, Vol.123, No.1-4, pp.223-240, 2003.
- 5) 鈴木 勉：『資源節約的国土発展方案研究－国土・都市空間向上と交通エネルギー消費との関係を中心に－』, 韓国国土研究院報告書, 2003. (分担者)

ii) その他

- 1) 窪田順次・鈴木 勉・熊谷良雄：「鹿児島市における降灰量と上水道使用量の関連分析」, 地域安全学会梗概集, No.13, pp.189-192, 2003.
- 2) 鈴木 勉・腰塚武志：「交通路を持つ都市空間における距離分布」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.170-171, 2003.
- 3) 藤田学洋・鈴木 勉：「複数の環状路を持つ円盤都市における平均距離と環状路の最適配置」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.48-49, 2003.
- 4) 窪田順次・鈴木 勉：「不確実な需要分布下でのリグレット最小化施設配置問題」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.54-55, 2003.
- 5) 大出芳武・窪田順次・鈴木 勉：「緑地の熱環境改善効果を考慮した建築のプロポーシオンと建蔽率」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.176-177, 2003.
- 6) 鈴木 勉・腰塚武志：「格子状高速交通網を持つ都市平面における距離・時間分布」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, pp.88-89, 2003.
- 7) 渡部大輔・鈴木 勉：「巡回型輸送システムの最適な階層構造に関する研究」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, pp.40-41, 2003.
- 8) 藤田学洋・鈴木 勉：「放射環状高速交通網を持つ都市平面における平均距離と交通網の最適パターン」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, pp.270-271, 2003.
- 9) 窪田順次・鈴木 勉：「需要が不確実な場合の最適施設配置」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, pp.82-83, 2003.
- 10) Tsutomu Suzuki and M. John Hodgson: "Multi-service Facility Location Models: Focusing Trade-off between the Fixed Cost and the Travel Cost," presented at the International Workshop on Urban Operations Research 2003, Seto and Nagoya, Aich, Japan,

November 27-29, 2003.

- 11) Daisuke Watanabe and Tsutomu Suzuki: "An Optimal Hierarchical Logistics System Using Continuous Approximations," presented at the International Workshop on Urban Operations Research 2003, Seto and Nagoya, Aich, Japan, November 27-29, 2003.
- 12) Junji Kubota and Tsutomu Suzuki: "One-Dimensional Minimax Regret Facility Location with Probabilistic Demands," presented at the International Workshop on Urban Operations Research 2003, Seto and Nagoya, Aich, Japan, November 27-29, 2003.
- 13) 扇谷公輔・鈴木 勉:「渋谷駅東口周辺地区における歩行者流動量」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.184-185, 2004.
- 14) 渡部大輔・鈴木 勉・腰塚武志:「巡回路の辺長分布」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.330-331, 2004.
- 15) 渡部大輔・鈴木 勉・腰塚武志:「近接グラフの辺長分布」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.332-333, 2004.
- 16) 鈴木 勉:『搬送時間短縮のための救急車両と医療施設の配置計画に関する研究』, 財団法人 医療科学研究所 第11回(平成13年度)研究助成報告書, 2003.
- 17) 鈴木 勉:「乗りつぶしのOR」, オペレーションズ・リサーチ, Vol.49, No.1, pp.21-26, 2004.

(2) 学会活動

- 1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会 IAOR 委員会委員
- 2) 日本応用数学会論文誌編集委員会委員
- 3) 日本都市計画学会学術委員会委員
- 4) レフェリー(日本建築学会論文集, 地理情報システム学会誌(GIS理論と応用)など)
- 5) 都市のOR国際ワークショッププログラム実行委員(2003年11月27~29日, 愛知県瀬戸市)

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究(C), 「フロー需要に基づいた立地モデルと高速輸送網が都市空間構造に与える影響」(平成15年度~17年度)
- 2) 日本学術振興会特定国派遣研究者助成(短期・韓国) 「韓国大都市における都市成長と交通ネットワークの拡張過程に関する研究」大韓民国・漢陽大学校
- 3) 筑波大学国際交流計画事業費外国人研究員招へい 「土地利用-交通結合モデルの開発と交通部門の環境負荷軽減可能性分析への応用」, 魯正鉉教授(Professor Jeong-Hyun Rho)(大韓民国・漢陽大学校)
- 4) 科学研究費, 基盤研究(B), 「移動時間分布と通過量分布による都市空間の分析」, (分担者), (研究代表者:腰塚武志)(平成15年度~17年度)
- 5) 運輸施設整備事業団 運輸分野における基礎的研究推進制度 「大都市における火山灰災害の影響予測評価に関する研究」(分担者)(研究代表者:熊谷良雄)(平成13年度~15年度)
- 6) 文部科学省 大都市大震災軽減化特別プロジェクト 「大震災時における最適消防力運用」(分担者)(研究代表者:糸井川栄一)(平成14年度~18年度)

- 7) 青山学院大学総合研究所プロジェクト「協働型まちづくりの実践的研究～渋谷・青山地区における大学と地域の連携実験～」(分担者)(研究代表者:井口典夫)(平成15年度～17年度)

(4) 受賞

- 1) 指導学生受賞(窪田順次:2003年度リスク工学専攻長賞,筑波大学大学院システム情報工学研究科リスク工学専攻,2004年3月)
- 2) 指導学生受賞(金子卓矢:2003年度都市計画専攻卒業論文・設計優秀賞,「大都市圏における常住地・従業地別通勤距離の変化要因の分析」,筑波大学第三学群社会工学類都市計画専攻,2004年3月)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科: 都市機能リスク論,都市リスク分析演習,リスク工学特別演習(分担者),都市成長管理論演習

環境科学研究科: 環境総合実習

社会工学類: 都市計画実習I,立地解析,自由演習(都市モデル入門)

総合科目: 都市・地域・環境を探る(分担者)

(2) 役職・各種委員会委員

全学: 国際交流協定(韓国国土研究院)連絡責任者

社会工学系: 施設委員

社会工学類: カリキュラム委員,就職委員,クラス担任

(3) 他大学における教育活動

- 1) 大韓民国 漢陽大学校 都市大学院 客員教授(2003年6月～7月)

III. 社会的活動

- 1) 青山学院大学 総合研究所 客員研究員
- 2) 国土交通省 国土技術政策総合研究所 市街地の再生技術に関する研究 都市構造WG 主査
- 3) 文部科学省 科学技術政策研究所 科学技術動向研究センター 科学技術専門家ネットワーク 専門調査員
- 4) 講演 "Commuting and Spatial Structure in Japanese Metropolises," 韓国国土研究院・筑波大学 都市地域計画に関する合同ワークショップ, 韓国国土研究院 (Korean Research Institute for Human Settlements), 2003年6月30日.
- 5) 講演 "Comparative Study on Excess Commuting between Tokyo and Los Angeles," 韓国国土研究院・都市国土構造と環境影響に関する研究会, 韓国国土研究院 (Korean Research Institute for Human Settlements), 2003年7月4日.
- 6) パネリスト 「1980年セント・ヘレンズ火山噴火の降灰による社会的影響」, 筑波大学社会工学系・鉄道建設・運輸施設整備支援機構 都市における火山灰災害の社会的影響に関す

るシンポジウム パネルディスカッション，静岡県地震防災センター，2003年11月6日。

鈴木 秀男

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Rita Arauz and Hideo Suzuki, “ISO 9000 Performance in Japanese Industries”, Total Management and Business Excellence, 2004, Vol.15, No.1, pp.3-33.
- 2) Natuski Sano, Hideo Suzuki, and Masato Koda, “A Robust Boosting Method for Mis-labeled Data”, Institute of Policy and Planning Science, University of Tsukuba, Discussion Series, No.1038, 2003.
- 3) 佐野夏樹，鈴木秀男，香田正人，「A Robust Boosting Method using Zero-one Loss Function: SNRBoost」，確率数値解析に於ける諸問題 VI，2004年1月，京都大学数理解析研究所講究録 1351，pp.106-121.
- 4) 鈴木秀男，伊藤政司，七條善雅，田城利文，山根崇，王馳，「スペシャルティコーヒーショップ消費者行動分析」，日本品質管理学会，会場；(財)日本科学技術連盟，2003年5月31日，第71回研究発表要旨.
- 5) 竹林実，佐野夏樹，鈴木秀男，「AdaBoostによる顧客スコアリング」，日本オペレーションズ・リサーチ学会，秋季研究発表会アブストラクト集，pp.288-289.
- 6) 竹林実，佐野夏樹，鈴木秀男，「ブースティングを用いたスコアリングの構築」，日本オペレーションズ・リサーチ学会，春季研究発表会アブストラクト集，pp.292-293.
- 7) 佐野夏樹，鈴木秀男，香田正人，「0-1損失関数を用いたロバストなブースティングの提案」，日本オペレーションズ・リサーチ学会，春季研究発表会アブストラクト集，pp.294-295.

(2) 学会活動

- 1) 日本品質管理学会投稿論文審査委員会委員
- 2) 日本品質管理学会国際委員会委員

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費，基盤研究（C）（2），「データマイニングモデルの総合とCRMビジネスモデルのプロトタイピング」，（分担者）

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科：統計解析特論
経営・政策科学研究科：品質管理，特定課題研究
社会工学類：経営工学実習，品質管理

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科：予算委員

社会工学類： 学類カリキュラム戦略検討委員

(3) 他大学における教育活動

- 1) 東京経済大学非常勤講師
- 2) 明治大学非常勤講師

白波瀬 佐和子

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 白波瀬佐和子 2003年「日米の働く母親と子育て支援－福祉国家と家族の関係を探る－」『海外社会保障研究』No.143, 93～106 ページ
- 2) Shirahase, Sawako. 2003. "Wives' Economic Contribution to the Household Income in Japan in Cross-national Perspective." Luxembourg Income Study Working Paper, No. 349
- 3) 白波瀬佐和子 2003年「ジェンダーと社会保障－高齢単身女性の社会経済的地位からみた一考察」『日本公共政策学会 2003年度研究大会 報告論文集』473～487 ページ
- 4) 白波瀬佐和子 2003年「親子の間に存在するジェンダー－親と同居の成人未婚子の現状－」袖井孝子編著『少子化社会の家族と福祉－女性と高齢者の視点から－』ミネルヴァ書房, 147～158 ページ
- 5) 白波瀬佐和子 2004年「社会階層と世帯・個人－「個人化」論の検証」『社会学評論』第54巻第4号, 370～385 ページ

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 白波瀬佐和子 2003年「高齢期における単身世帯の増加とジェンダー」第36回数理社会学会報告
- 2) Shirahase, Sawako. 2003. "Married Women's Economic Status in the Household in Japan in Cross-national Perspective." The Workshop at the Center for the Study of Social Stratification and Inequality (the 21st Century C.O.E. Program), Tohoku University
- 3) Shirahase, Sawako. 2004. "Marital Association of Class Origin and Education in Contemporary Japan" Paper to be presented at the conference, "Researching Social Class in Japan," University of Michigan, 19-20, 2004

(2) 学会活動

- 1) 日本社会学会『社会学評論』編集委員
- 2) 数理社会学会『理論と方法』編集委員
- 3) 福祉社会学会『福祉社会学研究』編集委員

(3) 研究助成など

- 1) 厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「介護サービスと世帯・地域との関係に関する実証研究」, (主任研究者)
- 2) 厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「家族構造や就労形態等の変化に対応した社会保障のあり方に関する総合的研究」, (分担研究者)
- 3) 厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「『世代とジェンダー』の視点からみた少子高齢社会に関する国際比較研究」, (分担研究者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 公共政策特論

経営・政策科学研究科： 公共政策分析

社会学類： 公共政策論, 社会調査法及び実習

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科： カリキュラム委員

社会学類： クラス担任

(3) 他大学における教育活動

- 1) 立教大学社会学部非常勤講師（「社会学特講」担当）
- 2) 東京工業大学社会学部非常勤講師（「人間学概論」担当）

III. 社会的活動

- 1) NPO 渋谷介護サポートセンター・シルバーセンターサービス研究会講師「ジェンダーからみた福祉国家比較」（2003年8月）
- 2) 経済産業研究所「女性活用政策研究会」委員

高崎 善人

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Coomes, Oliver T., Bradford L. Barham, and Yoshito Takasaki. forthcoming. “Targeting conservation-development initiatives in tropical forests: insights from analyses of rain forest use and economic reliance among Amazonian peasants,” *Ecological Economics*.
- 2) Takasaki, Yoshito, Bradford L. Barham, and Oliver T. Coomes. 2004. “Risk coping strategies in tropical forests: floods, illness, and resource extraction,” *Environment and Development Economics* 9(2): 203-224.

(2) 学会活動

- 1) Referee, *Agricultural Economics*

- 2) Referee, Environment and Development Economics
- 3) Referee, Journal of Environmental Economics and Management
- 4) Referee, World Development

(3) 研究助成など

- 1) 住友財団環境研究助成「太平洋島嶼国における生業，共同体，そして環境」
- 2) 科学研究費，「東南アジア熱帯雨林におけるコミュニティーと持続的開発」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

人文社会科学研究科国際政治学専攻： 経済発展論，経済発展論演習 I
 国際総合学類： 経済発展論，環境経済学

(2) 役職・各種委員会委員

人文社会科学研究科国際政治学専攻： 世界銀行等プログラム委員
 国際総合学類： 就職委員会委員，学類誌委員

III. 社会的活動

- 1) Member, FASID-GRIPS Development Strategy Research Program

竹原 均

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 竹原 均，「株式デュレーションの計測と年金資産運用リスク管理への応用」，『年金総合研究センター「平成 14 年度ポートフォリオの管理に関する研究」報告書』（2003）157-179.
- 2) 竹原 均，「ベンチマークに対する理論的考察 —効率的市場仮説との関係を中心に—」，『証券アナリストジャーナル』41（2003）4-18.
- 3) C. Hung, H. Takehara, "On the association between accruals, operating cash flows and expected default probability," 『経営財務研究』Vol.23 No.1（2004）88-98.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 日本ファイナンス学会第 11 回大会，"Return on Equity, the Cost of Capital, and Income Taxation: Evidence from Japanese Industries"
- 2) 日本ファイナンス学会第 11 回大会，"Components of Accounting Accruals and Stock Returns: Evidence from Tokyo Stock Exchange Firms".
- 3) EURO/INFORMS 2003, "Characteristics versus Common Risk Factors: Identifying Equity Pricing Model for Japanese Firms"
- 4) 日本経営財務研究学会，「インプライド株式デュレーションの計測と年金 ALM への応用」

- 5) Southwestern Finance Association Annual Meeting, "Stock Returns, Earnings Variability, and Accounting Accruals: Evidence from Tokyo Stock Exchange Firms"

(2) 学会活動

- 1) 日本ファイナンス学会理事
- 2) 日本ファイナンス学会研究観望会代表幹事
- 3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会 IAOR 編集委員

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： ポートフォリオ管理特論
経営・政策科学研究科： ファイナンス理論 I
社会工学類： ファイナンス I, 経営工学実習

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系： 予算委員
システム情報工学研究科： 計算機運用委員
社会工学類： 運営幹事, 予算委員

III. 社会的活動

- 1) 財団法人年金総合研究センター 「ポートフォリオの管理に関する研究会」 第2分科会
主査

張勇兵

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) H. Siregar, H. Takagi, and Y. Zhang: Fast routing and wavelength assignment heuristics for large-scale WDM optical networks, IEICE Trans. on Communications, Vol. E86-B, No. 12, pp. 3530-3538, (December 2003).
- 2) Y. Zhang, K. Taira, H. Takagi, and S.K. Das : Adaptive wavelength routing and assignment in optical WDM networks, Optical Networks Magazine, SPIE/Kluwer Academic Publisher, Vol. 4, No. 5, pp. 86-99, (Sep./Oct. 2003).
- 3) H. Siregar, H. Takagi, and Y. Zhang: Efficient routing and wavelength assignment in wavelength-routed optical networks, Proc. the 7th Asia-Pacific Network Operations and Management Symposium (APNOMS 2003), Fukuoka, Japan, pp. 116-127 (Oct. 2003).
- 4) J.H. Siregar, H. Takagi and Y. Zhang: Optical multicast routing using genetic algorithm for wavelength-routed networks, Proc. Queueing Symp. Stochastic Models and Their Appl., pp. 41-50 (Jan. 2004).

- 5) M. Murata and Y. Zhang: Traffic based reconfiguration for logical topologies in wide-area WDM optical networks, Proc. Queueing Symp. Stochastic Models and Their Appl., pp. 228-237 (Jan. 2004).
- 6) 狩谷典之, 北島宗雄, 高木英明, 張勇兵: 潜在意味解析を用いた情報ウェブサイトの Markov 連鎖によるモデル化と評価, 待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」報文集, pp. 171-180, 2004年1月.
- 7) 堀部洋典, 張勇兵: アドホックネットワークにおける効率的なチャネル利用法の提案と評価, 情報処理学会モバイル コンピューティング研究会, pp. 87-94, 2004年3月.
- 8) H. Siregar, Y. Zhang, and H. Takagi: Optimal multicast routing using genetic algorithm for WDM optical networks, Discussion Paper No. 1073, Institute of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba (Jan. 2004).

(2) 学会活動

- 1) 電子情報通信学会, テレコミュニケーションマネジメント研究専門委員会委員
- 2) The 1st International Workshop on Mobile Peer-to-Peer Computing (MP2P 2004), In Conjunction with the 2nd IEEE International Conference on Pervasive Computing and Communications, Orlando, Florida, USA, March 14-17, 2004. 国際会議プログラム委員.
- 3) Symposium of Access Protocols and Scheduling for Wireless Systems, IEEE Semiannual Vehicular Technology Conference (VTC-2003 Fall), Orlando, Florida, USA, October 4-9, 2003. 国際会議プログラム委員.
- 4) Symposium of Next Generation Networks and Internet, IEEE Global Communication Conference (Globcom 2003), San Francisco, CA, USA, December 1-5, 2003. 国際会議プログラム委員.
- 5) The 1st International Workshop on Mobile Distributed Computing (MDC'03), in conjunction with the 23rd International Conference on Distributed Computing Systems (ICDCS 2003), Providence, Rhode Island, USA, May 19-22, 2003. 国際会議プログラム委員.
- 6) IEEE 2003 International Conference on Communications (ICC 2003), Anchorage, Alaska, USA, May 11-15, 2003. 国際会議プログラム委員.
- 7) 情報処理学会英文誌査読員
- 8) 情報処理学会査読員
- 9) 電子情報通信学会英文査読員
- 10) Referee for IEEE Global Communications Conf. (GlobalCom2003).
- 11) Referee for IEEE Vehicular Technology Conf. (VTC2003).
- 12) Referee for IEEE Int. Communication Conf. (ICC2003).
- 13) Referee for First Int. Workshop on Mobile Distributed Computing (MDC'03).
- 14) Referee for Special Issue on Web Servers and Content Distribution Networks at Journal of World Wide Web (Kluwer), 2003

(3) 研究助成など

- 1) 学内プロジェクト, 助成研究 (A), 「波長多重光通信システムにおける波長ルーティング方式と論理ネットワークの構築法に関する研究」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 情報ネットワーク特論

経営・政策科学研究科： シミュレーション

社会工学類： 社会工学情報処理実習 I, 経営工学実習, 情報ネットワーク

(2) 役職・各種委員会委員

全学： 筑波大学大型・分散システム仕様策定委員

社会工学系： コンピュータ委員

システム情報工学研究科： システム情報工学研究科計算機運用委員 (社会工学システム専攻),
社会工学システム専攻機器購入委員

経営・政策科学研究科： 機器委員会委員, サテライト運用委員会委員

社会工学類： コンピュータ委員会委員, 第3学群サブネット委員, クラス担任

津田 和彦

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Hiroaki SHIRAI, Motonari TANABU, Takao TERANO, Yasushi KUNO, Hisatoshi SUZUKI and Kazuhiko TSUDA: "Game development toolkit for business people in Japan", *Simulation & Gaming: An Interdisciplinary Journal of Theory, Practice and Research*, Vol.34, No.3, pp.437-446, (2003.09).
- 2) Kazuhiro Morita, El-Sayed Atlam, Masao Fuketa, Kazuhiko Tsuda and Jun-ichi, Aoe, "Fast and Compact Updating Algorithms of a Double-Array Structure", *Information Science Journal*, Vol. 159, pp. 53-67 (2004.01).
- 3) Masao Fuketa, Shinkaku Kashiji, El-Sayed Atlam, Kazuhiko Tsuda and Jun-ichi Aoe, "An Efficient Algorithm Using Integrated Record for Multi-Translation Dictionaries". Paper presented in the Proceeding of World Multiconference on Systemics, Cybernetics and Informatics (SCI 2003), Orlando, Florida, USA. pp.299-304. (July 2003).
- 4) Masakazu Takahashi, Yuki Kadaya, Shinkaku Kashiji and Kazuhiko Tsuda, "Business Model of Remote Consultation on Steel Material Selection Using Databases". Paper presented in the Proceeding of World Multiconference on Systemics, Cybernetics and Informatics (SCI 2003), Orlando, Florida, USA. pp.314-317. (July 2003).
- 5) Kazuhiko TSUDA, "A New Method of Document Management for Information Sharing Systems". Paper presented in the Proceeding of World Multiconference on Systemics, Cybernetics and Informatics (SCI 2003), Orlando, Florida, USA. pp.318-321. (July 2003).
- 6) Kayo H. Iizuka, Kazuhiko Tsuda, and Mitsuo Wada, "Customer Satisfaction Analysis for System Integration Value Measurement" IS 2003 Multi Conference, Information Society (in cooperation with ACM), pp. 350-353, (2003)

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 福江義則, 結束雅雪, 津田和彦:” コンビニEC拡大に向けたリコメンドシステム”, FIT(情報科学技術フォーラム)2003, D-036, (2003.09)
- 2) 高橋悟, 津田和彦:”アナリストレポートからの資産運用知識の学習システム”, FIT(情報科学技術フォーラム)2003, E-021, (2003.09)
- 3) 三谷慶一郎, 津田和彦:”行政機関ホームページの自動更新システムの構成法”, FIT(情報科学技術フォーラム)2003, E-026, (2003.09)
- 4) 高橋 正和, 水越 紀良, 津田 和彦:”高信頼性ロケット飛行制御ソフトウェアの検証手法の提案”, FIT(情報科学技術フォーラム)2003, B-005, (2003.09)
- 5) 伊勢山ゆかり, 高橋 正和, 津田 和彦:”自由記述データからの顧客満足度解析システム”, FIT(情報科学技術フォーラム)2003, E-022, (2003.09)
- 6) 藤田昌克, 吉田健一, 津田和彦:”ブロードバンドコンテンツ配信に向け通信と放送を融合したシステムアーキテクチャ”, FIT(情報科学技術フォーラム)2003, M-030, (2003.09)

(2) 学会活動

- 1) 7th International Conference on Knowledge-Based Intelligent information Engineering Systems. (KES2003) International Review Board.
- 2) The 7th Pacific Asia Conference on Information Systems (PACIS2003) Program Committee.
- 3) 情報処理学会 平成 15 年度理事会推薦代表会員
- 4) 8th International Conference on Knowledge-Based Intelligent information Engineering Systems. (KES2004) International Review Board.
- 5) The International Journal of Hybrid Intelligent Systems (IJHIS) Editorial Board. Information Sciences: An International Journal Reviewer
- 6) 電子情報通信学会論文査読
- 7) ビジネスモデル学会論文査読
- 8) 情報処理学会論文査読

(3) 研究助成など

- 1) 特定領域研究 (情報学) 「WEB コンテンツ情報に基づくリコメンダー技法の開発」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科： 知的ドキュメント管理論, データベース特論, システムズ・マネジメント特演, システムズ・マネジメント講究, インタラクティブシステム, 計算機アルゴリズム, 経営システム科学特演

(2) 役職・各種委員会委員

ビジネス科学研究科： 経営システム科学専攻知的財産担当

(3) 他大学における教育活動

- 1) 徳島大学大学院工学研究科 (非常勤講師)
- 2) 日本放射線技術学会セミナー「C 言語プログラミング入門」講師

III. 社会的活動

- 1) 株式会社エヌ・ティー・ティー・データ技術アドバイザー
- 2) 株式会社言語理解研究所技術アドバイザー

堤 盛人

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Morito Tsutsumi and Kiwamu Kato : GIS-based Courtesy Bus Scheduling System for Day Care Service, Reviewed Papers, CUPUM'03 Sendai, 10C-2, CD-ROM.
- 2) 堤盛人:「測量業と不動産情報管理の関わりについての一考察」, 応用測量論文集, Vol.14, pp.13-23, 2003.
- 3) Noriel Christopher C. Tiglao and Morito Tsutsumi: Towards the Development of Empirical Urban Development Models for Large Metropolitan Regions in Developing Countries, in: Chang-Ho Park, J.R. Cho, J. Oh, Y. Hayashi, J. Viegas (eds.), Selected Proceedings of the 9th World Conference on Transport Research, Paper No. 6219, Elsevier, 2003.
- 4) Morito Tsutsumi and Kiwamu Kato : Applying Vehicle Routing Problem with Time Windows to Day Care Courtesy Bus Service, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.5, pp.375-387, 2003.
- 5) Noriel Christopher C. Tiglao, Morito Tsutsumi and Eihan Shimizu: Towards Integrated Urban Models for Developing Countries: Modeling Households and Location Choices Using Spatial Microsimulation Approach, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.5, pp.2775-2789, 2003.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 堤盛人・青木洋紀・川口有一郎 : An Empirical Analysis of Residential Investment and Interest Rates in Japan's Metropolitan Areas,『土木計画学研究・講演集』, No.28, (CD-ROM 講演番号 : 232), 2003.

iii) その他

- 1) 加藤浩徳・堤盛人:「英国初のロードプライシング導入 -ダーラム市 Road User Charging-」, 運輸政策研究, Vol.6, No.1, pp.60-63, 2003.
- 2) 長谷川専・堤盛人 (共訳):『リスク分析』, 勁草書房, 2003. (原書 David Vose : Risk Analysis : a quantitative risk analysis, John Wiley & Sons Inc.2000.)
- 3) 梶本久夫監修 『ユニバーサルデザイン ハンドブック』, 丸善, 2003. (分担執筆) (原著 Wolfgang F. E. Preiser, editor in chief and Elaie Ostroff, senior editor: Universal Design

Handbook, The McGraw-Hill Companies, Inc., 2001.) 第6章:「ユニバーサルデザインへのユーザーエキスパートの活用」(pp.77-88.)

(2) 学会活動

- 1) 日本不動産金融工学学会 理事
- 2) 日本写真測量学会 評議員
- 3) 日本写真測量学会 学術講演会 実行委員会 委員
- 4) CUPUM'03 Sendai (The 8th International Conference on Computers in Urban Planning and Urban Management) プログラム編成委員会 委員
- 5) 土木学会 全国大会委員会 プログラム編成会議 委員
- 6) 土木学会論文集 査読者
- 7) 写真測量とリモートセンシング 査読者
- 8) 土木計画学研究・論文集 査読者
- 9) GIS 理論と応用 査読者

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 若手研究 (B), 「不動産投資プロジェクトに内在するリスク評価のための不動産業に関する国際比較」
- 2) 国土交通省, 平成 15 年度土地関係研究者育成支援事業, 「土地に関する資格制度のあり方に関する研究」
- 3) 学内プロジェクト, 助成研究 (B), 「通所介護のための送迎バスの巡回スケジュール決定支援システムの実用化」

(4) 受賞

- 1) 日本不動産学会著作賞 (田中啓一編著『都市と環境の公共政策 日本経済再生に向けて』, 中央経済社, 2002. (多数共著))

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科: 空間計量管理計画

社会工学類: 図学及び測量実習, 都市計画実習 III

(2) 他大学における教育活動

- 1) 岐阜大学地域科学部 非常勤講師

III. 社会的活動

- 1) 道路事業評価手法検討委員会委員
- 2) 住宅局所轄事業の評価手法研究委員会委員
- 3) 鹿島市循環バス検討委員会委員長
- 4) つくばエクスプレス関連県南地域 2 次交通対策等検討会委員

- 5) つくば市交通需要マネジメント実証実験連絡協議会相談役
- 6) 社団法人日本測量協会機関誌月刊『測量』編集委員会委員

永易 淳

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) “Asymmetric effects of monetary indicators on the Japanese yen,” Japan and the World Economy, Vol.15 No. 2, 2003, pp.143-159.
- 2) “A re-examination of the Japanese money demand function and structural shifts,” Journal of Policy Modeling, Vol.25, No. 4, 2003, pp.359-375.
- 3) “The efficiency of the Japanese equity market,” International Finance Review, Vol.4, 2003, pp.157-173.
- 4) “The term structure of interest rates and monetary policy during a zero interest rate period,” International Monetary Fund Working Paper, 03/208, 2003.

(2) 学会活動

- 1) レフェリー: Journal of African Economies, Japan and the World Economy, Journal of Macroeconomics.

(3) 研究助成など

- 1) 山田学術研究奨励基金

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科： 国際開発論
社会工学類： 国際開発論, 社会経済実習

III. 社会的活動

- 1) 国際通貨基金 (IMF) エコノミスト
- 2) 日本銀行金融研究所 客員研究員

西尾 チヅル

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 西尾チヅル「消費者の環境認知とコミュニケーション」オフィス・オートメーション Vol.24, No.2, pp.35-41, 2003.

- 2) 戸谷圭子・西尾チヅル「リテール金融サービスにおける顧客維持構造の分析」 マーケティング・サイエンス Vol.12, No.1, 査読完了 印刷中.
- 3) ジェフリー N, マクニール・西尾チヅル「グローバル食品会社における食品安全性の問題とその対応」 流通情報 印刷中.
- 4) 宮澤永光・亀井昭宏監修「マーケティング辞典：改訂版」 同文館出版 2003.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 倉光豊・西尾チヅル「環境マネジメントシステムの構造分析：業種間比較を中心として」日本マーケティング・サイエンス学会第73回研究大会 2003年6月.
- 2) 金森剛・鈴木暁・西尾チヅル「ネットコミュニティの活用度と接触頻度の構造」日本マーケティング・サイエンス学会第74回研究大会 2003年12月.

(2) 学会活動

- 1) 日本マーケティング・サイエンス学会理事
- 2) 日本マーケティング・サイエンス学会学会誌編集委員
- 3) 日本商業学会関東部会幹事

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費，基盤研究（C），「環境保全型ライフスタイル普及のためのマーケティング・コミュニケーション」，（代表者）
- 2) 科学研究費，基盤研究（B）（1），「有機農作物の安全性を考慮した消費者への情報提示と小売店の店舗デザイン」，（分担者）
- 3) 受託研究 経済産業省「技術経営コース開発に係る研究」においてMOTプログラム「ビジネスゲーム」（分担者）

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科： マーケティング，消費者行動，消費者行動輪講I，II，III，経営システム科学特別研究，マーケティング・コミュニケーション，システムズ・マネジメント講究

(2) 役職・各種委員会委員

全学： セクシャルハラスメント相談員.

ビジネス科学研究科： 企業科学専攻・経営システム科学専攻入試担当.

(3) 他大学における教育活動

- 1) 早稲田大学非常勤講師「マクロマーケティング研究」
- 2) 慶應義塾大学特別招聘教授（非常勤）「環境の経済・経営・商業・会計」

III. 社会的活動

- 1) 学生広告論文電通賞審査委員

- 2) 独立行政法人国民生活センター主催「消費者問題・企業トップセミナー：経済・社会・環境と共生する企業経営」パネルディスカッション パネリスト 2004年2月.

藤井 英次

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) “China, Hong Kong, and Taiwan: A Quantitative Assessment of Real and Financial Integration” (jointly with Yin-Wong Cheung and Menzie Chinn), *China Economic Review* 14: 281-303, 2003

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) “Exchange Rate Pass-through in the Deflationary Japan: How Effective is the Yen’s Depreciation for Fighting Deflation?”, CESifo Venice Summer Institute, Workshop on Economic Stagnation in Japan, Venice International University, Venice, Italy, July 2003
- 2) 同上論文修正稿, 日本経済学会 2003年度秋季大会, 明治大学, 2003年10月
- 3) “The Chinese Economies in Global Context: The Integration Process and Its Determinants,” 日本銀行金融研究所セミナー, 2004年2月

iii) その他

- 1) “Cross-Country Relative Price Volatility: Its Components and Effects of Market Structure,” (jointly with Yin-Wong Cheung), IPPS Discussion Paper Series #1055, August 2003.
- 2) “Intra and Inter-Regional Causal Linkages of Emerging Stock Markets: Evidence from Asia and Latin America in and out of Crises,” IPPS Discussion Paper Series #1056, August 2003.
- 3) “Chinese Economies in the Global Context: The Integration Process and Its Determinants,” (jointly with Yin-Wong Cheung and Menzie Chinn), NBER Working Paper Series W10047, October 2003, National Bureau of Economic Research, Cambridge, Massachusetts.
- 4) “Exchange Rate Pass-through in the Deflationary Japan: How Effective is the Yen’s Depreciation for Fighting Deflation?” CESifo Working Paper Series #1134, February 2004, Center for Economic Studies & Ifo Institute for Economic Research, Munich, Germany. (Also as IPPS Discussion Paper Series #1072, January 2004.)

(2) 学会活動

- 1) レフリー: ASEAN Economic Bulletin, International Economic Review, Journal of the Japanese and International Economies, Pacific Economic Review, Review of International Economics

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究(C)(2)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 国際金融論

経営・政策科学研究科： 国際貿易

社会工学類： 国際貿易，経済学入門，社会経済実習

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系： 防災委員

経営・政策科学研究科： コース担当委員

社会工学類： 総合科目編成委員，クラス担任

III. 社会的活動

- 1) Visiting Academic, School of Commerce, University of Adelaide, Australia, September 2003. (アデレード大学客員研究員)

藤川 昌樹

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 黒坂貴裕・安藤邦広・後藤治・藤川昌樹・堀江亨・中野茂夫「つくば市における民家（農家）の編年」（『日本建築学会計画系論文報告集』570, pp.95-101, 2003年8月）
- 2) 『日本の町並み』（III, 関東・甲信越・東北・北海道, 平凡社, 2004年2月）
- 3) FUJIKAWA Masaki: Two Spatial Cultures in Edo: The Shoguns O-Nari and Daimyo Compounds, Association for Asian Studies, 2004 Annual Meeting, 2004.3 (San Diego)

ii) その他

- 1) 藤川昌樹「町並みの変遷と特徴」（橋本の町と町家の研究会第4回研究発表会，橋本市教育文化会館）
- 2) 藤川昌樹「在郷町の形成過程の解明とその史料・方法—紀伊国橋本町を事例に—」（Workshop on Traditional Architecture and Historic City in East Asia, Shinshu Univ.）
- 3) 藤川昌樹「評論・御船達雄「庄内地方元禄期一民家の建築技法について」（『日本建築学会技術報告集』第17号, p.600, 2003年6月）

(2) 学会活動

- 1) 作事史料を読む会幹事
- 2) レフェリー（日本建築学会，日本都市計画学会）

(3) 受賞

- 1) 日本建築学会論文奨励賞

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 都市居住環境史演習

環境科学研究科： 環境計画史，環境科学実習，環境科学 III

社会工学類： 景観保全計画

総合科目： 都市・地域・環境を探る

III. 社会的活動

- 1) 室戸市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（高知県）
- 2) 真壁町伝統的建造物群保存対策調査検討委員会委員（茨城県）
- 3) 真壁城跡整備検討委員会委員（茨城県真壁町）
- 4) ハーヴァード大学客員研究員（ライシャワー研究所）

牧本 直樹

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 坂田洋幸・牧本直樹，マルチスレッド型非同期処理システムにおけるサービス残余時間の見積りについて，待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」94-100，2004.
- 2) Makimoto N. and Sakata H., Performance evaluation and capacity planning of a Web-Legacy system, EURO/INFORMS 2003 Istanbul, 79.
- 3) 筑波大学ビジネス科学研究科編（分担執筆）「ビジネス数理への誘い」朝倉書店，2003.

(2) 学会活動

- 1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会 IAOR 委員

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科： 確率と統計基礎，確率モデルとシミュレーション，OR 演習，確率過程総論

(2) 役職・各種委員会委員

ビジネス科学研究科： 経営システム科学専攻総務委員

III. 社会的活動

- 1) (株)日立製作所技術研修所 講師

山田 雄二

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Y. Yamada and J. A. Primbs, Value-at-Risk estimation for multi-period mean square optimal hedging with Jumps, Quantitative Methods in Finance, 2003.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) Y. Yamada and J. A. Primbs, Value-at-Risk estimation for multi-period mean square optimal hedging with Jumps, INFORMS Annual Meeting, 2003.
- 2) Y. Yamada and J. A. Primbs, Value-at-Risk estimation for multi-period mean square optimal hedging with Jumps, Proceedings of the JAFEE conference in Winter, 2003.

(2) 学会活動

- 1) レフェリー: Asia-Pacific Financial Markets, Nonlinear and Robust Control
- 2) 日本金融・証券計量・工学学会 (JAFEE)10周年記念大会実行委員

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 若手研究 (B), 「多期間設定における多次元ポートフォリオのバリューアットリスク最適化」, (代表者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科: 数理ファイナンス, 金融工学総論, ファイナンス工学, インベストメントサイエンス, データ解析, ファイナンス工学輪講

(2) 役職・各種委員会委員

ビジネス科学研究科: 経営システム科学専攻・教育担当

山田 秀

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) YAMADA, S. and HARASHIMA, J., (2004), A method of selecting an active factor and its robustness against correlation in the data, Asian Journal of Quality, Vol. 4, no.2 16-31.

- 2) CHIBA, M., YAMADA, S. and MARUYAMA, T., (2003), An Empirical Study on ISO 9001:2000 Implementation in Japanese Industries, Proceedings of 17th Asia Quality Symposium, 925-931.
- 3) 山田 秀, (2003), 統計的手法から見たシックスシグマと TQM, 品質, 33, 271-279.
- 4) 今井義男, 山田 秀訳, (2003), ISO 9001: 2000 の解釈, 日本規格協会, (原著: Lamprecht, J. L. (2002), Interpreting ISO 9001:2000 with Statistical Methodology, American Society for Quality)
- 5) 山田 秀, (2003), ISO9001:2000 における SQC 手法の効果的活用—品質マネジメントシステムのレベルアップを目指して—, 品質月間テキスト No. 321. 日本科学技術連盟

(2) 学会活動

- 1) Associate editor, Asian Journal of Quality, Korean Society for Quality Management
- 2) 日本品質管理学会 国際委員会, 標準委員会 委員
- 3) レフェリー: 品質 (日本品質管理学会), Journal of Statistical Planning and Inference, Statistics and Probability Letters, Asian Journal of Quality など

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 若手研究 (B), 「品質管理活動の経済的効果に関する国際比較」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

- 1) 東京理科大学 大学院工学研究科 「実験計画法特論」
- 2) 東京理科大学 工学部経営工学科 「統計工学 1」, 「実験計画法」, 「実験計画法 2」, 「多変量解析」

III. 社会的活動

- 1) ISO TC 69 (統計的手法の適用) 委員会委員 (ISO 16269 Statistical interpretation of data - Part 6: Determination of a statistical tolerance interval の改訂などを担当)
- 2) ISO TC 176 品質マネジメントシステム規格国際対応委員会委員
- 3) デミング賞委員会委員

吉瀬 章子

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 学会での口頭発表・講演等

- 1) A. Yoshise. “A homogeneous model for P_0 complementarity problems.” 5th International Congress on Industrial and Applied Mathematics, Sydney, Australia(2003).
- 2) A. Yoshise. “A homogeneous model for P_0 and P_* nonlinear complementarity problems.” 18th International Symposium on Mathematical Programming, Copenhagen, Den-

mark(2003).

- 3) 吉瀬章子 “A homogeneous model for complementarity problems over symmetric cones.” 研究集会「最適化：モデルとアルゴリズム」, 統計数理研究所 (2004).
- 4) 吉瀬章子 「相補性問題に対する同次モデル」, 2004 年度日本 OR 学会春季研究発表会.

ii) その他

- 1) A. Yoshise. “A homogeneous model for P_0 and P_* nonlinear complementarity problems.” DPS1059, Institute of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba (2003).
- 2) 反町宏明, 吉瀬章子 「サポートベクターマシンにおけるカーネル行列の最適化」 統計数理研究所共同研究レポート「最適化：モデルとアルゴリズム」17(2003)253-275, 統計数理研究所.

(2) 学会活動

- 1) Mathematical Programming レフェリー
- 2) SIAM Journal on Optimization レフェリー
- 3) Applied Mathematics and Optimization レフェリー
- 4) Computational Optimization and Applications レフェリー
- 5) Journal of Operations Research Society of Japan レフェリー
- 6) The Pacific Journal of Optimization 編集委員
- 7) Optimization Research Bridge Committee ブックレビュー

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究 (C) (2), 「単調性をもたない相補性問題に対する多項式時間の解法の開発」, (代表者)
- 2) 科学研究費, 基盤研究 (B), 「制御不能な部分システムを含む最適化問題」, (分担者)
- 3) 科学研究費, 基盤研究 (C) (2), 「非線形非凸計画問題に対する大域的・発見的ハイブリッド算法の研究」, (分担者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 数理計画特論 I, 数理計画特論 II

経営・政策科学研究科： 数理計画実習

社会工学類： 経営工学実習, 数理計画, 数理計画演習, 代数学, 自由演習 (数学の言葉)

(2) 役職・各種委員会委員

経営・政策科学研究科： カリキュラム TF

吉野 邦彦

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) YOSHINO, K., ISHIKAWA, M., SETIAWAN, B.I. (2003), Socio-economic causes of recent environmental changes in Cidanau watershed, West Java, Indonesia: -Effects of Economic crises of Southeast Asia in 1997-1998 on regional environment-, Rural and Environmental Engineering, No.44, pp.27-41, 2003.8
- 2) 石岡義則, 吉野邦彦, 白谷栄作, 石川雅也 (2004), 「土地利用別メッシュタンクモデルを用いた湿原流域降雨流出解析; 別寒辺牛湿原を事例として」, 水文水資源学会誌, Vol.17, No.3, pp.233-240
- 3) 吉野邦彦 (2003), 「リモートセンシングによる三宅島農地の噴火被害の把握」, 日本農業土木学会誌, Vol.71, No.6, pp.483-486, 2003
- 4) 「熱帯農業事典」, 分担, 養賢堂, 2003年9月
- 5) 「熱帯生態学 第4章2節」, 長野敏英, 吉野邦彦, 他 共著 2004年3月 朝倉書店

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) YOSHINO Kunihiko, YAMAUCHI Tomohiro, ISHIOKA Yoshinori, Rudy Yanto TAHA, Budi Indra. SETIAWAN, Lilik Budi PRASETYO, NISHIMURA Taku, SATO Yohei, Detection of vegetation cover change under forest canopy in Cidanau watershed using vegetation index of remotely sensed data, Proceedings of International Colloquium on LUCC in Bogor 2003, Dec.
- 2) Kunihiko Yoshino, Hirotaka Saito, Tomoyasu Ishida, Toshihide Nagano, Wuttichart Sirichuaychoo, Apichart Jagruskl, and Nobuo Haraguchi, Estimation of tropical peat soil volume at Bacho, Thailand by low cost DGPS and Geostatistics, Proceedings of INTERNATIONAL CONFERENCE ON INNOVATIVE TECHNIQUES IN THE SOIL Resource Inventories, 2004 March, Cha-am, Thailand

(2) 学会活動

- 1) 農業土木学会誌編集委員

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究 (B)
- 2) 科学研究費, 基盤研究 (A)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科: 地域資源管理論

環境科学研究科: 環境情報調査表現法, 環境総合アセスメント, 環境科学 III

社会工学類： 都市計画実習 I, 環境解析, 環境解析

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系： 図書委員

環境科学研究科： 広報委員

社会工学類： 攻運営委員会

III. 社会的活動

- 1) 農業土木学会 三宅島火山噴火被害対策調査委員会委員の委嘱

渡辺 俊

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 中国の集合住宅における食事空間の考察, 日本建築学会計画系論文集, 第 569 号, 15 頁～21 頁, 2003 年 7 月
- 2) 計画・設計のための建築情報用語事典, 84 頁～89 頁, 102 頁～103 頁, 140 頁～142 頁, 鹿島出版, 日本建築学会編, 2003 年 7 月

ii) その他

- 1) 東京都における痴呆性高齢者グループホームの入居者と地域社会の関わりについて, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2003 年 9 月
- 2) 障害を持つ人の外出時におけるトイレ環境に関する研究, 車いす利用者向けトイレの利用に着目して, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2003 年 9 月
- 3) 奈良町における町屋ファサード 3 次元描画ツールの開発, 日本建築学会大会学術講演梗概集, 2003 年 9 月
- 4) ユビキタス時代における建築・都市の変容と論理, 日本建築学会大会研究協議会資料, 75 頁～76 頁, 2003 年 9 月
- 5) 人間行動シミュレーション研究の体系化に関する研究, 日本建築学会第 26 回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集, 145 頁～148 頁, 2003 年 12 月
- 6) 人間行動シミュレーションのための行動データの体系化に関する研究, 日本建築学会 関東支部研究報告集, 2004 年 3 月

(2) 学会活動

- 1) 日本建築学会, 日本都市計画学会, 地理情報システム学会, ソフトウェア科学会
- 2) CAADRIA, CAAD Futures, ADID, IJAC 各論文査読メンバー

(3) 研究助成など

- 1) 学内プロジェクト, 助成研究 (B), 「町屋の意匠構成要素の形態文法を用いた景観シミュレーションシステムの開発」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 地理情報システム特論

環境科学研究科： 環境デザイン論

社会工学類： 社工情報処理実習 III, 都市施設計画, 都市計画実習 II, 都市デザイン演習

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系： コンピュータ委員, 等

社会工学類： コンピュータ委員, 等

秋山 英三

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 秋山 英三, 「5つのジレンマゲームにおける進化的現象」, エージェント合同シンポジウム (JAWS 2003) Proceedings (2003), 103-112.
- 2) 秋山 英三, 「ゲームと時間」, 数理科学, No.491 (2004年5月号), サイエンス社, 2004, pp.74-83.
- 3) 秋山 英三, 「力学系ゲームと社会的ジレンマ」日本建築学会 第26回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集, 2003年12月, pp.269-283.
- 4) 秋山 英三, 「被験者実験とゲーム理論」, 物性研究 (京都), Vol.80, No.5 pp. 893-899 (2003).
- 5) Oshio, K., Iwasaki, Y., Morita, S., Osana, Y., Gomi, S., Akiyama, E., Omata, K., Oka, K. and Kawamura, K. "Database of Synaptic Connectivity of *C. elegans* for Computation" Technical Report of CCEP, Keio Future, No.3, Keio University (2003).

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) Eizo Akiyama, "Evolutionary Phenomena in the Avatamsaka Game," International Workshop on Socio-and Econo-Physics, December 19-20, 2003. (発表は19)
- 2) 秋山 英三, 「5つのジレンマゲームにおける進化的現象」, エージェント合同シンポジウム (JAWS 2003) 10/6-8, 2003 (発表は10/7)
- 3) 秋山 英三, 「力学系ゲームと社会的ジレンマ」日本建築学会 第26回情報・システム・利用・技術シンポジウム, 12/11, 2003
- 4) 秋山 英三 "Introduction to the Minority Game," 統計数理研究所, 共同利用研究「動的システムの情報論」, 11/28-30, 2003, 統計数理研究所 (発表 29日)
- 5) Akiyama E. "Avatamsaka Game Dynamics," SCTPLS 2003 Conference, Boston, MA, August 8-10 (発表 9), 2003

iii) その他

- 1) W. Weidlich, "Sociodynamics - A Systematic Approach to Mathematical Modelling in the Social Sciences," Harwood Academic Publishers, 2000. (「ソシオダイナミクスー社会科学の数学的作法ー」 秋山担当分 5, 6章: 森北出版より 2004出版予定)

(2) 学会活動

- 1) 電子情報通信学会論文誌編集委員会査読委員
- 2) ソサイエティ論文誌編集委員会査読委員 平成15年5月28日から平成16年総会日まで

(3) 研究助成など

- 1) 課題番号 14780342 研究課題: 社会的ジレンマにおける時間・空間構造と, 協カルール
の形成・発展メカニズム代表: 秋山英三

- 2) 平成15年度学内プロジェクト研究 奨励研究「社会的ジレンマにおける時間・空間構造と、協カールールの形成・発展メカニズム」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 進化と経済特論(2) (02CA025) Seminar on Evolution and Economies
経営・政策科学研究科： 情報科学演習
社会工学類： 社会工学概論，代数学，情報基礎及び実習 I

(2) 役職・各種委員会委員

全学： 学群教職課程委員
システム情報工学研究科： 入試委員
社会工学類： 学類カリキュラム戦略検討委員，カリキュラム委員

上市 秀雄

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 上市秀雄・楠見孝：「後悔の時間的变化と対処方法—意思決定スタイルと行動選択との関連性—」，心理学研究，74, 487-495, 2004.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 上市秀雄・栗山直子・齊藤貴浩・楠見孝：「高校生の進路意思決定の継続調査2：進路決定後の後悔および後悔対処に関する検討」，日本教育心理学会第45回総会発表論文集，594, 2003.
- 2) 齊藤貴浩・上市秀雄・栗山直子・楠見孝：「高校生の進路意思決定の継続調査1：進学者の事前期待と満足に関する検討」日本教育心理学会第45回総会発表論文集，593, 2003.
- 3) 栗山直子・上市秀雄・齊藤貴浩・楠見孝：「高校生の進路意思決定の継続調査3：進路選択の最終決定に関する定量的分析・定性的分析」日本教育心理学会第45回総会発表論文集，595, 2003.
- 4) 上市秀雄・楠見孝：「環境ホルモンのリスク認知プロセス：批判的思考態度と知識が対処行動に及ぼす効果」，日本心理学会第67回大会発表論文集，901, 2003.

iii) その他

- 1) 上市秀雄：「パーソナリティ・認知要因が危機的状況における行動に及ぼす影響」，宇宙医学分野におけるヒューマンファクター研究に関わる調査成果報告書，宇宙航空研究開発機構，45-49, 2004.
- 2) 楠見孝・上市秀雄・平山るみ：「内分泌攪乱物質のリスク認知過程と批判的思考態度」，内分泌攪乱物質のリスクコミュニケーションに関する研究，平成15年度厚生労働省科学研究費補助金化学物質リスク研究事業，52-70, 2004.

(2) 研究助成など

- 1) 科学研究費，基盤研究（C）（2），「逸脱行動が生起するプロセスと矯正方法に関する研究」，（代表者）
- 2) 科学研究費，基盤研究（B）（1），「進路意思決定における認知感情過程のモデル化」，（分担者）
- 3) 厚生労働省科学研究補助金（食品・化学物質安全総合研究事業）「内分泌攪乱物質のリスクコミュニケーションに関する研究」（協力者）

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科： 意思決定分析

社会工学類： 経済行動論，情報基礎および実習，教職総合演習，社会工学情報処理演習

(2) 他大学における教育活動

- 1) 立教大学社会学部非常勤講師（担当科目：意思決定論）

江口 匡太

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および論文

- 1) “Damages or Reinstatement: A Note on Remedies for Illegal Dismissal” IPPS Discussion Paper series 1029, University of Tsukuba.
- 2) “Who should Own Rights of Service Invention, Employees or Firms?” (with Kenichi Kuwashima) IPPS Discussion Paper series 1066, University of Tsukuba.
- 3) 解雇に対する救済方法-損害賠償と現職復帰 雇用能力開発機構および（財）統計研究会 経済構造の変化と労働市場に関する調査研究報告書所収 114-122 ページ（2004年2月）

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 法と経済学会（2003年7月 成蹊大学）“Damages or Reinstatement: A Note on Remedies for Illegal Dismissal”
- 2) European Economic Association (Stockholm University, Stockholm, 2003年8月) “Damages or Reinstatement: A Note on Remedies for Illegal Dismissal”
- 3) 日本経済学会 (2003年9月 明治大学) “Who should Own Rights of Service Invention, Employees or Firms?” (with Kenichi Kuwashima)
- 4) 統計研究会 東西コンファレンス (2003年10月 私の仕事館) “Damages or Reinstatement: A Note on Remedies for Illegal Dismissal”

(2) 学会活動

- 1) 日本経済学会 春季大会 (2003年6月 大分大学) 論文討論者

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費，若手研究（B）
- 2) 科学研究費，基盤研究（B）（1），（代表者：吉原和志教授（東北大学））
- 3) 雇用能力開発機構および（財）統計研究会

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科： 労働経済論

社会工学類： 社会工学概論及び実習，ミクロ経済学，労働経済学

(2) 役職・各種委員会委員

経営・政策科学研究科： カリキュラム委員

社会工学類： 学類運営委員，授業評価委員

大木 敦雄

I. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科： 計算機科学基礎 I，ネットワークセキュリティ輪講 III，ソフトウェア技術論

(2) 役職・各種委員会委員

全学： 東京キャンパス LAN 委員会委員

(3) 他大学における教育活動

- 1) 電気通信大学 非常勤講師 情報工学実験第一，第二

大久保 正勝

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Miyakoshi, T. and M. Okubo “Measuring the Cost of the Japanese Financial Recession”, Institute of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba, Discussion Paper Series, No.1048, July 2003.
- 2) Okubo, M. “Non-Separable Preferences, Terms of Trade Shocks, and the Measurement of Intertemporal Substitution”, Institute of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba, Discussion Paper Series, No.1049, July 2003.

- 3) Miyakoshi, T. and M. Okubo “Measuring the Welfare Cost of the Japanese Long Stagnation”, Institute of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba, Discussion Paper Series No.1069, December 2003.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) “Measuring the Cost of the Japanese Financial Recession”, 東北大学経済学部 (第3回現代経済学特別演習), 2003年8月

(2) 学会活動

- 1) レフェリー: Japan and the World Economy

(3) 研究助成など

- 1) 学内プロジェクト, 奨励研究, (代表者)
- 2) 財団法人村田学術財団研究助成金 (分担者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科: 計量経済学実習, 社会経済システム演習

社会工学類: 社会工学概論及び実習, 代数学, フレッシュマンセミナー, 社会経済実習

(2) 役職・各種委員会委員

全学: 学園祭委員

社会工学類: 学生委員, クラス担任

加藤 毅

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 加藤毅, 大学教員の生活時間からみた高等教育政策, 大学研究, 26, pp.117-132, 2003年10月
- 2) 加藤毅, 高等教育研究の30年, 高等教育研究紀要, 19, pp.275-278, 2004年3月

(2) 学会活動

- 1) 研究技術計画学会評議員

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 基盤研究(C)(2), 「学術研究活動のボーダレス化と高等教育システムの構造変動」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科： 非営利組織の経済学，社会調査法，非営利組織経営論

(2) 他大学における教育活動

1) 国際基督教大学教養学部非常勤講師「コミュニケーション研究」

金田 直之

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

1) 門田安弘編著『管理会計学テキスト（第3版）』 税務経理協会 2003年5月（分担執筆）第11章「研究開発の管理会計」（pp.163-175）

ii) 学会での口頭発表・講演等

1) Naoyuki Kaneda, Analysts' Forecast Revisions and Errors around CEO turnover, GEC Seminar, 2003.

iii) その他

1) 日本会計研究学会 特別委員会「企業価値と組織再編の管理会計に関する研究」中間報告書（分担執筆）第6章「トラッキングストックと組織再編」（pp.55-61）

(2) 学会活動

1) 日本会計研究学会特別委員会「企業価値と組織再編の管理会計に関する研究」幹事

(3) 研究助成など

1) 科学研究費，基盤研究（C），「企業経営者による利益操作の研究」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科： 財務会計学，特定課題研究

社会工学類： 財務会計学

総合科目： 経営の科学

(2) 役職・各種委員会委員

経営・政策科学研究科： 入試実施委員

社会工学類： クラス担任

川口 大司

I. 研究活動

i) 著書および査読つき論文

- 1) "Are Computers at Home a Form of Consumption or an Investment? A Longitudinal Analysis for Japan," Forthcoming in Japanese Economic Review.
- 2) "Attrition Bias in Economic Relationships Estimated with Matched CPS Files," (Joint with David Neumark), Forthcoming in Journal of Economic and Social Measurement.
- 3) "Peer Effect on Substance Uses among American Teenagers," Forthcoming in Journal of Population Economics

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) Annual Meeting of European Society of Labour Economists, Seville, Spain, September 2003
- 2) Australian Meeting of Econometric Society, Sydney, Australia, July 2003
- 3) 関西社会経済研究所, 大阪, 2004年2月
- 4) 関西労働研究会, 大阪, 2003年12月
- 5) 家計経済研究所 パネルコンファレンス, 東京, 2003年12月
- 6) FASID 国際開発箱根会議, JICA 箱根研修所, 2003年12月
- 7) 労働経済学コンファレンス, 私の仕事館(けいはんな), 2003年10月
- 8) 日本経済学会 秋季大会, 明治大学, 2003年10月
- 9) ミニコンファレンス・企業改革とパフォーマンス, 一橋大学, 2003年9月
- 10) 日本経済学会 春季大会, 大分大学, 2003年6月

iii) その他

- 1) 「女性従業員比率と企業の収益」『経済統計研究』第31巻4号75-82頁(2004年3月号)
- 2) 「年齢差別禁止法が米国労働市場に与えた影響—米国の実証研究のサーベイ」『日本労働研究雑誌』第521号(2003年12月号)
- 3) "Testing the Morale Theory of Nominal Wage Rigidity," April 2004 (Joint with Fumio Ohtake), ISER Discussion Paper Series 602, Osaka University
- 4) "The Impact of Minimum Wage on Female Employment in Japan" (Joint with Ken Yamada) January 2004, IPPS Discussion Paper Series 1074, University of Tsukuba
- 5) "A Market Test of Sex Discrimination: Evidence from Japanese Panel Data," July 2003. IPPS Discussion Paper Series 1054, University of Tsukuba.
- 6) "Negative Self Selection into Self Employment among African Americans," May 2003. IPPS Discussion Paper Series 1039, University of Tsukuba.

(1) 学会活動

- 1) 統計研究会労働市場委員会運営委員
- 2) レフェリー: Review of Economic Studies, 経済研究

(2) 研究助成など

- 1) 科学研究費，若手研究（B）

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

人文社会科学研究科国際政治経済学専攻： 計量経済学 I

国際総合学類： 計量経済学，人的資源論

総合科目： 「世界の中の日本」

(2) 役職・各種委員会委員

国際総合学類： カリキュラム委員

(3) 他大学における教育活動

- 1) 一橋大学 経済研究所 非常勤講師

III. 社会的活動

- 1) JICA 筑波における”Japanese Economy”の講義

河端 瑞貴

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Shen, Q. and M. Kawabata. (2003) “Reexamining the Geography of the Urban Labor Market: A Case Study of the San Francisco Bay Area.” In Guhathakurta, S. ed. Integrated Land Use and Environmental Models: A Survey of Current Applications and Research. Berlin: Springer-Verlag, pp.197-214.
- 2) Kawabata, M. and T. Furutani. (2003) “A Spatial Analysis of Job Access in Tokyo Metropolitan Area.” Association of Collegiate Schools of Planning and Association of European Schools of Planning Third Joint Congress, Leuven, Belgium, pp.1-18.
- 3) Kawabata, M. (2003) “A GIS-Based Analysis of Jobs, Workers, and Job Access in Tokyo.” Center for Spatial Information Science, University of Tokyo, Discussion Paper No. 57, pp.1-19.
- 4) Kawabata, M. and J. Ferreira, Jr. (2003) “GIS Modeling of Urban Components to Monitor and Model Urban Respiration.” Center for Spatial Information Science, University of Tokyo, Discussion Paper No. 58, pp.1-18.
- 5) Kawabata, M. (2003) “Job Access and Employment among Low-Skilled Autoless Workers in U.S. Metropolitan Areas.” Environment and Planning A, Vol. 35, No. 9, pp.1651-1668.
- 6) 河端瑞貴，小口 高，岡部篤行 (2003) 「NCGIA と UCGIS のカリキュラムと英語 GIS テキストの項目調査」地理情報システム学会講演論文集, Vol. 12, pp.475-480.

- 7) 河端瑞貴 (2003) 「GIS (地理情報システム) とその都市問題への応用」 香川敏幸・小島朋之 (編) 『総合政策学の最先端 IV : 新世代研究者による挑戦』 慶應義塾大学出版会, pp.72-95.
- 8) Kawabata, M. (2003) “Spatial Distributions of Low-Skilled Workers and Jobs in U.S. Metropolitan Areas.” GIS-理論と応用, Vol. 11, No. 2, pp.155-163.
- 9) Kawabata, M. (2003) “Job Accessibility by Travel Mode in U.S. Metropolitan Areas.” GIS-理論と応用, Vol. 11, No. 2, pp.165-172.
- 10) Kawabata, M. and J. Ferreira, Jr. (2004) 「Developing GIS-Based Measurements of Urban Components for Urban Environmental Modeling」 三宅理一 (編) 『Keio SFC Journal, Vol. 3, No. 1 : 環境からの思考』 慶應義塾大学湘南藤沢学会, pp.142-164.
- 11) Kawabata, M. and Q. Shen. (2004) “Spatial Variations in Job Accessibility: A Comparison of U.S. and Tokyo Metropolitan Areas.” Association of American Geographers Centennial Meeting, Philadelphia, Pennsylvania, USA.
- 12) 岡部篤行, 小口 高, 高阪宏行・村山祐司, 河端瑞貴 (2004) 『GIS コアカリキュラムの開発研究-カリキュラム原案の作成-』 地理情報システム学会 GIS 教育カリキュラム検討ワーキンググループ, pp.i-155.

(2) 学会活動

- 1) 地理情報システム学会 GIS 教育カリキュラム検討ワーキンググループ委員

(3) 研究助成など

- 1) 財団法人アメリカ研究振興会海外学会参加旅費
- 2) 東京大学空間情報科学研究センター若手研究奨学金
- 3) 21COE 「都市空間の持続再生学の創出」 国際学会発表旅費

II. 社会的活動

- 1) 日本 MIT 会理事
- 2) 「河端瑞貴の研究紹介」 筑波大学社会工学系ファカルティセミナー講演, 2003 年 11 月 4 日.
- 3) 「土木の日の集いー若い力で未来につなげよう」 栃木県魅力ある建設事業推進協議会・土木学会関東支部栃木会・(財) 栃木県建設総合技術センター主催 「土木の日」の集いパネルディスカッション・パネリスト, 2003 年 11 月 7 日.
- 4) 「都市構造と都市・交通計画に関する実証的研究」 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科概念構築講義, 2003 年 11 月 13 日.

川邊 みどり

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) アジアのエビ養殖. 1-18 頁, 多屋勝雄編著 「アジアのエビ養殖と貿易」. 成山堂書店, 全 188 頁, 2003 年 12 月.

- 2) Greening the Coast: Cases from Japan, Proceedings of Coastal Zone 03, Baltimore, Maryland, July13-17 (CD-ROM), KAWABE, Midori, 2003年7月.
- 3) <巻頭言>森林認証, エコラベル, グリーン購入. 水情報 23 卷 4 号 2 頁, 川辺みどり, 2003年4月.
- 4) <インタビュー>針葉樹の森はもっと豊かに出来るー速水亨さんに聞くー. 水情報 23 卷 4 号 3-7 頁, 川辺みどり, 2003年4月.

(2) 学会活動

- 1) 環境科学会年会委員
- 2) レフェリー (漁業経済学会, 計画行政学会)

(3) 研究助成など

- 1) 平成13～15年度, 「熱帯アジア沿岸における地域共同体による環境管理に関する研究」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

環境科学研究科：環境政策評価論, 環境科学実習

社会工学類：沿岸域環境計画, 社会調査法および実習, Introduction to Urban and Regional Planning, 都市計画実習 III

III. 社会的活動

- 1) 水情報編集委員 ～2003年12月, エビ問題研究会事務局

近藤 文代

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Kondo, Fumiyo N. (2003), Decomposition of Multiple Sales Promotion Effects on Infrequently Purchased Category, in Proceedings of the 7th World Multiconference on Systemics, Cybernetics and Informatics, Vol. VIII, Applications of Informatics and Cybernetics in Science and Engineering, pp.230-234.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 近藤文代, 市村幸子 (2003年9月4日(木)), POSデータによる国産ブランドと海外ブランドの分析, 2003年度統計関連学会連合大会講演報告集, pp.337-338. (於:名城大学天白キャンパス).
- 2) Kondo, Fumiyo N., Decomposition of Multiple Sales Promotion Effects on Infrequently Purchased Category, at International Symposium on "Statistical Analysis of the Structure with the Latent Variable Model" held at Kobe University, Kobe, Japan, on December 19-20, 2003.

- 3) 川端 康之, 近藤 文代 (2004), カテゴリー選択を考慮した潜在クラス混合モデルによるセメンテーション分析, 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2004 年春季研究発表アブストラクト集, pp.286-287.

(2) 研究助成など

- 1) 平成15年度 共同利用研究費

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： マーケティング特論

経営・政策科学研究科： マーケティング・サイエンス

社会工学類： 情報基礎および実習, マーケティング工学

総合科目： 経営の科学

(2) 役職・各種委員会委員

システム情報工学研究科： パンフレット委員

経営・政策科学研究科： 総務, パンフレット委員

社会工学類： 図書委員, 学生担当委員, 就職委員

後藤 順哉

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Gotoh, J., Thoai, N.v. and Yamamoto, Y. (2003), "Global Optimization Method for Solving the Minimum Maximal Flow Problem", Optimization Methods and Software, 18, pp.395-415.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) H.Konno and J.Gotoh, "Minimal Ellipsoid Circumscribing a Polytope Defined by a System of Inequalities", 18th International Symposium on Mathematical Programming, Denmark Technical University, Copenhagen, Denmark, August 18-22, 2003.
- 2) 後藤, 今野, "Minimal Ellipsoid Circumscribing a Polytope Defined by a System of Inequalities", 「最適化：モデリングとアルゴリズム」研究集会, 統計数理研究所, 2004年3月15,16日.
- 3) 住田, 後藤, 金, "Numerical Exploration of Dynamic Behavior of the Ornstein-Uhlenbeck Process via Ehrenfest Process Approximation", 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2004 年春季研究発表会, 早稲田大学理工学部, 2004年3月17,18日.

iii) その他

- 1) Gotoh, J. and Konno, H. (2003), "Minimal Ellipsoid Circumscribing a Polytope Defined by a System of Linear Inequalities", Inst. of Policy and Planning Sciences Discussion Paper Series No.1065. Univ. of Tsukuba.
- 2) Sumita, U, Gotoh, J. and Jin, H. (2003), "Numerical Exploration of Dynamic Behavior of the Ornstein-Uhlenbeck Process via Ehrenfest Process Approximation", Inst. of Policy and Planning Sciences Discussion Paper Series No.1050. Univ. of Tsukuba.

(2) 研究助成など

- 1) 科学研究費，若手研究（B），「半正定値計画によるクラスタリング問題の効率的解法と金融リスク分析への応用」
- 2) 科学研究費，基盤研究（B）（2），「制御不能な部分システムを含む最適化問題」，（代表者：山本教授）
- 3) 科学研究費，基盤研究（C）（2），「単調性をもたない相補性問題に対する多項式時間の解法の開発」，（代表者：吉瀬助教授）
- 4) 受託研究：「時系列モデルに対する構造的数値解法の開発」みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社（住田潮教授，山本芳嗣教授と共同）
- 5) 受託研究：「信用リスク制御に関する問題解法」及び「OUプロセス吸収壁問題数値解法」みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社（住田潮教授，山本芳嗣教授と共同）

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科：ファイナンス理論 II，ファイナンス：理論と実践

社会工学類：社会工学概論及び実習，フレッシュマンセミナー，ファイナンス II，計算機科学

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系：防災委員

経営・政策科学研究科：カリキュラム委員

社会工学類：広報委員，クラス担任

齋尾 直子

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 齋尾，他「小学校敷地内における空間の配置パターンからみた児童の空間活用に関する研究」日本建築学会計画系論文集，第 572 号，33-40，2003.10
- 2) 齋尾，他「公立小学校屋外空間における児童の居場所形成の特性と空間要素の整備に関する研究—都市既存住宅地における小学校児童の活動実態を事例として—」日本建築学会計画系論文集，第 564 号，149-156，2003.2

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 齋尾「都市計画区域で行われる農村整備事業の効果と課題－山形五堰地区における親水空間整備を事例として－」日本建築学会大会学術講演梗概集 E2, 677-680, 2003.8

iii) その他

- 1) 流域における環境共生ネットワーク-新たな連携のあり方を探る- 日本建築学会 関東支部 農村建築専門研究委員会 (2004.3) (分担者)
- 2) 戦略的キャンパス計画と都市のシナジャイズ 日本建築学会 都市計画委員会 キャンパス計画小委員会 (2003.8) (分担者)
- 3) 平成 14-15 年度科学研究費補助金 特別研究促進費 (1) (課題番号 14800004) 平成 14-15 年度成果報告書「今後の大学施設の管理に関する調査研究」(2004.3) (分担者)
- 4) 平成 14-16 年度科学研究費補助金 基盤研究 (A)(1) (課題番号 14206028) 平成 15 年度成果報告書「中山間地域における持続発展型農村経営の方法に関する研究」(2004.3) (分担者)
- 5) 平成 13-15 年度科学研究費補助金 基盤研究 (B)(2) (課題番号 13450243) 研究成果報告書「都市共生型－高機能大学キャンパスの再構築計画に関する研究」(2004.3) (分担者)
- 6) 既存学校施設の有効活用に関する調査研究－報告書 平成 15 年度 日本建築学会 既存学校施設の有効活用に関する調査研究委員会 (2004.3) (分担者)

(2) 学会活動

- 1) 日本建築学会 農村計画委員会 本委員会委員
- 2) 日本建築学会 ラーバンデザイン小委員会委員
- 3) 日本建築学会 都市計画委員会キャンパス小委員会委員
- 4) 日本建築学会 関東支部農村建築専門研究委員会委員
- 5) 農村計画学会 若手研究者ネットワーク事業幹事
- 6) 農村計画学会 査読委員会委員

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 若手研究 (B), 「現代都市型地域社会における住民主体活動のアソシエーション化に関する研究」, (代表者)
- 2) 科学研究費, 基盤研究 (B)(2), 「都市共生型－高機能大学キャンパスの再構築計画に関する研究」, (分担者)
- 3) 科学研究費, 特別研究促進費 (1), 「今後の大学施設の管理に関する調査研究」,
- 4) 科学研究費, 基盤研究 (A)(一般), 中山間地域における持続発展型農村経営の方法に関する研究」, (分担者)
- 5) 科学研究費, 基盤研究 (B)(2)(海外), 「アルメニア共和国における中期キリスト教遺構の調査・研究－アルメニア共和国のキリスト教遺構の保存対策－」, (分担者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科： 公共空間計画

社会工学類： 都市計画実習 II, 都市計画実習 III

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学類： 研究計画委員

III. 社会的活動

- 1) 文部科学省既存学校施設の有効活用に関する調査研究委員会委員
- 2) 農林水産省美の里づくりガイドライン編集委員会委員

Stephen John Turnbull

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Stephen John Turnbull, 二村毅. 「An Empirical Study of the Effect of IT Investment in Japan 1975-2000: Focus on Software Assets」, Association of Japanese Business Studies で発表, Montreal, 6月6日.

(2) 学会活動

- 1) レフェリー：American Economic Review.

(3) 研究助成など

- 1) 学内プロジェクト, Stephen John Turnbull, 「自由ソフトウェアの社会的便益及び自由ソフトウェアに対して適切な政策」
- 2) 科学研究費, 基盤研究 (C) (2), 「ランダム係数ロジットモデルを用いたアメリカ自動車需要の推定とマーケティング的考察」, (分担者)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 情報経済システム特別講義

経営・政策科学研究科： ミクロ経済学

社会工学類： Introduction to Social and Economic Science, 経済動学

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系： コンピュータ委員

経営・政策科学研究科： 入試実施委員

社会工学類： 入試実施委員, コンピュータ委員

八森 正泰

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 八森正泰, On the rooted circuits of convex geometry of affine point configuration with kernel, 京都大学数理解析研究所共同研究集会「Designs, Codes, Graphs and Their Links IV」京都大学数理解析研究所, 2003年7月30日-8月1日.
- 2) 八森正泰, 核付アフィン点配置の根付サーキット系の性質について, 組合せ論・離散幾何研究集会 2003, 琉球大学, 2003年8月9-10日.
- 3) Sonoko Moriyama and Masahiro Hachimori, Shellability of simplicial complexes and optimization in acyclic orientations, 18th International Symposium on Mathematical Programming (ISMP2003), Technical University of Denmark, Copenhagen, 2003.8.18-22.
- 4) Masataka Nakamura and Masahiro Hachimori, The max-flow min-cut theorem for stems of rooted circuits of affine convex geometries, 18th International Symposium on Mathematical Programming (ISMP2003), Technical University of Denmark, Copenhagen, 2003.8.18-22.
- 5) Masahiro Hachimori, Rooted circuits of convex geometries from affine point configurations, 18th International Symposium on Mathematical Programming (ISMP2003), Technical University of Denmark, Copenhagen, 2003.8.18-22.
- 6) 八森正泰, 単体的複体の組合せ分割を巡る諸相, Seminars on Algorithms in Operations Research (SAOR, 日本オペレーションズ・リサーチ学会研究部会), 東京大学, 2003年9月27日.
- 7) 八森正泰, 立方的複体のファセット-リッジ接続グラフの非巡回的向き付け, 2003年度応用数学合同研究集会, 龍谷大学, 2003年12月18-20日.

ii) その他

- 1) 八森正泰, 核付アフィン点配置の根付サーキット系の性質について, 数理解析研究所講究録 1349 (2004), 187-203.
- 2) Masahiro Hachimori, Nonshellable but constructible 2-dimensional simplicial complex, EG-Models (<http://www.eg-models.de/>), Electronic Geometry Model No.2003.05.003.

(2) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 若手研究 (B), 「単体的複体のトポロジー的組合せ論とグラフの非巡回的向き付け上の最適化問題の研究」
- 2) 学内プロジェクト研究, 奨励研究 (B), 「組合せ構造の解析における幾何学的手法」
- 3) 科学研究費, 基盤研究 (B) (2), 「制御不能な部分システムを含む最適化問題」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

社会工学類： 社会工学情報処理実習 I, 情報基礎および実習 II, フレッシュマンセミナー

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系： コンピュータ委員, 防災委員

社会工学類： コンピュータ委員, 新入生オリエンテーション委員, クラス担任

原田 信行

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) "Who Succeeds as an Entrepreneur? An Analysis of the Post-Entry Performance of New Firms in Japan", *Japan and the World Economy* 15(2), pp.211-222, 2003.
- 2) 「景気指標としての株価」, 浅子和美・福田慎一編『景気循環と景気予測』第9章, pp. 233-256, 東京大学出版会, 2003.
- 3) 「企業家の労働時間：実証分析」, 企業家研究, 創刊号, pp. 18-29, 2004.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 「企業家の労働時間」 経営情報学会 (青山学院大学 2003年6月)
- 2) "Simulation Analysis of the Relationship between Expenditure Dispersion among Japanese Consumers and Economic Trends", 国際シミュレーション&ゲーミング学会 (ISAGA2003) (かずさアカデミアパーク 2003年8月)
- 3) "Working Hours of Entrepreneurs in Japan", 日本経済学会 (明治大学 2003年10月)

iii) その他

- 1) "Does the Creative Business Promotion Law Enhance SMEs' Capital Investment? Evidence from a Panel Dataset of Unlisted SMEs in Japan", *JCER Discussion Paper No. 88*, 2003.
- 2) "SME Policy, Capital Structure and Firm Growth: Evidence from Japan", *Chuo University Working Paper*, 2003.
- 3) "Small Business Managers as Latent Informal Investors in Japan: Evidence from a Country with a Bank-based Financial System", *Kobe University Discussion Paper Series 2003-23*, 2003.
- 4) 『企業・銀行・生保の収益力』, 日本経済研究センター 金融研究報告第9号, 2003.
- 5) 「なお減少傾向の銀行資本」, 日経金融新聞, 2003年10月20日
- 6) 「デフレの行方」, 『月刊金融ジャーナル』, 2003年12月号, pp.8-9, 2003.
- 7) 『デフレ・円高・長期金利の経済分析－景気回復のダウンサイドリスク』, 日本経済研究センター 金融研究報告第10号, 2004.

- 8) 「デフレ解消になお時間」, 日経金融新聞, 2004年3月22日
- 9) 「日本におけるコンテンツ産業の可能性ーゲーム産業を中心にー」, 赤門マネジメント・レビュー, 3巻3号, pp.115-123, 2004.

藤原 博彦

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 藤原博彦『広報研究』第7号(日本広報学会学会誌)「企業情報ディスクロージャーの理論的根拠としてのアカウンタビリティ概念の限界」73-83頁 <3名の査読委員による査読付き論文>

(2) 学会活動

- 1) 情報文化学会理事
- 2) 情報文化学会学会誌編集委員

(3) 受賞

- 1) 情報文化学会学会賞学術研究賞受賞

II. 社会的活動

- 1) 知的財産研究所長期在外研究員

水野 誠

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) Mizuno, Makoto and Nishiyama, Naoki, Interacting TV Viewers: A Case of Empirical Agent-based Modeling and Simulation for Business Applications, *Advances in Complex Sciences*, 6(3), 361-373, 2003.
- 2) 水野誠, 片平秀貴, 製品空間の拡大と消費者の選好ルールの形成-製品と消費者選好の進化プロセス, *マーケティングサイエンス*, 11(1-2), 1-21, 2003.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 芳賀麻誉美, 水野誠, 「複合的観点からの新製品導入の評価ー官能評価とマーケティングサイエンスの対話」日本マーケティング・サイエンス学会第74回研究大会, 2003年11月
- 2) 鈴木秀男, 水野誠, 住田潮, 佐治明「コストベネフィット的観点によるターゲット顧客識別手法の評価」第11回データ解析コンペティション, 2004年3月

iii) その他

- 1) Mizuno, Makoto, Chance Discovery for Consumers, in (Yukio Ohsawa and Peter McBurney eds.) Chance Discovery, Berlin, Germany: Springer, 367-382, 2003.

(2) 学会活動

- 1) 日本マーケティング・サイエンス学会誌のレフェリー

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科： マーケティング
社会工学類： マーケティング, 経営の科学

(2) 他大学における教育活動

- 1) 上智大学 全学共通科目「マルチメディア情報社会論」

III. 社会的活動

- 1) 日本能率協会「新商品開発とマーケティング・リサーチ」講演
- 2) 構造計画研究所「KK-MASコンペティション」審査委員

三橋 平

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Bird, Allan and Hitoshi Mitsuhashi. 2003. Entrepreneurial processes and mechanisms: Historical and theoretical perspectives and entrepreneurship in the Japanese Contexts. Asian Perspective, 27: 125-176. (REFREED)
- 2) Mitsuhashi, Hitoshi and Henrich R. Greve. 2004. Powerful and free: Intraorganizational power and the dynamics of corporate strategy. Strategic Organization, 2: 107-132. (REFREED)
- 3) Mitsuhashi, Hitoshi and Yamaga, Hisaki. 2004. The Market and Learning Structures for Gaining Competitive Advantage: An Empirical Study of Two Perspectives of Multiunit-Multimarket Organizations. A paper presented at the 2004 Academy of Management Meeting, New Orleans, Louisiana (REFEREED).
- 4) Sine, Wesley D. and Hitoshi Mitsuhashi. 2004. Can't buy me love: Certification seeking in the emerging independent power industry. A paper presented at the 2004 Academy of Management Meeting, New Orleans, Louisiana (REFEREED).
- 5) Mitsuhashi, Hitoshi and Yamaga, Hisaki. 2004. Structures of Multiunit and Multimarket organizations and Competitive Advantage of Hotels in the Tokyo Metropolitan Area, 1989-2002. The 2004 Association for Japanese Business Studies Conference Proceedings (REFEREED).

(2) 学会活動

- 1) Reviewer for the Annual Conference of Academy of Management and Management Science

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費，若手研究（A）

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科：組織行動論 II，経営戦略論

社会工学類：経営の科学，現代の経営と情報

III. 社会的活動

- 1) 自動車会社社会的貢献活動評価プロジェクト・メンバー
- 2) 筑波大学附属坂戸高校「起業基礎」研究開発指導

繆瑩

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) R. Tso, Y. Miao and E. Okamoto, A new algorithm for searching a consistent set of shares in a threshold scheme with cheaters, in Proceedings of the 6th Annual International Conference on Information Security and Cryptology - ICISC 2003, Lecture Notes in Computer Science 2971, pp. 377-385, Springer-Verlag, Berlin, 2004.
- 2) R. Fuji-Hara, Y. Miao and M. Mishima, Optimal frequency hopping sequences: A combinatorial approach, IEEE Transactions on Information Theory, to appear.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) Y. Miao, Triangle-free packings for low-density parity-check codes, International Workshop on Combinatorics, 慶応義塾大学理工学部数理解析学科，平成 16 年 1 月 20 日–22 日.
- 2) Y. Miao, Constructions for optimal splitting authentication codes, The Second East Asian Conference on Algebra and Combinatorics, Research and International Exchange Plaza, Kyushu University, November 17–21, 2003.
- 3) Y. Miao, Combinatorial constructions for splitting authentication codes, 「Designs, Codes, Graphs, and their Links IV」研究集会，京都大学数理解析研究所，平成 15 年 7 月 30 日–8 月 1 日.

(2) 学会活動

- 1) Editor : Graphs and Combinatorics, Springer.

- 2) Editor : Journal of Combinatorial Designs, John Wiley& Sons.
- 3) レフェリー : Designs, Codes and Cryptography
- 4) レフェリー : Discrete Mathematics
- 5) レフェリー : Graphs and Combinatorics
- 6) レフェリー : IEEE Communication Letters
- 7) レフェリー : IEEE Transactions on Information Theory
- 8) レフェリー : Journal of Combinatorial Designs
- 9) レフェリー : Journal of Zhejiang University

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費，基盤研究（C）（2），「組合せ的デザイン理論を用いた光直交符号の構成に関する研究」，（代表者）。

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 離散数学と暗号，リスク工学特別演習

経営・政策科学研究科： 実験計画法

社会工学類： 統計学，情報ネットワーク，解析学

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学類： 実験廃棄物取扱責任者

村尾 修

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 村尾修，市古太郎，中林一樹，王雪文，満田弥生：集集鎮における1999台湾集集地震の復興調査報告，日本建築学会技術報告集，日本建築学会，No.17，541-546，2003.6
- 2) 伊藤壮志，村尾修：高齢者世帯における地震時の家具転倒危険性の実態に関する研究，地域安全学会論文集，地域安全学会，No.5，87-94，2003.11
- 3) 中谷典正，村尾修：テクニカルライティングを用いた市町村のための防災マニュアル作成手法の提案，地域安全学会論文集，地域安全学会，No.5，285-292，2003.11
- 4) 狩谷のぞみ，村尾修：阪神・淡路大震災後の応急仮設住宅の供給と建設過程の比較研究，地域安全学会論文集，地域安全学会，No.5，309-318，2003.11

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 狩谷のぞみ，村尾修：日本重大災害事件中應急性臨時住宅建設過程之比較研究，台湾・日本・土耳其震災復原重建研究会，國家地震工程研究中心，台湾，2003.9

- 2) 市古太郎, 村尾修, 中林一樹: 台湾集集鎮における 921 地震災害からの市街地復興過程の空間的様相 日本・トルコ・台湾, 震災復興過程の国際比較研究その 11, 2003 年度日本建築学大会 (東海) 学術講演梗概集 F-1, 日本建築学会, 465-466, 2003.9
- 3) 狩谷のぞみ, 村尾修: 災害事例ごとの応急仮設住宅の建設過程の比較, Comparison of Construction Process for Temporary Housing in Japan, 2003 年度日本建築学大会 (東海) 学術講演梗概集 F-1, 日本建築学会, 443-444, 2003.9

iii) その他

- 1) 村尾修: 特集記事 東京の壊滅と再生 1923-20XX, 自然災害科学, 自然災害学会, 22-4, 319-353, 2004.3
- 2) 村尾修: Tokyo from 2003 to 1923, 自然災害科学, 自然災害学会, 22-4, 319-331, 2004.3 (上記特集の内容)
- 3) かわぐちかいじ, 村尾修: 日本列島崩壊と再生のビジョン, 自然災害科学, 自然災害学会, 22-4, 339-353, 2004.3 (上記特集の内容)
- 4) 村尾修 (共著): 日本都市計画学会防災・復興研究委員会: 防災復興研究委員会 2003 年度活動報告書, p.187, 2004.3

(2) 学会活動

- 1) 都市計画学会防災・復興研究委員会主査
- 2) 地域安全学会理事
- 3) 地域安全学会広報委員副委員長
- 4) 日本建築学会 都市防災システム小委員会都市防災システム図集発行 WG 幹事
- 5) 日本建築学会 地震防災総合研究特別研究委員会 都市防災・復興方策小委員会委員
- 6) 自然災害学会 学会誌編集委員会
- 7) 日本建築学会地震防災総合研究特別調査委員会都市防災・復興方策検討小委員会主催の第 7 回公開研究会にて, 「都市防災・復興方策のさらなる展開に向けて」と題して講演を行った. 2003.12.17

(3) 研究助成など

- 1) 復旧・復興プロセスにおける救援および復興政策立案・評価システム, 文部科学省大都市大震災軽減化特別プロジェクト分担者 (代表: 筑波大学 熊谷良雄)
- 2) 日本社会に適した危機管理システム基盤構築, 文部科学省振興調整費, 分担者 (代表: 京都大学防災研究所巨大災害研究センター 林春男)
- 3) 都市の被災復興シミュレーションのための 3 次元 GIS データベースの構築, 筑波大学学内プロジェクト奨励研究, 代表者
- 4) 大都市における火山灰災害の影響予測評価に関する研究 (火山灰災害による交通および都市活動への影響評価), 運輸施設整備事業団受託研究, 分担者 (代表: 筑波大学 熊谷良雄)

(4) その他

- 1) 日本海中部地震 (1983) からの復興調査 (秋田県能代市), 2003.5.23-24
- 2) 三陸南地震被害調査 (宮城県仙台市, 築館市, 岩手県大船渡市ほか), 2003.5.29-30

- 3) 台湾における復旧・復興過程調査（集集鎮），2003.9.13-21
- 4) 中国上海の都市脆弱性に関する調査 2003.10.26-30
- 5) 2003 年度第 3 回地震災害予測研究会（損害保険料率算出機構主催）にて「1995 年兵庫県南部地震被害結果に基づく建物被害関数の構築と今後の課題」と題して講演を行った。2003.11.26
- 6) 「ビッグコミック」誌（小学館）掲載中の「太陽の黙示録（かわぐちかいじ作）」監修を務める。2003.12 から適宜
- 7) 宮城県北部地震復興調査，2004.3.11-13

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： リスク工学特別演習，都市構造システム論，都市リスク分析演習

環境科学研究科： 環境情報解析処理法

社会工学類： 環境デザイン，都市計画実習 II，都市デザイン演習，図学・測量学，自由演習（空間演習）

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系： 予算委員，防災委員

環境科学研究科： 広報・リクルート委員

社会工学類： 施設委員，広報委員，学生委員

(3) 他大学における教育活動

- 1) 東京大学生産技術研究所研究員

(4) その他

- 1) 村尾修：大学の先生&国公立大学のセンパイが教えてくれる 72 学問わくわくガイド「68 都市計画」，進学リクルートブック二年生 学校選びスタート号 2003，108，2003.6

- 2) 社会工学類指導学生の狩谷のぞみ（2002 年度社会工学類卒業）が卒業研究「応急仮設住宅の建設過程に関する研究」にて 2003 年（第 14 回）日本建築学会優秀卒業論文賞を受賞した。

III. 社会的活動

- 1) 川崎市防災会議専門委員（川崎市防災対策検討委員会委員）
- 2) 川崎市防災会議専門委員（地域の防災力向上に関する小委員会委員長）
- 3) 損害保険料率算出機構地震災害予測研究会委員

八重倉 孝

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) ディスクロージャーと企業価値” ディスクロージャーフォーラム 2003年創刊号, pp.102-110.
- 2) 証券投資分析における会計情報の役割” 企業会計 2003年9月号, pp.59-64.
- 3) Time Series Property of the Value Relevance of Accounting Numbers in Japan” 日本会計研究学会大会口頭発表 (2003年9月)
- 4) 残余利益モデルによる投資戦略とアナリストの株価レーティング ” 日本ファイナンス学会年次大会口頭発表 (2003年6月)

(2) 学会活動

- 1) 日本会計研究学会学会誌『会計プロGRESS』編集委員
- 2) 日本会計研究学会『無形資産会計特別委員会』委員
- 3) 日本会計研究学会『倒産予測モデルの構築とパフォーマンスの検証スタディ・グループ』委員
- 4) 『年報経営分析研究』レフェリー

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

ビジネス科学研究科： 国際会計と法，財務会計，会計情報，社会科学の研究手法，財務会計輪講 I，財務会計輪講 II，財務会計輪講 III

(2) 役職・各種委員会委員

ビジネス科学研究科： 経営システム科学専攻総務国際委員

(3) 他大学における教育活動

- 1) 武蔵大学経済学部非常勤講師（財務会計論・外書購読）（ベスト・ティーチャー賞を受賞）

III. 社会的活動

- 1) 財務会計基準機構『概念整理ワーキンググループ』委員
- 2) 財務会計基準機構『業績報告ワーキンググループ』委員
- 3) 会計制度監視機構『資格制度ワーキンググループ』委員
- 4) NPO 法人国際会計教育協会幹事
- 5) 講演「会計数値ベースの企業評価モデルによる投資戦略」日本証券投資顧問業協会 (2004年2月)
- 6) 講演「会計基準とバリュエーション・モデル」日本証券アナリスト協会 (2004年1月)

柳原 宏和

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) H. Yanagihara, R. Sekiguchi and Y. Fujikoshi, Bias correction of AIC in logistic regression models, *Journal of Statistical Planning and Inference*, 115 (2003), 349-360.
- 2) 柳原 宏和, 吉本 敦, 一般化多変量分散分析モデルの林木直径成長分析への適用可能性, *統計数理*, 51 (2003), 19-35.
- 3) H. Yanagihara and M. Ohtaki, Knot-placement to avoid over fitting in B-spline scedastic smoothing, *Communications in Statistics Simulation and Computation*, 32 (2003), 771-785.
- 4) Y. Fujikoshi, T. Noguchi, M. Ohtaki and H. Yanagihara, Corrected versions of cross-validation criteria for selecting multivariate regression and growth curve models, *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*, 55 (2003), 537-553.
- 5) 西山 智, 柳原 宏和, 吉村 功. 最大対比法を活用するための SAS/IML プログラム. *計量生物学*, 24 (2003), 57-70.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 柳原 宏和, 非正規多変量線形モデルにおける尖度の推定について, 2003 年度 統計関連学会 連合大会, 名城大学, 名古屋, 平成 15 年 9 月 3 日 - 5 日.
- 2) H. Yanagihara and A. Yoshimoto, Assessment of carbon sequestration in sugi plantation, *Research Meetings and Excursions on Multipurpose Inventory for the Aged Artificial Forest*, IUFRO 4.02.02, Yamagata University, Yamagata, JAPAN, September 15-19, 2003.
- 3) H. Yanagihara, Selection of variables in nonnormal multivariate linear regression models, *International Conference on Statistics, Combinatorics and Related Areas and the 10th International Conference of the Forum for Interdisciplinary Mathematics*, University of Southern Maine, Maine, UAS, October 3-5, 2003.
- 4) H. Yanagihara, Robustness properties and Bartlett corrections for GMANOVA tests, *The Autumn Conference in 2003 of the Korean Statistical Society*, Seoul National University, Seoul, Korea, October 31-November 1, 2003 (招待講演).
- 5) 柳原 宏和, Corrected Version of AIC for Selecting Nonnormal Multivariate Linear Regression Models, 研究集会「漸近展開 2003」, 広島, 平成 15 年 12 月 15 - 16 日.
- 6) 柳原 宏和, 吉本 敦, 成長パターンのクラスタリングによる林木成長予測, *森林資源管理と数理モデル第四回シンポジウム - FORMATH NAGOYA 2004 -*, 名古屋, 平成 16 年 3 月 13 日 ~ 14 日.

iii) その他

- 1) H. Yanagihara, T. Tonda and C. Matsumoto, The effects of nonnormality on asymptotic distributions of some likelihood ratio criteria for testing covariance structures under

normal assumption, Technical Report No. 03-06, Statistical Research Group, Hiroshima University.

- 2) 柳原 宏和, 大瀧 慈, B-スプラインノンパラメトリック回帰モデルにおける過剰適合の回避について, Institute of Policy and Planning Sciences Discussion Paper Series No. 1041.
- 3) H. Yanagihara and K.-H. Yuan, Improved t-statistics in multiple comparisons for non-normal data, Technical Report No. 03-13, Statistical Research Group, Hiroshima University.
- 4) Y. Fujikoshi, H. Yanagihara and H. Wakaki, Bias corrections of some criteria for selecting multivariate linear models in a general nonnormal case, Technical Report No. 03-20, Statistical Research Group, Hiroshima University.
- 5) H. Yanagihara and A. Yoshimoto, Statistical procedure for assessing the amount of carbon sequestered by sugi (*Cryptomeria japonica*) plantation, Institute of Policy and Planning Sciences, Discussion Paper Series No. 1076.
- 6) H. Yanagihara, Corrected version of AIC for selecting multivariate normal linear regression models in a general nonnormal case. Technical Report No. 04-04, Statistical Research Group, Hiroshima University.

(2) 学会活動

- 1) レフリー: Advances and Applications in Statistics, Annals of the Institute of Statistical Mathematics, Journal of the Japan Statistical Society, Psychometrika.

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 若手研究 (B), 「歪みをもち裾の重い誤差分布を用いた回帰分析法の開発」, (代表者)
- 2) 科学研究費, 基盤研究 (B) (2), 「不確実環境における森林資源最適確率制御モデルによる炭素固定の経済分析」, (分担者)
- 3) 科学研究費, 基盤研究 (B) (2), 「多変量解析における変数選択問題に関する理論的基礎と応用」, (分担者)
- 4) 平成 15 年度 筑波大学学内プロジェクト (奨励研究), 「分布に正規性を仮定したときの共分散構造解析における非正規性の影響とそのずれに対する補正法」.
- 5) 平成 15 年度 海外研究開発動向調査に係る派遣研究者. 次元が大きい場合での非正規共分散構造解析における問題点とその補正法. 派遣先: Laboratory for Social Research, University of Notre Dame (USA).

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

経営・政策科学研究科: 統計学 I, 情報科学演習

社会工学類: 微分積分学, 社会工学情報処理実習 III

(2) 他大学における教育活動

- 1) Visiting Assistant Professor, Laboratory for Social Research, University of Notre Dame (USA), March - May, 2004.

山鹿 久木

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 大竹文雄, 山鹿久木 (2003) 「定期借家制度と民間賃貸住宅市場」, 『都市住宅学』 No.43, pp.78-83
- 2) 山鹿久木, 中川雅之, 齊藤誠 (2003) 「市場メカニズムを通じた防災対策について: 地震リスクに関する実証研究からのインプリケーション」 『住宅土地経済』 No.49, pp.24-32
- 3) 大竹文雄, 山鹿久木 (2003) 「在職高齢年金制度と男性高齢者の労働供給」, 『選択の時代の社会保障』, 国立社会保障・人口問題研究所編, 東京大学出版会 pp.33-50.
- 4) Iwata, S. and Yamaga, H. (2004) The Costs and Benefits of Tenancy Rent Control in Tokyo, IPPS Discussion Paper Series 1081, University of Tsukuba

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 「定期借家制度と民間賃貸住宅市場」都市住宅学会（九州大学）2003.11.
- 2) 「定期借家制度が家賃水準に与えた影響の分析」応用地域学会（埼玉大学）2003.12.

(2) 学会活動

- 1) 都市住宅学会常議員
- 2) 都市住宅学会編集委員
- 3) 都市住宅学会総務企画委員
- 4) 『都市住宅学』, 『日本不動産学会誌』, 『交通学研究』のレフェリー

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 若手研究 (B)
- 2) 科学研究費, 基盤研究 (B)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

社会工学類: 微分積分学, 都市経営論, 地域科学演習 II

(2) 役職・各種委員会委員

社会工学系: 総務委員

(3) 他大学における教育活動

- 1) 国土交通大学校柏研修センター 非常勤講師

III. 社会的活動

- 1) マンション建替えの円滑化に資する借家制度の在り方に関する研究委員会委員（国土交通省）

吉田 謙太郎

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 著書および査読つき論文
- 2) 吉田謙太郎「表明選好法を活用した模擬住民投票による水源環境税の需要分析」『農村計画学会誌』22(3), 2003年12月, pp.188-195
- 3) Yoshida, K., and H.H. Peterson, Estimating the Consumer Response toward the Country-of-Origin Labeling and Food Safety of Imported Rice. *Journal of Rural Economics, Special Issue*, 2003.12, pp.297-302
- 4) 矢部光保・吉田謙太郎・アンドレアス=コントレオン「表明選好データと顕示選好データの結合モデルによる選択実験-「選択外」オプションの影響評価-」『農業経済研究・2003年度日本農業経済学会論文集』2003年12月, pp.320-325
- 5) 吉田謙太郎「政策評価における環境評価利用の現状」『環境経済・政策学会和文年報』8, 2003年11月, pp.68-81

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 吉田謙太郎「地方環境税導入のための環境評価利用」環境経済・政策学会, 2003年9月
- 2) 矢部光保・アンドレアス=コントレオン・吉田謙太郎「食の安心と環境意識の経済分析」環境経済・政策学会, 2003年9月

iii) その他

- 1) 吉田謙太郎「表明選好法による地方環境税の需要分析における花粉症情報の影響」『日本リスク学会代16回研究発表会講演論文集』16, 2003年11月, pp.57-62
- 2) 吉田謙太郎「都市生態系の社会経済評価」『広島大学大学院国際協力研究科21世紀COEプログラム Discussion Paper』2003-3, 2003年3月, pp.1-17
- 3) 吉田謙太郎「生物多様性の経済評価」『日本生態学会関東地区会報』52, 2004年3月, pp.24-29
- 4) 吉田謙太郎「表明選好法による環境便益評価額の推計」『環境こだわり農業にかかる環境便益調査報告書』2003年9月, pp.7-27
- 5) Yoshida, K., and H.H. Peterson, Japanese Perception of Safety and Willingness-to-Pay for Imported Rice, *Proceeding for the International Symposium on Food Safety: Consumer, Trade, and Regulation Issues*, 2003.10, pp.165-172

(2) 学会活動

- 1) 農村計画学会編集委員会委員
- 2) 査読委員（農業経済学会, 農村計画学会, 日本地理学会, 農業土木学会）

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費，基盤研究（B）（2），「草地生態系の物質循環機能を考慮した酪農の持続的生産体系と LCA 分析」，(分担)
- 2) 科学研究費，基盤研究（B）（1），「循環型社会形成に調和する日本型農業モデルの構築」，(分担)

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

環境科学研究科： 社会環境システム論，循環型社会システム論
社会工学類： 環境政策学

(2) 他大学における教育活動

- 1) 宇都宮大学（非常勤講師）

III. 社会的活動

- 1) 台東区役所「台東区文化政策懇談会」専門調査員
- 2) 漁港漁場漁村技術研究所「漁村振興活性化対策調査」委員
- 3) 広島大学大学院国際協力研究科「21世紀 COE プログラム社会的環境管理能力の形成と国際協力拠点」共同研究者
- 4) 全漁連「水産業・漁村の多面的機能支援化委託事業」委員
- 5) 講演等（農業工学研究所，日本生態学会関東地区会，広島大学，中央大学，農林水産省ほか）

吉田 友彦

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 吉田友彦他：東京の住宅地第3版，2003年9月，日本建築学会関東支部，pp.194-197等
- 2) 吉田友彦・齋藤雪彦・高梨正彦：旧住宅地造成事業による未成住宅地の土地所有構造一つくば市SR地区を事例として－，2003年11月，日本建築学会計画系論文集第573集，pp.117-124
- 3) Tomohiko YOSHIDA: Comparative Analysis on Land Consolidation Projects between Indonesia and Japan, 2003, Journal of Asian Architecture and Building Engineering, 2(2)

ii) その他

- 1) Tomohiko YOSHIDA: Emerging Problems of Housing Land Development in Tokyo Metropolitan Area, June 2003, Proceeding of KRIHS-Tsukuba Univ. Joint Workshop pp.35-50
- 2) 吉田友彦：旧宅造法による未成住宅地の林地回帰，2003年9月，2003年度日本建築学会大会（東海）都市計画部門研究資料「現代居住地再編と住環境政策（II）」

- 3) 吉田友彦：未成住宅地の目指すもの，2003年6月，住宅会議第58号，pp.23-27
- 4) 吉田友彦・齋藤雪彦・高梨正彦：旧住宅地造成事業による未成住宅地について－茨城県を事例として－，2003年9月，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.781-782
- 5) 小山雄資・吉田友彦：筑波研究学園都市の市街地外縁部における戸建て持ち家建設の動向，2003年9月，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.1187-1188
- 6) 西廣大輔・吉田友彦：地方都市の社宅の分布からみる公営住宅再編の方向性，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.1311-1312

(2) 学会活動

- 1) 日本建築学会・関東支部住宅問題専門研究委員会・主査
- 2) 日本建築学会・建築経済委員会・住宅の地方性小委員会・委員
- 3) レフェリー「日本建築学会計画系論文集」
- 4) 日本都市計画学会学術委員

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

留学生センター： 留学生センター相談指導業務，外国人留学生及びチューター向けオリエンテーション

環境科学研究科： 環境統計分析法，環境科学実習

社会工学類： 社会工学概論及び実習，都市計画実習 II，自由演習

(2) 担当講義

留学生センター： 情報・ネットワーク委員会幹事

社会工学類： 広報委員

III. 社会的活動

- 1) NPO法人・西山記念すまい・まちづくり文庫運営委員
- 2) 一級建築士登録（296144号）

領家 美奈

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 中森義輝・領家美奈・河野小夜子，感性評価データの主成分分析に関する考察，日本知能情報ファジィ学会学会誌，第15巻，第6号，pp.658-670，Dec.，2003.
- 2) Mina Ryoke, Takao Terano and Yoshiteru Nakamori, Agent-based Approach to Knowledge Discovery from Database, Proc. of IFIP Workshop Group 7.6 Workshop on Virtual Environments for Advanced Modeling, pp.41, Hawaii, America, January 2-4, 2004.
- 3) Mina Ryoke and Yoshiteru Nakamori, Detection of Local System Structures From

Complex Database, Proc. of Forth International Symposium on Knowledge and Systems Sciences, pp.13–18, Guangzhou, China, Nov. 28–29, 2003.

- 4) Mina Ryoike and Yoshiteru Nakamori, Agent-based Approach to Complex Systems Modeling, Proc. of Internatioanl Symposium on Systems and Human Science for Safe, Secure and Reliable Society (SSR2003), pp. 27–32, Nov. 18–19, 2003. <http://www-arailab.sys.es.osaka-u.ac.jp/ssr2003/>
- 5) Yoshiteru Nakamori and Mina Ryoike, An Agent-based System for Knowledge Discovery from a Complex Database, IFIP TC 7 Conference, Sophia Antipolis, July 21-25, 2003. Proceedings will be published later.
- 6) Van-Nam Huynh, Mina Ryoike, Yoshiteru Nakamori and Tu Bao Ho, Fuzziness and Uncertainty within the Framework of Context Model, Fuzzy Sets and Systems - IFSA 2003, Lecture Notes in Artificial Intelligence 2715, Springer, (Proc. of 10th IFSA World Congress, Istanbul, Turkey, June 29-July 2, 2003), pp. 219–228, 2003.

(2) 学会活動

- 1) 知能情報ファジィ学会関東支部会 委員
- 2) 知能情報ファジィ学会ソフトサイエンス研究会幹事

(3) 研究助成など

- 1) 科学研究費，若手研究（B），「多次元データ空間探索エージェント群の設計に関する研究」，（代表者）
- 2) 筑波大学学内プロジェクト，「大規模複雑データからの知識発見エージェントの設計に関する研究」，（代表者）

渡辺 真一郎

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Watanabe, S., & Hammer, T.H. (2004). A study on a cognitive bridge from ability to performance. American Psychological Society 16h Annual Convention, Chicago, IL.
- 2) Watanabe, S., & Hammer, T.H. (2004). On a psychological trip from latent personality traits to surface behavior. American Psychological Society 16h Annual Convention, Chicago, IL.
- 3) Watanabe, S., & Hammer, T.H. (under revision). A cognitive dissonance explanation of the effect of self-adjustment on the relationship between person-situation discrepancy and situational attachment. The Japanese Journal of Administrative Science.

(2) 研究助成など

- 1) 科学研究費，萌芽研究

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

システム情報工学研究科： 組織科学

経営・政策科学研究科： 組織行動論

社会工学類： 経営組織論，社会調査法

梅澤 正史

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) “Evaluating All Bertrand-Nash Equilibria in Discrete Spatial Model” (with N. Matsubayashi, Y. Masuda, and H. Nishino.), *Journal of the Operations Research Society of Japan* (2004) 47(1), 25–37.
- 2) “A Cost Allocation Problem Arising in Hub-Spoke Network Systems” (with N. Matsubayashi, Y. Masuda, and H. Nishino), To appear in *European Journal of Operational Research*.
- 3) “企業内市場メカニズムによるナレッジ・マネジメントに関する理論的考察” (共著者：山川茂孝), To appear in *経営情報学会誌*.

ii) その他

- 1) “最小費用フォレストゲームにおけるコアの性質”, 日本オペレーションズ・リサーチ学会アルゴリズム研究部会 (SAOR), 2003年5月31日, 6月1日 (於 筑波大学)
- 2) “ネットワーク上の協力ゲームにおける費用分担問題”, 組合せ数学セミナー, 2003年6月6日 (於 東京大学)
- 3) “On the Properties of the Core in Minimum Cost Forest Games” (with H. Nishino), *The Third International Conference on Nonlinear Analysis and Convex Analysis*, (in Tokyo Institute of Technology, Tokyo, JAPAN), August 25-29, 2003. (Refereed)
- 4) “On the Core of Minimum Cost Forest Games”, 筑波大学社会工学系ファカルティセミナー, 2003年9月9日 (於 筑波大学)
- 5) “最小費用フォレストゲームにおけるコアの存在について”, (共著者：西野寿一), *統計数理研究所共同研究レポート* 168, *最適化：モデリングとアルゴリズム* 17 (2004年2月), 49–56.

(2) 学会活動

- 1) レフェリー： *Journal of the Operations Research Society of Japan*

(3) 研究助成など

- 1) 学内プロジェクト, 奨励研究, 「ネットワーク上の費用分担問題に対するゲーム論的考察」

II. 教育・業務活動

(1) 担当講義

総合科目： 情報と職業

新谷 由紀子

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 菊本虔, 新谷由紀子「大学等発ベンチャーの課題と推進方策に関する調査研究」平成 15 年度文部科学省 21 世紀型産学連携手法の構築に係るモデルプログラム成果報告書, 2004.3
- 2) 新谷由紀子「企業ニーズに基づいた大学の技術移転における有効な方式の研究」平成 15 年度 筑波大学学内プロジェクト研究 (奨励研究) 報告書, 2004.2
- 3) 新谷由紀子, 佐土原聡, 吉田聡「都市の緑環境に対する市民団体の意識に関する調査研究」日本建築学会環境系論文集 No.57, pp.57-64, 2004.2
- 4) 新谷由紀子「産学連携における倫理をめぐる諸問題と倫理基準策定の研究」平成 14・15 年度 文部科学省科学研究費補助金若手研究 (B) (課題番号: 14710017) 報告書, 2004.1
- 5) 新谷由紀子, 佐土原聡, 吉田聡「都市移居住者の居住地の選定における緑環境の位置付けに関する一考察」第 1 回開発技術学会 研究発表会予稿集, pp.43-47, 2003.10

(2) 研究助成など

- 1) 科学研究費, 若手研究 (B), 「産学連携における倫理をめぐる諸問題と倫理基準策定の研究」
- 2) 筑波大学学内プロジェクト研究, 奨励研究, 「企業ニーズに基づいた大学の技術移転における有効な方式の研究」

II. 教育・業務活動

(1) 役職・各種委員会委員

産学リエゾン共同研究センター: 運営委員

牧 雅康

I. 研究活動

(1) 研究業績

i) 著書および査読つき論文

- 1) 牧雅康, 田村正行: Landsat/TM データを用いた焼失域の特定及び被災程度の分類に有効な波長帯の検討と適用, 日本リモートセンシング学会誌, Vol. 23 (1), pp. 21-30, 2003.

ii) 学会での口頭発表・講演等

- 1) 牧雅康, 石原光則, 田村正行: 衛星リモートセンシングによる森林火災危険度評価のための植生水分状態の推定法, 第 34 回日本リモートセンシング学会学術講演会論文集, pp. 199-200, 2003 年 5 月 15-16 日.
- 2) Masayasu Maki, Mitsunori Ishihara and Masayuki Tamura: Estimation of leaf water status to monitor the risk of forest fires, International Symposium on Boreal Forest Disturbance and Its Effects to Global Warming, November. 17-19, 2003.

(2) 研究助成など

- 1) 平成 15 年度学内プロジェクト研究, 奨励研究 (準研), 「衛星データを用いた森林火災の延焼予測手法の開発」

II. 社会的活動

- 1) 東京大学 生産技術研究所 協力研究員

社会工学系を振り返って **V**



V-1 歴代社会工学系長による寄稿集

歴代社会工学系長一覧

年	社会工学系長	専攻
1977 (昭和 52)	宍戸駿太郎	社経
1978 (昭和 53)	宍戸駿太郎	社経
1979 (昭和 54)	宍戸駿太郎	社経
1980 (昭和 55)	宍戸駿太郎	社経
1981 (昭和 56)	宍戸駿太郎	社経
1982 (昭和 57)	渡邊浩	経工
1983 (昭和 58)	渡邊浩	経工
1984 (昭和 59)	山田圭一	社経
1985 (昭和 60)	山田圭一	社経
1986 (昭和 61)	川手昭二	都市
1987 (昭和 62)	川手昭二	都市
1988 (昭和 63)	柴川林也	経工
1989 (平成元)	柴川林也	経工
1990 (平成 2)	厚見博	社経
1991 (平成 3)	厚見博	社経
1992 (平成 4)	坂下昇	都市
1993 (平成 5)	坂下昇	都市
1994 (平成 6)	門田安弘	経工
1995 (平成 7)	門田安弘	経工
1996 (平成 8)	大谷順彦	社経
1997 (平成 9)	大谷順彦	社経
1998 (平成 10)	谷村秀彦	都市
1999 (平成 11)	腰塚武志	都市
2000 (平成 12)	高木英明	経工
2001 (平成 13)	高木英明	経工
2002 (平成 14)	橋本昭洋	社経
2003 (平成 15)	橋本昭洋	社経
2004 (平成 16)	熊谷良雄	都市

社会工学系の原点

宋戸駿太郎 (1977 年度～1981 年度 学系長)

「大学改革」の名のもとに、既存の組織や制度が次々と変わり果て、これまでの文化的・知的集積である学系集団が風化の危険にさらされている。大学を制度いじりで一朝一夕に改めようとする今日の政府主導の動き（とくに筑波大学の場合）にはかねがねから憂慮していたが、ついに社会工学系の形式上の解体にまで至っていることは遺憾の極みである。せめて社会工学類の教育システムは当面存続するよう前学長にも強く申し上げているので、この方の学類教育はまだ生命を続けるものと期待している。

社会工学系とは何ぞやという議論は、当時から永らく東京工業大学と筑波大学とで相互に討議を重ねており、学会としては、日本計画行政学会が最も好意的であったことを記憶している。我々社会工学グループでは創立 10 周年を記念して、「社会工学概論」上・下 2 巻を学陽書房で出版しているが、これを読めばその当時の片鱗をつかむことが出来る。

今日のような制度的変貌を遂げる以前に、何回も我々 OB グループと現役グループとの間に熱烈な意見交換を続けるべきではなかったかと、今さらながら後悔をしている。

学際的研究グループは、燃え続けていない限り、すぐにバラバラに解体してしまう危険をはらんだ学者集団で、つねに明快な旗印が筑波大学にはあったはずである。第 1 が超学際的な研究と政策指向性、第 2 は貪欲な隣接分野への好奇心を侵略的な冒険的精神、第 3 は自己の属する固有の研究領域への自負と謙虚さ、この三つのいずれかが欠けても学際的な研究と教育の精神は成立しない。

私どもが属する PAPAIOS（環太平洋産業連関分析学会）や日本地域学会、応用都市学会などにおいても、この社会工学的カルチャーが今でも生き続けており、筑波大学社会工学系の気風が脈々として根付いているのは頼もしい限りである。

国際 A 級を目標して設立した筑波大学の学系の中でも社会工学はその目玉の中の目玉であり、その気概と伝統は何時までも忘れないで欲しいと思う。現役・OB・卒業生一体となって今こそ「筑波型社会工学」の原点を考え直す時期ではないだろうか。

社会工学系を振返って

渡邊浩 (1982 年度～1983 年度 学系長)

大学組織の改編に伴って、学系が無くなるとは、世の中の変化の早さに一抹の感慨。学系長を勤めたのは 82—83 年度の 2 年間。すでに 20 年前のこと。その前は東北大学に教授で 6 年間在勤、74 年 9 月末で辞任する予定だった所、8 月に話。74 年 11 月頃から筑波大学社工系の構想に参加。研究と教育のマトリクス組織、後で推察するに、教育大学にあった問題から？75 年 4 月に学系と社会工学研究科が発足、着任。

学系発足当時の諸課題：7 人中教授は 4 人、緊急の問題は教官人事。学問的な実力のある人を集めなければ、という点では教授 4 人の考えは一致。75 年当時では領域に依り、教授に依り、学位基準には基準についてはかなりの開き。採用基準:学位 + refereed paper 何点で、実力ある人を採用出来なかった例も。学類に取って必要な先生だが、専門性からは他学系に所属を、が拒否されたことも。

学系長在任中の諸課題：82 年には所属教官 90 人ぐらいの大学系に、後にして思えばこれは他学系の評議員定数獲得意欲の結果か？昇任人事の始動：第一号は金子先生。本部に対して積極

的な提案, 要求をしなかったこと. 学系の一体感の醸成が先決と. 学系の内情に就いて本部はどう把握? どこかに闇ルート? 目良氏の転出, 離脱. 発足時の4教授の一人. 都市, 地域系各分野の柱, 残念だった.

社会工学系を振り返って

山田圭一 (1984年度~1985年度 学系長)

1977年に私が東京工業大学社会工学科から移った当時の社会工学系は, 前者(6講座)よりずっと規模も大きく, 幅広い専門のスタッフを集めていて, この分野の日本でのセンターというべき組織でした.

私が着任してからも, 社会工学はいかにあるべきかという議論がずいぶん熱心に繰り返されてきていました. しかし”社会的課題を解決するための(広義の)工学的アプローチという理解の仕方をすれば, その後の四半世紀の間にこのような分野はずいぶん発展し, 多様化してきていますし, 筑波大学の社会工学系もあまり大きくなりすぎていますから, その在り方を再検討する良い機会だと思います.

これに関連して

(1) 大学院の部局化にあたって, 筑波大学の最大の特徴の一つであった研究と教育のマトリックス組織がどうなるのか知りたいと思います.

(2) 学系の発足にあたって, その基本計画とスタッフの選定などの中心的役割を果たした, 宍戸駿太郎, 稲地崇生などの諸先生から学系が誕生する迄の経過について, 書いていただくか, ヒアリングをするなどして最後のアニュアル・レポートにしっかりした記録を残していただきたいと願っています.

社会工学系と社会工学類の関係について

川手昭二 (1986年度~1987年度 学系長)

社会工学とは, 次の5ステップで組み立てられる学問領域と私は考えている.

第1は, 「実現したい社会空間像(望ましき空間)」が, 初めに存在すること

第2に, 「望ましき空間」と「現実の空間」との差を明らかにすること

第3に, 「現実の空間」を「望ましき空間」に近づけるためのプロセスを複数考案する

第4に, 考案された複数のプロセスを政策として決定するための必要条件を明らかにする

第5に, 明らかになった必要条件を整えるためのコストを定量化する

学系所属の教員は原則として教育をすることになっているので, 社会工学類で学生に, 社会工学を理解させなくてはならない. 問題は, 「望ましき空間」に関して教員側の統一的な定義がないことである. 個別の講義ではそれぞれの教員が自分の定義で行えばよいし, 学生は異なる価値観の空間が存在することを知る意味がある. しかし, 社会工学実習のように複数教員が協働して行う科目については「実現したい空間像」を仮に定めてから始めなくてはならない. 第1ステップ~第5ステップの流れには論理的に密接な関係があるので, 第1ステップの設定は教員にとって重大な問題にある. そこで必要なことは, 個別教員の価値観の差を論ずることを止めて, 学類生にとって分かりやすく・扱いやすい「望ましき空間とは何か」に関する調査と分析から始めることになる. 実習以前に行われる複数教員のこの作業が, 社会工学に関する共同研究になってきた

のではないだろうか。

実は、社会工学を実学化する上で一番大切なことは、実社会の人々が抱いている「漠然とした、望ましき空間」を「明快な、望ましき空間」に変換させる社会工学的な方法論の確立であると私は考えている。

社会工学系を振り返って

柴川林也 (1988年度～1989年度 学系長)

私が学系長になったのが、昭和63年(1988年)であるから、もう20年以上も年月が経ったことになる。従って、記憶もかなり薄れてきたことは否めないが、在任中に特に皆様のご協力を得て出来たことだけを2、3書かせていただく。

学系長に就任してまもなく、大塚に社会人大学院として、経営・政策科学研究科の専攻を増やそうということで、「経営システム科学」専攻を新設する計画が浮上した。なにしろ、初めての夜間大学院であり、つくばから夜間大学院に教えに行く教官はまずいないという前提で、新しく人集めをしなくてはならなかった。幸いにも、東京工業大学名誉教授の森村英典先生が夜間大学院の主任教授として着任して下さり、カリキュラムの作成から優秀な人材を集めることにも大変な努力をされたのである。

わたしも一年間は大塚の夜間の大学院生を教えるという貴重な経験をさせていただいた。昼間の学生を教えるのとは違い、問題意識も高くこちらが相当準備していかないことには満足な講義ができないことを痛感した。話は前後するが、この夜間大学院への世間の関心は高く、最初の年、全国の有名大学出身者などを合わせると、受験生は相当な数になり、研究計画書を何人かで手分けして読み、一日掛けて面接したのを覚えている。現在は、修士課程だけでなく博士課程もできて、独立の大学院研究科としてますます発展していると聞いている。

もうひとつ忘れないのは、山一証券ファイナンス寄附講座の開設の話が推貝博美副学長(当時)を介して山一証券経済研究所からあるので、当研究所に出向いて話を聞くことになった。推貝先生とご一緒に会長室に通され、社長を交えて国立大学の経済学、経営学の分野では初めての寄附講座を開設することになったのである。山一証券株式会社創立90周年事業の一環として寄附講座が筑波大学の第1号ともなるというので、当時バブルの絶頂期にあった日本では株価は値上がりしており、ファイナンスの寄附講座を開設するタイミングとしては良かったといえよう。

それからが大変で、寄附講座の教授、助教授を内外から公募で探すことになった。公募の広告をして驚いたことに、実に内外から沢山の応募者があった。しかし、最初の年に高名な教授を招聘しないといけないというので、随分苦労したものである。幸いなことに、カナダの著名な大学であるブリティッシュ・コロンビア大学から客員教授として筑波大学の社会工学系に来られたばかりの永谷教授のお世話で、ファイナンスの分野の学者ではトップクラスで同じ大学の同僚である人をご紹介いただいた。ところが、日本の国立大学の俸給表では海外から著名な教授を一年間お呼びするのは、きわめて困難であった。山一証券と話し合っ、研究所の所員に週に1、2回講演してもらったり、共同研究の助言をするなどして俸給の不足を補うほか、Ziemba教授の夫人にも講義を担当して貰うことが了承されて、ようやく本人の来日がきまり寄附講座は軌道に乗ることになった。その翌年から2年間、わたしは年末になると全米経済学会のファイナンス部会に学会出張をして、そこで人集めをするようになった。これも大変な仕事で忘れることが出来ない経験となった。アメリカではよく学会の時に博士課程を修了する学生を面接して採用するそうだが、これをslave market というのだそうである。

学系長といえば、その仕事で一番気を配るのが人事ではなかろうか。当時は、経済学、経営工

学，都市計画の3分野からそれぞれに専門に関係のある人事案件を各分野毎に出してもらい，採用と昇任人事をやる訳だが，筑波大学は人事専門委員会，人事委員会と手続きが面倒で苦労した覚えがある．社会工学系は人事に厳しいという定評があったせいか，優れた人材が集まり，そのせいか業績のある人は他大学に引き抜かれるなど，とにかく教官の出入りの激しい大学で学類長ともども苦労を強いられた．

大学院の部局化と独立行政法人とが重なり，国立大学はまさに激動期に入り，COEに認可されるための分野ごとの申請などをめぐって，大学間の競争がこれから一段と激しくなる中で，筑波大学の一層の発展を願って止まない．

絶えず夢に挑戦を

厚見博 (1990年度～1991年度 学系長)

設立準備当初の7人の侍の中には入っていませんが，社会工学系が設立された年に筑波に赴任し退職するまで，あっと云う間の18年でした．社会工学とは一体何かというアイデンティティを求めて頑張った月日を思い出します．博士課程の専攻が増え，経営政策ができ，学類ができるなど拡張に続く拡張で多忙であった時期を想いますと，大学法人化で組織のあり方が厳しくなったのか，社会工学系がなくなると聞いて時代の流れを感じます．

けれども，今までに積み重ねられた研究成果や社経・都市・経工という3分野での学問の実績がなくなるとは考えられません．また，いつも新しい学問を目指し，国際的な業績を挙げ続けるという夢に挑戦を続けることが肝要と思います．古い殻は消えるとも新しい酒は新しい革袋に盛られて，更に発展を遂げると確信しております．

会議が多かったのも印象に残っています．学系長をやっていた間，人事関係以外は，出来るだけ会議の時間や回数を減し，決断を早く，独断専行する事も屡々でした．この度の法人化に伴う組織の簡素化も研究時間の充実に活かされてこそ価値があります．皆様のご健闘をお祈りして止みません．

社会工学系を振り返って

門田安弘 (1994年度～1995年度 学系長)

私は、1994年4月から96年3月までの2年間、社会工学系長を務めました。その主な仕事は社会工学系の教員約100人の昇進や採用に関する会議の議長役でした。基本は社会工学類の3専攻に対応した分野別人事懇談会が基礎となって、人事の提案が学系人事懇談会に上がってきて審議決定していました。この仕組みは専攻別の独断を広い視野から牽制する点では一定の効果をもっていました。各専攻にとっては自律性に制約も与えていました。また流動性の高い本学系では、すべての教授の先生方は「ざるで水を汲む」ような大変な人事に従事してこられました。

さらに、社会工学系の教員は、ほとんど全員が同じ教育組織で教えていましたから、教育組織と研究組織（学系）が2分していたことは昇進などで教育ニーズの汲み上げの点でも非効率で、私は通常の大学のように両者は1本化されるべきだと思っていました。

このたび、教育組織のシステム情報工学研究科が同時に人事管理組織ともなり、経営・政策科学研究科も吸収し、本学が研究重視の大学院中心大学となって新しい道を歩み始めたことは、方向としては正しい道だと思います。

社会工学系を振り返り

大谷順彦 (1996年度～1997年度 学系長)

今年度より学系が実質的機能を失い、教官の所属はすべて研究科となったことを知らされました。私は平成8年4月より同10年3月まで学系長を勤めましたが、その頃すでに学系不要論が議論されていたことを覚えています。学系会議も2ヶ月に1回程度で十分でした。研究科所属になったということで、他の国立大学と肩を並べたと感じられている先生方も多いのではないかと思います。それでも形式的には学系と学系長も残っているようですが、法人化とともに「実質的」という修飾語もいずれ不要になるのではと推察しております。これまでしばしば議論されていた組織の簡素化に、ようやく手がつけられ始めたのかな、と感じました。

私にとって社会工学系の最大のメリットは人材の多様性でした。文系から理工系にわたった多彩な研究者と触れ合うことができ、他分野のセミナーにも自由に参加できたことでした。学系が実質的機能を失い、また将来廃止されたとしても、互いの触れ合いと研究交流の自由な雰囲気がこれまで以上に高まり、人材の多様性が生かされるようになればよいと期待しております。

社会工学系を振り返って

谷村秀彦 (1998年度 学系長)

教官の所属が研究科となり、学系が実質的な機能を失うということを聞いて、新構想大学としての筑波大学が終わったのだと感じました。思えば、学系は新構想大学の目玉でした。これまでの大学の諸問題の根源は講座制と学部自治にあるという新構想の分析を具体的な形にした制度が学系でした。筑波大学に赴任することになって初代の学系長、宍戸駿太郎先生と日本工業倶楽部で初めてお会いしたとき、先生がこの点を熱っぽく話して下さったことを覚えています。当時の世界は、米ソ対立の冷戦が熾烈を極めていました。この中で、社会工学系のひとつの使命は、市場経済の優位性を計量的に示し、新しい社会科学のあり方を実践することだったと言ってもよいでしょう。このころの社会工学系には使命感がありました。しかし、いわゆる大学院重点化が始まると、筑波大学の学系制度が問題点として浮上りました。大学院重点化が、教官の所属を学部から大学院に移すことであるのに、筑波大学では教官はどちらにも所属していなかったからです。学系とそれまでの小研究科を統合してそこに教官を所属させ、小研究科を束ねて研究科群をつくって部局化するという案を当時の企画調査室では検討していました。その後、執行部が代わり、大研究科構想が実現した時点で学系の歴史的役割は実質的に終わっていたと思われます。筑波大学の新構想が、大学院重点化と大学の法人化という新しい時代の流れに翻弄されたという印象はぬぐえませんが、スクラップ・アンド・ビルドはよい事だと割り切って、学系の終わりを拍手をもって見送りたいと思います。

社会工学系を振り返って

腰塚武志 (1999年度 学系長)

季節はずれの激しい雷雨があった10月のことであった。初期の頃とは大違いで、既に学系会議は年に3回開くだけで、学系長の主な仕事は、会議に関する限り毎月人事懇談会を開くことであった。

いつも学系長秘書役の事務官が、人事懇談会の出席数が2/3を割らないように注意してくれて

いたのだが、その日はそんなに困らない状況にあり、私も出欠予定の報告を受けて安心していただけだった。

ところが、激しい雷で電車が遅れているという報からおかしくなり、定刻になっても、とうとう一人足りないという状況に追い込まれた。出欠表を眺めると、それでもぎりぎり間に合うはずであった。しかし電話で連絡しても一人が行方不明のまま、とうとう不成立で解散となってしまった。後になって、その人は雷が激しくなったので帰ったのだという。よほど雷に恐怖をお持ちだったのだろうか。

社会工学系の外部評価

高木英明 (2000-2001 年度 学系長)

社会工学系は、1975年4月の発足以来、社会問題を理工学的手法により研究するという共通項をもった研究者集団として結束を保ってきた。しかし、研究対象が、経済、経営、都市・地域、国際関係等の多岐に渡るためか、最後まで、外部からは分かりにくい組織であった。そのような状況を、我々自身が認識しようと、私は、学系長在任時の最後に、筑波地区について、2002年度の「外部評価」を企画し、大学本部に申請した。しかし、2002年4月に副学長となって学系を離れたあと、学系教員会議で外部評価の辞退が決議されたのは、誠に残念であった。いかなる組織も、長期に渡って輝き続けることは難しい。民間会社なら、組織の疲弊は営業成績の低下として現れるので、存亡を賭けて組織改革がなされる。しかし、大学のような公的組織では、意識的に外部評価を受けて自己改革することが、組織の持続的発展には不可欠であるし、納税者への義務でもある。今後は、これまでの学系の役割を大学院研究科の専攻が担うが、研究科長・専攻長のリーダーシップに期待したい。

流動性の高さ

橋本昭洋 (2002-2003 年度 学系長)

研究者組織としての社会工学系を振り返ってみると、流動性が非常に高い組織であったことがあげられる。

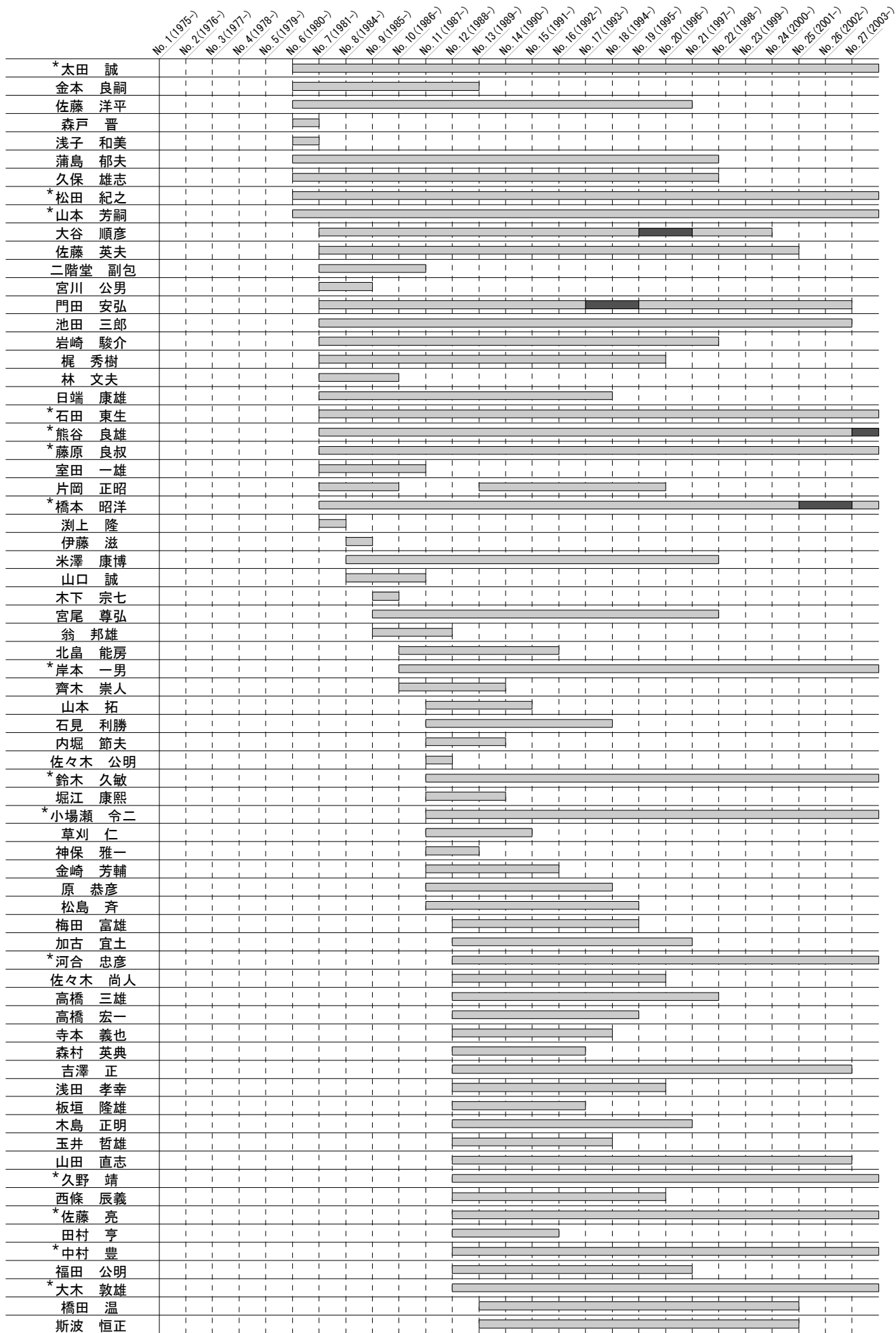
組織の活性化のために流動性は高い方がよいとされるが、社会工学系の場合は高過ぎたきらいがある。人事が活発であったのは、転出者の補充のためにやむを得ぬ面が多く、結果として、外部に社会工学系在籍経験のある研究者を多数供給することとなった。学生の場合も同様で、社工関連教育組織出身の研究者は現在かなりの数に達したと思われるが、その殆どは外部に在る。社会工学系の場合、後継者育成の面からも、もう少し多くの内部出身者がいてもよかったと思える。

社会工学系はこの3月で、研究者の所属組織としての幕を下ろしてしまった。しかし新しい所属組織になっても、これからは流動性に優先して研究者の確保育成に向かうべきと考えている。

V-2 旧・現職教員リスト

(教授, 助教授, 講師, 助手)

	No. 1(1975-)	No. 2(1976-)	No. 3(1977-)	No. 4(1978-)	No. 5(1979-)	No. 6(1980-)	No. 7(1981-)	No. 8(1984-)	No. 9(1985-)	No. 10(1986-)	No. 11(1987-)	No. 12(1988-)	No. 13(1989-)	No. 14(1990-)	No. 15(1991-)	No. 16(1992-)	No. 17(1993-)	No. 18(1994-)	No. 19(1995-)	No. 20(1996-)	No. 21(1997-)	No. 22(1998-)	No. 23(1999-)	No. 24(2000-)	No. 25(2001-)	No. 26(2002-)	No. 27(2003-)
央戸 駿太郎																											
福地 崇生																											
目良 浩一																											
渡辺 浩																											
*大西 治男																											
丹羽 富士雄																											
和合 肇																											
厚見 博																											
碓氷 尊																											
倉谷 好郎																											
小島 重次																											
司馬 正次																											
丸山 義皓																											
江藤 肇																											
佐々木 康三																											
若林 時郎																											
細野 昭雄																											
河野 博忠																											
坂倉 省吾																											
佐々波 秀彦																											
穂鷹 良介																											
山田 圭一																											
鶴野 公郎																											
*腰塚 武志																											
高島 忠																											
谷村 秀彦																											
西村 彰一																											
松原 望																											
安田 八十五																											
岡部 篤行																											
*金子 守																											
*黒田 誼																											
松川 滋																											
横山 久																											
市川 洋																											
川手 昭二																											
高橋 馨郎																											
*生田 誠三																											
加藤 栄一																											
楠本 捷一朗																											
黒川 洸																											
田島 學																											
小田切 宏之																											
小栗 幸夫																											
星野 克美																											
吉川 博也																											
佐藤 英人																											
林 亜夫																											
坂下 昇																											
柴川 林也																											
霜 弘太郎																											
高柳 暁																											
滝沢 健三																											
大橋 勇雄																											
小口 登良																											
黒田 巖																											
逆瀬川 浩孝																											
藤重 悟																											
小泉 允罔																											
*野上 佳子																											
伴 金美																											
田淵 隆俊																											
福井 清一																											
栗林 世																											
戸田 泰																											
豊田 俊雄																											
宮田 満																											
我妻 洋																											
渡部 與四郎																											
池田 秀人																											



★ 現職教員 在職期間 学系長職期間

	No. 1(1975-)	No. 2(1976-)	No. 3(1977-)	No. 4(1978-)	No. 5(1979-)	No. 6(1980-)	No. 7(1981-)	No. 8(1984-)	No. 9(1985-)	No. 10(1986-)	No. 11(1987-)	No. 12(1988-)	No. 13(1989-)	No. 14(1990-)	No. 15(1991-)	No. 16(1992-)	No. 17(1993-)	No. 18(1994-)	No. 19(1995-)	No. 20(1996-)	No. 21(1997-)	No. 22(1998-)	No. 23(1999-)	No. 24(2000-)	No. 25(2001-)	No. 26(2002-)	No. 27(2003-)
楠見 孝																											
* 寺野 隆雄																											
Kang Heum Yon																											
* 石井 健一																											
Ranko Radovic																											
Thomas Reiner																											
鈴木 伸一																											
大野 健一																											
鹿野 嘉昭																											
赤根谷 達雄																											
* 大澤 義明																											
* 金澤 雄一郎																											
岸本 直樹																											
* 吉瀬 章子																											
白川 浩																											
*Turnbull,Stephen John																											
竹村 和久																											
谷口 守																											
戸田 裕之																											
* 西尾 チヅル																											
早坂 和																											
森島 隆晴																											
Saavedra Rivano, Neanto																											
* 太田 充																											
鄭 小平																											
吉田 敏弘																											
* 高木 英明																											
* 星野 靖雄																											
大野 栄治																											
大橋 和彦																											
曾根 昭夫																											
* 竹原 均																											
* 藤川 昌樹																											
山田 真裕																											
* 大村 謙二郎																											
齋藤 浩																											
福井 治弘																											
* 古川 俊一																											
松井 彰彦																											
* 吉田 雅敏																											
吉川 肇子																											
* 渡辺 俊																											
木村 雄偉																											
松本 正雄																											
* 高橋 正文																											
Henrich R.Greve																											
* 庄司 功																											
* 鈴木 秀男																											
* 鈴木 勉																											
畳谷 整克																											
* 渡辺 真一郎																											
石生 義人																											
上田 貴子																											
寺尾 建																											
Robin E Sowden																											
* 土井 正幸																											
梶井 厚志																											
* 猿渡 康文																											
* 椿 広計																											
加藤 毅																											
* 繁野 麻衣子																											
* Ilic 佐藤 美佳																											
* 張 勇兵																											
古屋 秀樹																											
* 吉野 邦彦																											
* 小倉 昇																											
* 香田 正人																											
早川 弘晃																											
* 津田 和彦																											
* 永井 裕久																											

★ 現職教員 在職期間 学系長職期間

	No. 1 (1975-)	No. 2 (1976-)	No. 3 (1977-)	No. 4 (1978-)	No. 5 (1979-)	No. 6 (1980-)	No. 7 (1981-)	No. 8 (1984-)	No. 9 (1985-)	No. 10 (1986-)	No. 11 (1987-)	No. 12 (1988-)	No. 13 (1989-)	No. 14 (1990-)	No. 15 (1991-)	No. 16 (1992-)	No. 17 (1993-)	No. 18 (1994-)	No. 19 (1995-)	No. 20 (1996-)	No. 21 (1997-)	No. 22 (1998-)	No. 23 (1999-)	No. 24 (2000-)	No. 25 (2001-)	No. 26 (2002-)	No. 27 (2003-)
* 牧本 直樹																											
* 横張 真																											
李 明宰																											
Henry Osadolor Aigbedo																											
祝迫 得夫																											
* Miao Ying																											
孫 寧																											
菊本 虔																											
松尾 博文																											
* 大澤 幸生																											
金 顕哲																											
* 徐 華																											
宇井 貴志																											
* 岡本 直久																											
* 吉田 友彦																											
安藤 和敏																											
坂本 淳二																											
Asikhia, Monday Ohi Ehi																											
岩城 秀樹																											
小林 信一																											
* 川邊 みどり																											
姜 晟振																											
* 近藤 文代																											
* 糸井川 栄一																											
* 吉田 あつし																											
川勝 浩之																											
高崎 善人																											
* 江口 匡太																											
* 後藤 順哉																											
Tiwari, K. Piyush																											
藤原 博彦																											
* 三橋 平																											
* 村尾 修																											
* 山鹿 久木																											
* 加藤 英明																											
木下 大志																											
* 住田 潮																											
* 宮越 龍義																											
* 吉田 健一																											
* 桑嶋 健一																											
飛田 史和																											
* 山田 雄二																											
* 秋山 英三																											
* 有田 智一																											
小野 哲生																											
* 金田 直之																											
* 八森 正泰																											
八重倉 孝																											
* 新谷 由紀子																											
* 焼田 党																											
吉武 博通																											
川崎 泰史																											
* 白波瀬 佐和子																											
* 堤 盛人																											
* 藤井 英次																											
* 上市 秀雄																											
* 大久保 正勝																											
川口 大司																											
* 斎尾 直子																											
* 水野 誠																											
* 柳原 宏和																											
* 吉田 謙太郎																											
* 領家 美奈																											
梅沢 正史																											
大津 晶																											
* 永易 淳																											
* 河端 瑞貴																											
* 原田 信行																											

* 現職教員

■ 在職期間

■ 学系長職期間

ANNUAL REPORT 2003 – 2004 No.27

2004年12月発行

発行 筑波大学 社会工学系 総務委員会

〒305-8573 茨城県つくば市天王台 1-1-1

TEL 029-853-5182

FAX 029-855-3849

表紙	第三学群前水路計画図 「筑波大学の施設・環境計画」筑波大学施設部, S57.4 報告書より
裏表紙写真	齋藤さだむ（2004年6月29日撮影）
中表紙写真	I章 筑波大学施設部, II～V章 斎尾直子

